

# 緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集

Vol. 11



森づくり県民大作戦支援事業  
(公財) 静岡県グリーンバンク (静岡県藤枝市)



## はじめに

昭和 63 年に 3 月に「緑と水の森林基金」が創設されてから、33 年余の歳月が経過しました。平成 23 年 7 月には、機構の組織が社団法人から公益社団法人に変更となったことに伴い「緑と水の森林基金」は「緑と水の森林ファンド」に名称を変更し、ファンドの運用収入を活用して森林資源の整備や水源かん養等の課題を中心に、「国民参加の森林づくり運動」推進のため幅広い事業を展開してまいりました。

平成 24 年 12 月「国際森林デー」の制定、平成 25 年 11 月「国連持続可能な開発のための教育 10 年 (ESD)」世界会議等の意義、さらに平成 27 年 9 月の国連サミットで採択された 17 の国際目標 (SDGs: 持続可能な開発目標) を念頭に、森林の重要性に対する理解の推進を図るとともに、森の幼稚園など新たな森林の利用や森林環境教育の推進を具体的に図っていくことが重要となっています。さらに、東日本大震災では海岸林が多大な被害を受け、森林復興への支援が引き続き求められています。

このような中で、当事業は、「国民参加の森林づくり」の一層の推進のための普及啓発、森林ボランティア活動への支援、森林環境教育を通じた次世代の育成などの課題を重点に、実施主体により中央事業、都道府県事業、公募事業の 3 つに区分し実施してまいりました。

本報告書は、このうち都道府県事業 (令和 3 年度) (令和 2 年度・事業期間延長分) の成果を報告集として取りまとめたもので、事業内容は多種多様な課題にわたっております。ご高覧いただき皆様の活動の一助としてご活用いただければ幸いです。

終わりに、本冊子のとりまとめに当たりまして、ご協力いただきました皆様方に心から御礼申し上げます。

令和 5 年 6 月

公益社団法人 国土緑化推進機構

## 緑と水の森林基金・ファンド 刊行物一覧

- 「緑と水の森林基金」事業事例集 21世紀へ引き継ぐ森林づくり 平成2年版 (1992.4)  
 「緑と水の森林基金」事業事例集 21世紀へ引き継ぐ森林づくり 平成3・4年版 (1994.8)  
 「緑と水の森林基金」事業事例集 21世紀へ引き継ぐ森林づくり 平成5・6年版 (1996.3)

- 緑と水の森林基金 公募事業 調査研究成果選集 VOL1 緑と水のサイエンス (1996.8)  
 緑と水の森林基金 公募事業 調査研究成果選集 VOL2 緑と水のサイエンス (2001.7)  
 緑と水の森林基金 公募事業 調査研究成果選集 VOL3 緑と水のサイエンス (2004.6)  
 緑と水の森林基金 公募事業 調査研究成果選集 VOL4 緑と水のサイエンス (2007.8)  
 緑と水の森林基金 公募事業 調査研究成果選集 VOL5 緑と水のサイエンス (2009.5)  
 緑と水の森林基金 公募事業 調査研究成果選集 VOL6 緑と水のサイエンス (2010.4)

- 緑と水の森林基金 緑と水の森林基金公募事業報告集 VOL1 (2011. 3)  
 緑と水の森林基金 緑と水の森林基金公募事業報告集 VOL2 (2012. 3)  
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド公募事業報告集 VOL3 (2012.12)  
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド公募事業報告集 VOL4 (2013.12)  
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド公募事業報告集 VOL5 (2015. 3)  
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド公募事業報告集 VOL6 (2016. 2)  
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド公募事業報告集 VOL7 (2017. 2)  
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド公募事業報告集 VOL8 (2018. 2)  
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド公募事業報告集 VOL9 (2019. 2)  
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド公募事業報告集 VOL10 (2020. 2)  
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド公募事業報告集 VOL11 (2021. 2)  
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド公募事業報告集 VOL12 (2022. 3)  
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド公募事業報告集 VOL13 (2023. 6)

- 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集 VOL1 (2013. 3)  
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集 VOL2 (2013.12)  
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集 VOL3 (2014.12)  
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集 VOL4 (2016. 2)  
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集 VOL5 (2017. 2)  
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集 VOL6 (2018. 2)  
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集 VOL7 (2019. 2)  
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集 VOL8 (2020. 2)  
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集 VOL9 (2021. 2)  
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集 VOL10 (2022. 3)  
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集 VOL11 (2023. 6)

# 目次

## 北海道森と緑の会

青少年育成事業 (A-1) .....	9
「美遊の森」体験活動事業 (A-3) .....	9
きのご観察会 (A-4) .....	10
お魚殖やす植樹運動促進事業 (A-5) .....	10
野幌森林公園観察会 (A-6) .....	11
森林ボランティア活動推進事業 (A-8) .....	11
旭山希少種調査・保護 生物多様性保全事業 (A-9) .....	12
「羊蹄里山の森」における森づくり・森林空間利用事業 (A-10) .....	12
札幌市定山溪自然の村定山溪遊々の森を活用したプログラム (A-11) .....	13
野幌自然休養林再生事業を中心にした森林知識の普及啓発活動 (A-12) .....	13
次世代に引き継ぐ森林づくり事業 (A-13) .....	14
北海道指導林家社会貢献緑化推進事業 (A-14) .....	15
町有林・げんきの森育樹事業 (A-15) .....	15
身近な森林再発見 (A-16) .....	16
緑と水の森林ファンド事業、木育講座 (A-17) .....	16
木育フェスタ in 厚沢部 (A-18) .....	17
木材に親しみ、森林認証を知る (A-19) .....	17
森と人をつなぐ事業 (A-21) .....	18
「望の森」森林浴の集い (A-22) .....	18
生物多様性の保全を目指したオホーツクの森づくり事業 (A-24) .....	19
緑の少年団なかしべつ冒険クラブ事業 (A-25) .....	19
☆森林環境教育推進事業 (A-26) .....	20
木育ひろば in チ・カ・ホ (A-27) .....	20
北海道木育フェスタ推進事業 (A-28) .....	21
道民森づくりの集い 2021 (A-29) .....	21
☆森林・林業・木材産業の魅力発信事業 (新規) (A-30) .....	22
木材の有効利用のための燻煙乾燥炉の開発 (B-1) .....	22
環境に配慮した作業道開設研修事業 (B-2) .....	23
馬追自然の森整備事業 (C-1) .....	23
里見緑地内植樹・環境整備事業 (C-2) .....	24
台風被災森林の植栽及び育林活動 (C-3) .....	25
恵庭かわまちづくり植栽事業 (C-4) .....	26
「ふるさと復興の森づくり@厚真町」事業 (C-6) .....	26
地球環境のための森林保全事業 (C-7) .....	27
馬と森づくり事業 (C-9) .....	28
新ひだか町営林友の会森林づくり事業 (C-10) .....	28
「おさかなの森づくり運動」(C-11) .....	29
五稜郭保安林清掃事業 (C-12) .....	29
赤岩青巖狭環境整備事業 (C-14) .....	30
ユネスコの森づくり (C-15) .....	30
風倒被害を軽減し野幌の自然豊かな森づくり (C-16) .....	31
「帯広の森」づくり事業 (C-17) .....	31
帯広の森・カーボンニュートラル促進事業 (C-18) .....	32
森は海の恋人植樹事業 (C-19) .....	32
☆十勝・桜の山プロジェクト (C-20) .....	33
学校緑化事業 (C-21) .....	33

<b>青森県緑化推進委員会</b>	
青森県森林づくり推進体験学習活動事業 (A-29) .....	34
木と人とのふれあい事業 (A-30) .....	34
<b>岩手県緑化推進委員会</b>	
令和4年度遠野市緑化祭『里山フェスタ2022』(A-31) .....	35
城内山健康の森事業 (A-32) .....	35
一関地方育樹祭 (A-33) .....	36
ふるさとの巨樹・名木観察会 (A-34) .....	36
第52回岩手県緑の少年団大会 (A-35) .....	37
<b>宮城県緑化推進委員会</b>	
宮城県みどりの少年団大会開催事業 (C-21) .....	38
<b>秋田県緑化推進委員会</b>	
緑と水のキャンペーン事業 (A-36) .....	39
市民グループ森林づくり事業 (A-37) .....	39
緑の少年団育成事業 (C-22) .....	40
森林活動指導者支援事業 (C-23) .....	40
<b>やまがた森林と緑の推進機構</b>	
山形県緑の少年団育成事業支援事業 (A-38) .....	41
森づくりと緑化推進普及啓発事業 (A-39) .....	41
庄内森とみどりのフェスティバル開催事業 (A-40) .....	42
<b>福島県森林・林業・緑化協会</b>	
緑化普及啓発事業(第30回緑の提言・作文コンクール)(A-41) .....	43
森林・林業とのふれあい事業(第46回福島県林業祭)(A-42) .....	43
ファミリー緑の教室の開催事業 (A-43) .....	44
ふくしま緑の醸成事業 (A-44) .....	44
都市と農村の交流事業(第34回ふくしま緑の百景歩こう会)(C-24) .....	45
<b>茨城県緑化推進機構</b>	
青少年に対する林業普及啓発資材の配布事業 (A-46) .....	46
緑の体験教室開催事業 (A-47) .....	46
グリーンフェスティバル開催事業 (A-48) .....	47
森林ボランティア育成事業 (C-25) .....	47
山村地域づくり活動助成事業 (C-26) .....	48
緑化樹木等苗木無償配布事業 (C-27) .....	48
<b>とちぎ環境・みどり推進機構</b>	
森林・緑・水に対する国民の認識を深めるための普及啓発事業 (A-49) .....	49
青少年の教育の場としての森林の活用促進事業 (C-28) .....	49
<b>群馬県緑化推進委員会</b>	
群馬県植樹祭開催 (A-50) .....	50
「木育」活動促進事業 (A-51) .....	50
巨樹・古木巡りツアー事業 (A-52) .....	51
緑の少年団活動活性化事業 (A-53) .....	51
<b>埼玉県緑化推進委員会</b>	
さいたま森林フォトコンテスト事業 (A-54) .....	52
緑の少年団活動支援事業 (A-55) .....	52
緑化普及啓発事業 (A-56) .....	53
<b>千葉県緑化推進委員会</b>	
木づかい推進・普及啓発事業 (A-57) .....	54
森林・林業技術講習会 (A-58) .....	54
第41回千葉県みどりの少年団交流集会 (C-29) .....	55

<b>東京都農林水産振興財団</b>	
ふるさとの杜活力調査事業 (B-3) .....	56
<b>にいがた緑の百年物語緑化推進委員会</b>	
普及啓発 卒寿の森づくり事業 (A-59) .....	57
「にいがた緑の百年物語」普及啓発事業 (秋期) (A-60) .....	57
「にいがた緑の百年物語」普及啓発事業 (春期) (A-61) .....	58
緑化団体活動周知・地理情報活用事業 (A-62) .....	58
<b>とやま緑化推進機構</b>	
森林・木材等普及啓発事業 (A-63) .....	59
花とみどりの少年団活動支援事業 (C-30) .....	59
森づくりグループ活動支援事業 (C-31) .....	60
<b>石川県緑化推進委員会</b>	
緑化思想の普及啓発事業 (A-64) .....	61
県内産緑化苗木無償配布事業 (C-32) .....	61
森づくりボランティア・キャンペーン事業 (C-33) .....	62
<b>福井県緑化推進委員会</b>	
もりとふれあい推進事業 (普及啓発事業) (A-65) .....	63
ふくい森林づくり推進事業 (活動基盤の整備) (C-34) .....	63
<b>山梨県緑化推進機構</b>	
普及啓発事業 教職員森林・林業研修 (A-66) .....	64
普及啓発事業 緑の少年隊活動発表会大会開催 (A-67) .....	64
普及啓発事業 緑化ポスターコンクール等開催 (A-68) .....	65
普及啓発事業 子ども樹木博士認定事業 (A-69) .....	65
普及啓発事業 親子緑の集い (A-70) .....	66
普及啓発事業 親子森林・林業体験教室開催事業 (A-71) .....	66
普及啓発事業 森林環境教育プログラム発刊事業 (A-72) .....	67
<b>長野県緑の基金</b>	
緑・森林の感謝祭等開催事業及び児童啓発事業 (A-73) .....	68
<b>岐阜県緑化推進委員会</b>	
緑化推進キャンペーンと資材供給事業 (A-74) .....	69
恵みの森づくり事業 (C-35) .....	69
<b>静岡県グリーンバンク</b>	
森づくり県民大作戦支援事業 (A-76) .....	70
静岡県緑の少年団交流集会開催事業 (C-36) .....	70
<b>愛知県緑化推進委員会</b>	
普及啓発 みどりに親しむ集い事業 (A-77) .....	71
みどりフェスティバル21秋・22春事業 (A-78) .....	71
苗木の育成と配布事業 (A-79) .....	72
ふるさと樹木診断事業 (B-4) .....	72
森林ボランティア養成事業 (C-37) .....	73
<b>三重県緑化推進協会</b>	
みどりの少年隊活動推進 (A-80) .....	74
森林教室開催 (A-81) .....	74
森林ボランティア活動促進 (A-82) .....	75
県民参加の森づくり運動推進 (巨樹・古木見学会、クマノザクラ観察会) (A-83) .....	75
海・山連携植樹活動実施 (A-83, 1) .....	76
<b>滋賀県緑化推進会</b>	
緑の少年団育成強化事業 (C-38) .....	77

<b>京都モデルフォレスト協会</b>	
京都モデルフォレスト運動連携強化事業 (A-84) .....	78
<b>大阪みどりのトラスト協会</b>	
自然環境保全団体ネットワーク事業 (A-85) .....	79
府民参加の森林づくり (A-86) .....	79
<b>兵庫県緑化推進協会</b>	
地域緑化イベント開催事業 (A-87) .....	80
森林整備・緑化活動支援事業 (C-39) .....	80
<b>奈良県緑化推進協会</b>	
森の文化活動事業 (A-88) .....	81
ボランティア緑化活動事業 (C-40) .....	81
<b>和歌山県緑化推進会</b>	
青少年を対象とする森林E S Dの推進など森林環境教育の促進事業 (A-89) .....	82
森林ボランティアリーダーの養成・ネットワーク構築等の活動支援事業 (C-41) .....	82
<b>鳥取県緑化推進委員会</b>	
「樹名板設置事業」(A-90) .....	83
「木工工作キット配布事業」(A-91) .....	83
「森林空間活用推進事業」(C-43) .....	84
<b>島根県緑化推進委員会</b>	
「森の誕生日」2022 事業 (A-92) .....	85
緑の少年団育成強化事業 (C-44) .....	86
<b>岡山県木材組合連合会</b>	
県産木材フェア開催事業 (A-94) .....	87
<b>くらしき都市緑化フェア実行委員会</b>	
第37回くらしき都市緑化フェア (A-95) .....	87
<b>岡山県緑化推進協会</b>	
緑化普及推進事業 (C-45) .....	88
<b>広島県みどり推進機構</b>	
「みどりの集い」開催事業 (A-96) .....	89
<b>広島県木材組合連合会</b>	
ひろもくデザインアワード開催事業 (A-97) .....	89
<b>広島県みどり推進機構</b>	
緑の少年団交流集会開催事業 (C-46) .....	90
<b>やまぐち農林振興公社</b>	
森林体験学習支援事業 (A-98) .....	91
都市と山村ふれあい交流促進事業 (C-47) .....	91
記念の森造成事業 (C-48) .....	92
<b>徳島森林づくり推進機構</b>	
企業の森づくり普及啓発イベント (C-49) .....	93
<b>かがわ水と緑の財団</b>	
緑化普及活動事業 (A-99) .....	94
<b>愛媛の森林基金</b>	
木工作品製作キット配布事業 (A-100) .....	95
愛媛の森林友の会育成及び現地研修会開催事業 (A-101) .....	95
<b>高知県森と緑の会</b>	
土佐の名所の樹木活性化事業 (A-102) .....	96
森のようちえん推進事業 (A-103) .....	96
森の魅力普及啓発事業 (A-104) .....	97
高知県森林インストラクター養成講座 (A-105) .....	97



地域の森林整備事業 (C-50) .....	98
活動基盤整備推進事業 (C-51) .....	98
<b>福岡県立四王寺県民の森協議会</b>	
森林ふれあい交流事業 (A-106) .....	99
<b>福岡県水源の森基金</b>	
グリーンフェスティバル 2022 (A-107) .....	100
第31回世界子ども愛樹祭コンクール (A-108) .....	100
<b>伊都国の森づくりの会</b>	
第9回もりもり広がる森林づくり (A-109) .....	101
<b>福岡県水源の森基金</b>	
花立山の里山保全作業 (A-110) .....	101
宝珠山百年の森づくり記念植樹 (A-111) .....	102
里まちサイクルプロジェクト (C-52) .....	102
<b>さが緑の基金</b>	
よかウツドフェスタ (A-112) .....	103
緑の探検学習会 (C-53) .....	103
<b>長崎県緑化推進協会</b>	
森林のつどい事業 (A-113) .....	104
緑の少年団活動活性化事業 (C-54) .....	104
<b>熊本県緑化推進委員会</b>	
くまもと森づくり普及・啓発事業 (A-114) .....	105
緑の少年団活動育成事業 (C-56) .....	105
シンボル森林の活用促進事業 (C-57) .....	106
シンボル森林の活用促進事業 (C-57-1) .....	107
<b>森林ネットおおいた</b>	
ふれあい森林教室 (A-115) .....	108
大分県農林水産祭林業部門(木と暮らしのフェア) (A-116) .....	108
大分県みどりの少年団のつどい (A-117) .....	109
名木保全事業 (B-5) .....	109
森林ボランティア養成研修 (C-58) .....	110
<b>宮崎県緑化推進機構</b>	
緑と花のふれあい推進事業 (A-118) .....	111
森林浴癒しの集い事業 (A-119) .....	111
<b>かごしまみどりの基金</b>	
かごしまの緑・元気な森林体験事業 (A-120) .....	112
かごしまの名木古木樹勢診断事業 (B-6) .....	113
活力のある緑の少年団活動促進事業 (C-59) .....	114
森林ボランティア活動促進事業 (C-60) .....	114
<b>沖縄県緑化推進委員会</b>	
令和3年度 緑の育樹祭開催事業 (A-121) .....	115
学校環境特別事業 (A-122) .....	115

## 令和2年度・事業期間延長分

### 北海道森と緑の会

森林公園観察会 (A-10) .....	118
持続発展教育 (ESD) に向けた木育の取組 (A-13) .....	118
身近な森林再発見 (A-16) .....	119
里山保全の担い手づくり普及促進事業 (A-17) .....	119
緑の探検隊自然探勝会「市民参加による協働の森づくり事業」普及啓発事業 (A-22) .....	120
森林を活用した青少年育成対策事業 (A-26) .....	120
森林及び木製遊具体験事業 (A-27) .....	121
緑化団体ネットワーク推進事業 (A-30) .....	121
北海道木育フェスタ推進事業 (A-33) .....	122
清流と魚を守る森林 (もり) づくり造成事業 (C-2) .....	122
未来に向かって日高の森林づくり事業 (C-12) .....	123

### 岩手県緑化推進委員会

木工・クラフト体験 (A-38) .....	123
------------------------	-----

### 福島県森林・林業・緑化協会

都市と農村の交流事業 (第3 3回ふくしま緑の百景歩こう会) (C-27) .....	124
---	-----

### 群馬県緑化推進委員会

群馬県植樹祭開催 (A-54) .....	124
「木育」活動促進事業 (A-55-1) .....	125

### 長野県緑の基金

緑・森林の感謝祭等開催事業及び児童啓発事業 (A-78) .....	125
------------------------------------	-----

### 岐阜県緑化推進委員会

みどりの啓蒙推進事業 (A-80) .....	126
-------------------------	-----

### 京都モデルフォレスト協会

京都モデルフォレスト運動連携強化事業 (A-91) .....	126
---------------------------------	-----

### 兵庫県緑化推進協会

地域緑化イベント開催事業 (A-95) .....	127
---------------------------	-----

### 島根県緑化推進委員会

「森の誕生日」2021 事業 (A-100) .....	127
------------------------------	-----

### もりもりクラブ

もりもりクラブ普及活動事業 (A-103) .....	128
-----------------------------	-----

### くらしき都市緑化フェア実行委員会

第3 6回くらしき都市緑化フェア (A-104) .....	128
--------------------------------	-----

### 岡山県緑化推進協会

緑化普及推進事業 (C-48) .....	129
-----------------------	-----

### 広島県みどり推進機構

「みどりの集い」開催事業 (A-105) .....	129
----------------------------	-----

### 高知県森と緑の会

森の魅力普及啓発事業 (A-113) .....	130
--------------------------	-----

### 福岡県水源の森基金

福岡県緑化センター 緑の環境教育 (A-117-1) .....	130
----------------------------------	-----

## 青少年育成事業（A-1）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

（学校緑化）

地域の核ともいえる市内小・中学校の環境緑化を実施し、児童生徒が花壇等を作成し世話をする中で、緑への理解と愛情を深めたもの。

（青空園芸教室）

市内小学生を対象に、北海道深川東高等学校において青空園芸教室を実施した。

園芸教室の内容は、高校生を講師として緑に関する知識を学び、自分で選んだ花苗と野菜苗で寄せ植えを作成し、緑への理解と愛情を深めたもの。

#### 2. 活動の成果

（学校緑化）

校内の花壇等を自ら植えて育てることによって、身近な緑を慈しむ心と自然の恵みに感謝する心を育て、これからの街づくりを担う子供たちへの緑化思想の普及となり、花と緑あふれる美しい環境づくりを推進できた。

（青空園芸教室）

今回の園芸教室を通して、花や野菜、木についての知識を身につけ、自ら植えて育てることによって、身近な緑を慈しむ心と自然の恵みに感謝する心を育て、これからの街づくりを担う子供たちへの緑化思想の普及となり、花と緑あふれる美しい環境づくりの推進に貢献した。

#### 3. 参加者の声

（学校緑化）

参加者は、緑の大切さを学び、緑への関心を高めたようであった。育てる喜びを知り、緑の街づくりへの意欲を感じられた。

（青空園芸教室）

参加者は、緑の大切さを学び、緑の知識をより多く得たいと思ってくれたようであった。高校生との交流の中で、緑を育てる喜びを知り、緑の街づくりへの意欲を感じられた。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	5月27日～ 6月17日	6月9日～ 6月17日	6月14日～ 6月15日	6月23日	合計
事業量					
参加者数	210	42	55	21	328
実施場所	市内小中学校 (8校)	北海道深川東高等学校			

## 「美遊の森」体験活動事業（A-3）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

美唄市の国有防風林内において、子ども達に木や森との関わりについて学習する体験学習会を実施した。体験学習会の内容は、防風林の機能と役割についての講義と林内で木々の種類や昆虫などを題材にしたゲームや散策をしながら森と接する木育学習を行い、自然に触れる体験を通して、森林の大切さや自然への理解を深めてもらい子どもたちの豊かな心をはぐくむことを目的とした。

#### 2. 活動の成果

今回の学習会では、子ども達が木育マイスターの講義を熱心に聞き入り、遊びを通して木や森の役割を学ぶ機会を提供することができた。また、実際に林内に生息するカエルや昆虫に直に触れ、防風林内にて木育マイスターの話を聞きながら自然と触れることが出来た。子ども達にとって木育の専門家から話を聞くことで新たな視点で木や森について学ぶことができたと思う。

#### 3. 参加者の声

- ・地球環境を守っていく上で、森林の大切さを実感した。
- ・今日の自然に触れる体験を、兄弟たちにも体験して欲しいと思った。
- ・ちょっと寒かったけど、森の中を歩くのはすごく楽しかった。
- ・防風林が200mも田んぼを守っていると知って驚いた。
- ・森の中を探索するのが初めての体験で、面白かった。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	10月5日	計
事業量	午前中	
参加者数	54人	54人
実施場所	国有防風林内（美唄市開発町南）	

## きのこ観察会（A-4）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

イベント家族きのこ観察会、実施目的。

森林を大切にすることを心を持っていただきたく、ゴミ拾いをしながらのキノコ観察。

また、秋の実りであるキノコを安心、安全に食していただきたいので、毒キノコによる食中毒防止の目的もある。

9月26日に札幌市民を対象に旭山記念公園と旭山都市環境林においてきのこ観察会を実施予定でしたが、コロナによる緊急事態宣言が9月末迄延長になり、10月に延期とした。尚、旭山記念公園はクマ出没にて駐車場が閉鎖となり、森林内も制限されたので円山公園にて10月24日に実施した。

親子30名ほどが森林に入り、発生きのこを手にとり、それぞれ説明した。

林内での観察終了後は星野先生（農学博士）と小林先生（理化学博士）、岸谷美恵夫によるきのこの生態説明に美味を傾けていた。また今年度最後のゴミの収集を行った。

尚、今年はコロナ禍にて、きのこ汁無しで実施。

#### 2. 活動の成果

今回の観察会を通して、キノコをとりまく自然環境とキノコの形態と食・毒の見分け方などを学んだので、きのこ中毒防止となった。また料理方法などの説明をしたので美味しく食べていただける。

森林を育て、守ることの大切さを知り、森づくりに参加していただくきっかけとなった。森づくりへの普及効果が考えられる。

#### 3. 参加者の声

1. 都市中心に位置している身近な林内でも多くのきのこ発生に感嘆していた。
2. 食のきのこが意外と少ない事を知る。
3. 晩秋のエノキタケ、ムキタケの大量発生に充分満足した。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	10月24日	計
事業量	キノコ採取63種	
参加者数	30名	30名
実施場所	札幌市円山公園	

## お魚殖やす植樹運動促進事業（A-5）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

当別町「道民の森」において、北海道女性連をはじめ、全道各地より水産関係者や農業・林業関係者、消費者団体等66名が参加し、ミズナラ・イタヤカエデ・ニレ等、計500本を植樹した。

#### 2. 活動の成果

植樹を通じて、水産関係者だけでなく、農業・林業関係者や消費者団体等にも、植樹の大切さや森-川-海の繋がりについて理解を深めてもらえ、海洋環境の保護について様々な分野において認識を広められた。

人の集まる行事が敬遠されるコロナ禍において、水産関係者とこれ以外の業界団体との協力によって植樹事業の継続ができ、今後の森づくり活動に繋がられる実績を残すことができた。

#### 3. 参加者の声

2年ぶりによく集まって植樹することができた。海も気候も、環境が変わりゆく中で、何十年と継続している植樹活動は変わらず守りたい。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	5月26日	6月1日	合計
事業量	地拵え	植樹	
参加者数		66名	66名
実施場所	道民の森 神居尻地区「水源の森」		

## 野幌森林公園観察会（A-6）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

札幌近郊の一般市民を対象に札幌市から送迎バスを用意し、野幌森林公園モミジコース周辺の森林の成立ちと散策路周辺に生育する植物の多様な生き方を観察し、森林の有する諸機能の大切さ、重要性について普及啓蒙活動を実施した。

活動の実施に当たっては、事前に下見を行い、野幌森林公園の歴史、植物のたくましく多様な生存戦略を調べ、わかりやすい説明資料を作成し、参加者に配布し、当会ガイドと参加者と間で意見を交わしながら実施した。

## 2. 活動の成果

事前に下見し、説明資料を作成、配布したことによって、参加者の理解が得られ、森林の有する諸機能の大切さ、重要性について普及啓蒙に資する活動となったものと自己評価している。

## 3. 参加者の声

現地に行くまで車内で、配布資料の概略の説明があったのは有難かった。◇資料の内容が素人でも興味を引くように編集されていてとても参考になった。◇資料は16ページにわたっていたが、分かりやすかった。◇現地におけるガイドの説明も分かりやすかった。◇参加者の中に、かつて、大学演習林で現地で関わった経験者のひともおり、その人の感想や意見が興味を引いた。◇今回は6月で花の咲く時期が過ぎていた。出来れば5月の花の咲く時期に開催することを検討して欲しい。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	6/19	6/25	合計
事業量	下見	当日	
参加者数	9名	24名	33名
実施場所	野幌森林公園モミジコース		

## 森林ボランティア活動推進事業（A-8）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

令和3年度活動は、新型コロナウイルスの感染拡大により、活動拠点の道民の森が令和3年5月16日から6月20日まで及び8月15日から9月30日まで新型コロナ感染防止緊急事態宣言が発令されて臨時休園となり、この間のすべての支援活動及び当協会の自主事業は取り止めとなった。

また、6月21日から8月16日までの開園期間中は、札幌市と小樽市がまん延防止措置の重点区域に指定されてこれらの市町村と他の市町村の往来自粛の要請がされ、来園者も減少していた。

この中、指定管理者から要請のあった「親子でキャンプ」などの支援事業を感染防止を徹底して実施した。

10月に開園となると、札幌市及び石狩管内の小学校が宿泊研修に連日來園し、この一月で例年の並みの活動実績となった。森の観察会では森林ファンド事業の助成により作成した「森の観察ガイド」を観察時に配布し、北海道を代表する落葉広葉樹と針葉樹からなる天然林に生育する動植物の観察を通して、生存競争を生き抜く動植物の逞しさと共生する姿を体感してもらった。

## 2. 活動の成果

道民の森において「森の観察」及び小学校児童の森林環境学習時に森林の生い立ちとその大切さ、及び人と森との関わり合いについて解説し、理解を深めることができた。

また、水源の森ではトドマツ、ミズナラ等の郷土樹種の植樹指導を実施し、森林整備の大切さを実感していただいた。

さらに、道民の森の各種催事に参加し、森と触れ合うことによるやすらぎと楽しさ、森が人に与えてくれる役割の大切さを感じてもらったための支援活動を実施した。

春の植樹適期に閉園の影響もあり植樹活動は大幅に減となったが、短い開園期間であったが自然を求めて多くの来園者があり、活動に手応えはあったものと判断している。

## 3. 参加者の声

森の観察会の参加者からは森林に立ち入ることにより、森の中での生物間の生き残るための闘い、弱肉強食と食物連鎖、子孫を残すための知恵比べ、共存共栄の様子を観察し、森林の懐の深さと大きさを再認識していただいた。

樹木への愛情が生まれ、森林造成が地球温暖化の防止に役立つことを理解してもらうことができた。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	5月1日から10月31日まで	計
事業量	166人	
参加者数	166人	166人
実施場所	北海道当別町、月形町	

## 旭山希少種調査・保護 生物多様性保全事業（A-9）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

「学びの森」では、散策路を整備し日本アマガエルの観察ができるよう水槽を設置し、啓発看板を子供達が作りました。活動について多くの方々に興味を持ってもらうため、学びの森で、「体験型自然観察会」（月1回程度）や近隣小学校への環境教育支援を行いました。

保護活動と体験型自然観察会を連動させた継続的な活動、また、市民活動協議会の皆さんや町内会といった地域社会、学校との連携をはかる活動ができました。

## 2. 活動の成果

新型コロナウイルス感染予防や園内に熊が出没のため、公園が一時閉鎖されました。ご要望が多かったため、閉鎖期間中も、活動場所や日程を変更し観察会を開催しました。参加人数は概ね満員でした。また、近隣小学校への環境教育支援も実施することができました。1月には、生物多様性や希少種の保護について考える切っ掛けとして、熊の専門家からお話を伺いました。身近な事例でより親しみ深く学ぶ事ができました。

## 3. 参加者の声

観察会の参加者は団体構成員が主ですが、新規参加者も継続して参加してくれました。

- ・ チョットした工夫で生き物と共存できる事に驚いた。・ 円山川源流にアメマスがいて驚いた。・ 作った樹名板や看板が公園に飾られて嬉しい。・ 熊が公園に出た事によって、札幌市の街作りや人と熊との歴史を知る事ができた。治水工事など、人が環境に及ぼす影響力を感じた。（隊員）など、学びを深める事ができたという感想が多く寄せられました。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～5月（11回）	7月2日	5月31日	合計
事業量	自然観察会	現地学習	現地学習	13回
参加者数	150名	150名	150名	450名
実施場所	旭山記念公園その他	旭山記念公園	旭山記念公園	

## 「羊蹄里山の森」における森づくり・森林空間利用事業（A-10）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

持続可能な森林経営に向け新たな森林利用の方法を検討・実施し、その普及を図りながら森林の公益的機能が発揮できるように努めることを目的とし、京極町字錦にある「ようてい木育倶楽部所有林」において、次のことを実施した。

- ①森林散策&森林整備体験
- ②森林整備で切った木を使ったりしながらの木育体験
- ③森林所有者や自然環境系の方々との「森のディスカッション」
- ④シラカバ樹液紅茶&おやつ付き「森のカフェ」の開店
- ⑤手作り楽器を使い演奏する「森のコンサート」の開催

## 2. 活動の成果

1日で実施するにはメニューが多すぎて、さらに当日は不安定な天気となり、途中で雨に降られましたが、出演者、スタッフ、そして参加者の方々の力で、このイベントが無事に終了できたことに感謝しなければならないです。皆さんの主体的な行動がこのイベントを支えてくれました。

私有林においても、木材生産だけが森林の利用方法でないことは参加された皆さんに理解していただいたと思います。

全体を通した成果や各々のステージの結果は「顛末記」を参照してください。

## 3. 参加者の声

「1日ここで過ごせて良かった」「この森でワークショップをやりたい」「来年もやるんですね、絶対参加します！」など出演者もスタッフも参加者からも好意的な意見をいただき、森林の利用方法をさらに広げ、来年も実施したいと考えています。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	6月19日	合計
事業量	森カフェ&コンサート	
参加者数	35名	35名
実施場所	ようてい木育倶楽部所有林	

## 札幌市定山溪自然の村定山溪遊々の森を活用したプログラム（A-11）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

小学生親子向けの昆虫博士キャンプについては、倶知安風土館学芸員の小田桐亮氏、昆虫博士キャンプ中学生については北海道大学総合博物館教授の大原昌宏氏を招き、昆虫の種類や生態について伝えていただく事業を実施した。講師に協力いただいたことで、より専門的かつ満足度の高いプログラムの提供をすることができた。

定山溪遊々の森におけるヒグマ対策研修・森林環境教育に関わる安全管理研修については、講師として公益財団法人知床財団の職員を招き実施に向け調整を行っていたが、新型コロナウイルス感染症対策の緊急事態宣言延長をふまえて施設が休業となり、今年度については実施を見送った。中止になった事業に変えて、事業を安全に実施するための電気柵などの資材を購入し次年度へ備えた。

## 2. 活動の成果

昆虫博士キャンプでは、昆虫の暮らしや活動について学ぶ機会の提供を行った。季節ごとの特徴的な様子や採集方法について学びを深め、参加者自身での「発見」を促すことができた。すべての実施回で定員を大きく上回り、倍率が10倍を超える回もありニーズの高さを把握することができた。

昆虫博士キャンプ中学生では、より専門的な内容である「標本作成活動」など、研究者視点を踏まえた活動を実施した。また事業目的として、自然体験の提供のほか参加者が将来的な目標をもてる機会の提供ということもあり、研究者との関わりのなかで進路や将来についても考えるきっかけの提供をできた。

## 3. 参加者の声

## ・昆虫博士キャンプ

「スタッフ・講師ともに親切丁寧に対応していただいた。」

「講師の知識の多さにとてもびっくりしました。」

「街中ではあまり見ることのできない生物も見ることができ、感激でした。」

## ・昆虫博士キャンプ中学生

「はじめて標本を作り、とても楽しかった。」

「昆虫について話が盛り上がる友達をつくることができとても良かった」

「小学生向けのイベントは沢山ありますが、中学生向けはあまりないのでこれからも企画をお願いします。学校以外での活動はとても刺激的で、将来の進路のきっかけになると思います。（保護者アンケートより抜粋）」

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	7月25日	8月21日	10月31日	12月5日	計
事業量	昆虫博士キャンプ 中学生	昆虫博士キャンプ			
参加者数	9名	28名	44名	10名	91名
実施場所	定山溪自然の村・定山溪遊々の森				

## 野幌自然休養林再生事業を中心にした森林知識の普及啓発活動（A-12）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

野幌自然休養林にある捕植地で育成調査、下草狩り、ツルきり等の活動を行った。

次年度に向け、社会貢献の森活動に参画することとし、令和3年12月協定を結んだ。

創成川公園でのポット苗づくりは、計画団体（林野庁）の中止により活動中止。

道民の森での下草刈りと植樹は計画通り実施し、森林の重要性を体験した。

（今年初めて、実の採取、育成、植樹と一連の体験をした。）

森林教室は講師による森づくりの大切な役割と環境への影響、重要性について勉強しました。

## 2. 活動の成果

・200万都市の近くに「野幌自然休養林」「道民の森」があり、市民の憩いの場となっている一部に当会の活動の場が有ることが、会員の誇りとなっています。

・平成17年（2005）から続けていた野幌自然休養林での体験を踏まえ、次年度以降、社会貢献の森活動に参画することとした。

・令和2年10月ドングリの採取～ポットでの育成（10月～9月）～植樹（令和3年10月）と自前で実施、150本の植樹を実施しました。来年度に向けて再チャレンジ中）

・森林講演により、森林がレクリエーション機能だけでなく、地球温暖化防止や環境改善（大気浄化機能）に係わっていることを体験的学習し、充実感を味わった。

## 3. 参加者の声

・コロナ流行の中、仲間と一緒に作業できた事が嬉しかったです。

・無事故でコロナに感染することなく活動が終わりました。来年に期待しています。

・芽が出て、葉がでて、ドキドキする一年でした。

・私が育てたドングリ、来年会えるのが楽しみ。雪や動物に負けるな！

・今年植えた木が、20～50年後に大きく育ち、未来の人々の役に立つと思うと、感無量です。

・今年植えた苗木の生育状況が楽しみです。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	7月2日 7月12日 7月20日	10月4日 10月6日	11月10日	12月16日	計
事業量	・事前調査 ・下草刈り	・どんぐり拾いと栽培 ・下草刈りと植樹	事前調査	森林講座	7回
参加者数	33名	23名	2名	22名	80人
実施場所	道民の森、野幌森林公園	円山公園、道民の森	野幌森林公園	エルプラザ	

## 次世代に引き継ぐ森林づくり事業（A-13）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

- ・音更町において、地域住民（児童・生徒・親子）を対象に木工教室を開催し、森林・林業、木材利用に関する体験活動を実施した。
- ・置戸町において、地元中学生を対象とした植樹作業・間伐現場体験学習を開催し、森林づくりの体験活動を開催した。
- ・足寄町において、地域住民を対象に林地残材を活用したイベント「ウッドキャンドルナイト」を開催し、林業や森林について広く紹介し、理解を深めるイベントを実施した。
- ・森町において、きのこの植菌体験を開催し、植菌のほか「森林の役割」や「木の種類と特徴」等も解説し、森林・林業、木材の活用について普及啓発を行った。

## 2. 活動の成果

- ・木工教室を通じて、地域の木材に触れ親しむことで、森林・林業、木材利用について、理解促進を図ることができた。
- ・児童・生徒等が体験学習を通じて、森林の働きや森林づくりの方法等を学び、森林への関心を持つとともに森林の大切さや森林整備の重要性を理解してもらうことができた。
- ・ウッドキャンドルナイトを通じて、林業や森林について理解してもらい、自然環境の重要性を身近に感じてもらうことができた。
- ・きのこの植菌体験を通じて、森林の恵みに対する理解や林業・特用林産業への関心が高まると共に、林産物の供給など森林の公益的機能についての理解が深まった。

## 3. 参加者の声

- ・木工教室では、大人から子供まで楽しんで「釘を打つのが難しかったけど楽しかった」、「丸太切りが楽しかった」などの意見が多く好評であった。
- ・植樹作業では、「作業は大変だが楽しかった」「森林整備の重要性が理解できた」等の意見が多く、森林づくりに対する理解を深めていた。
- ・ウッドキャンドルナイトでは、「木のぬくもりが感じられ、癒やされた。」「林地残材の有効利用について理解できた。」との意見を得ることができた。
- ・きのこ植菌体験では「キノコ栽培にはどんな木が適しているのだろうか？」「キノコを上手に出させるにはどう管理したら良いのだろうか？」等の意見があり、参加者が体験を通して森林や木への興味を増していると感じられた。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	8月7日	10月27日	12月26日～3月31日	4月18日	合計
事業量	木工教室薪割り・丸太切り体験	林業体験活動（植樹0.65ha外）	林地残材を活用したツリーやウッドキャンドル等の見学。	きのこの植菌体験（しいたけほだ木100本、なめこ原木20個）	
参加者数	児童・生徒等40人	中学生・教諭等38人	地域住民等50人	児童・生徒等20人	148名
実施場所	音更町（十勝エコロジーパーク）	置戸町字川南	足寄町（あしよる銀河ホール21）	森町	



## 北海道指導林家社会貢献緑化推進事業（A-14）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

- ・中川町では、児童や地域住民を対象にクリスマスリースの材料採取を兼ねた枝打ち体験などの森林教室を実施し、森林の恵みを活用したクリスマスリースを製作した。指導林家は枝打ち作業の安全指導やリース作りの支援を行った。
- ・美深町では、幼児を対象に地元産のシラカンバを使ったクリスマスコースターを製作した。指導林家はコースター作りの支援を行った。
- ・八雲町では、一般町民や幼児・小学生を対象に森林内での植樹の機会を設定し、森林愛護及び環境緑化思想の普及や「人と、木や森とのかかわり」を主体的に考える豊かな心を育むための活動を実施した。

## 2. 活動の成果

- ・森林教室では、自ら枝打ち作業を行うことで森林づくりの大切さを学び、クリスマスリースの材料として無駄なく活用することで森林資源の循環利用について関心を高めることができた。製作したリースは各家庭に飾られ、参加者だけでなく家族等にも緑化思想の普及啓発を図ることができた。
- ・クリスマスコースター作りでは、楽しみながら地元の木材に触れることで幼いうちから木への親しみを育むことができた。製作したコースターは、施設のクリスマスツリーへの飾り付けを行い、来訪者等にも緑化思想の普及啓発を図ることができた。
- ・植樹活動では、森林愛護及び環境緑化思想の普及が図られ、森林に対する親しみや林業・木材産業への関心が高まるとともに、森林整備の必要性について理解が深まった。

## 3. 参加者の声

- ・森林教室では、初めて枝打ち作業を体験する参加者も多く「大変だけど楽しい!」、「林業の大変さや森林の大切さが分かった!」といった声が聞かれた。
- ・クリスマスリース作りでは、「身近な素材で作れるなんて贅沢!」、「もっと地元の森林を活用したい!」などの声が聞かれた。
- ・クリスマスコースター作りでは、「もっと作りたい!」という声が多く、とても好評だった。
- ・植樹活動では、指導林家のサポートを受けながら親子で楽しそうに植樹を行っていた。参加した子供たちは「木を植えるのが楽しい」、「栗拾いに来たい」などの感想を述べていた。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	令和3年12月6日	令和3年12月8日	令和3年12月15日	令和4年5月28日	合計
事業量	森林教室 (リース材料採取)	クリスマスリース 作り	クリスマスコースター 作り	八雲町植樹祭	
参加者数	小学生11名、 地域住民2名、 関係者5名	小学生11名、 地域住民2名、 関係者5名	幼児19名、 関係者8名	幼児2名、小学生4名、 地域住民等21名、 関係者18名	108人
実施場所	中川町3林班65小班	中川町 生涯学習センター ちゃいむ	美深町幼児センター	八雲町熊石泊川町	

## 町有林・げんきの森育樹事業（A-15）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

京極町字川西、町有林「げんきの森」で、樹齢15年のミズナラの通直な育成を目指すため、枝打ちを実施。会員である町内会長、みどりの少年団、林友会等により行われた。

「げんきの森」は、カラマツ林伐採跡地2.22haに平成19年度町有林整備事業によりha当たり2000本のミズナラを植林しており、現在まで様々な団体の助成事業により、保育がなされてきた。

## 2. 活動の成果

今回の育樹会は、新型コロナウイルス感染症予防のため、昨年に引き続き人数を縮小し、マスクを着用するなど感染対策を取り入れながらの開催となったため、一人一人が枝打ちを行う回数も増え、十分に作業を行うことができた。また、森林室や林友会の指導・補助により、みどりの少年団などの参加者も、枝打ちについて学ぶ事が出来た。

## 3. 参加者の声

例年参加している人が多かったが、みどりの少年団の子供達からは、森林について学びを深める良い機会になったなどの声があった。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	10月19日	10月24日	計
事業量	準備工事	育樹会	
参加者数		23名	23名
実施場所	町有林「げんきの森」		

## 身近な森林再発見（A-16）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

厚真環境保全林をはじめとする町内山林でのフィールド整備や自然散策会などを通じて、近隣の住民が気軽に森林に親しむことのできる入り口をつくり、引いて引いては自然環境や林業への興味関心を生む取り組みを行うことを目的として下記事業を行う。

- ①当事業のフィールドとして活用する厚真町環境保全林山林及び周辺山林の下草刈り及び支障木の伐採と整備を行った。
- ②厚真町立こども園つみきに通園する幼児に向けて、木育体験の一環として森林レクリエーション等の体験活動を行った。
- ③厚真町内山林において楷木を伐採し、参加者によってドリル穴をあけてシイタケ菌の植菌体験会を行った。

#### 2. 活動の成果

弊会が主な活動を行う北海道厚真町では森林面積の多くを占める立地にありながら、近年では平成30年北海道胆振東部地震で大規模な山林土砂災害が発生するなど、一般町民が森林を身近に感じる機会がより少なくなってしまうと考えられる。

そのような中で、幼児から林の中で体を動かす体験や、森林の中から恵みをいただくということを体験する活動は貴重であり、身の回りの森林や自然環境に親しみをもち事業になったと考えられる。

#### 3. 参加者の声

- ①「普段なかなか森の中で自由に遊ばせてあげることが出来ないが、自然の中で色々なものを見つけて楽しそうに遊んでくれてよかった」(30代参加保育者)
- ②「初めてシイタケの植菌を行った。キノコが本当に木から生えてくるんだというところを実際に体験することができて良かった」(30代参加者)

#### 実績報告とりまとめ表

実施時期	2022年6月	2022年6月	2022年6月	2022年6月	合計
事業量	下草刈り及び支障木整備	こども園自然体験プログラム	しいたけ植菌体験	下草刈り及びフィールド整備	
参加者数	2名	14名	12名	3名	31名
実施場所	厚真町山林				

## 緑と水の森林ファンド事業、木育講座（A-17）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

尾白内グランド（茅部郡森町尾白内町948）にて、森町内の園児・小学生を対象に9月18日に「木育フェスタ ゴムベースを作ろう」を実施する予定です。

内容は、まず木育「木にふれ・木に学び・木と生きる」について、ゴムベースの材料「道南スギ」についての説明をしてから、作業に入ります。作業では、ヤスリ掛け、ボンド・電動ドライバーによる組立を行います。作業中、木は環境に優しい、加工性に優れている、木材の良さを説明しながら進め、完成させる予定です。自分の手で作ったゴムベースは、地元の木で出来ている、この木は森から出てきたものと想像を深めることを説明します。

#### 2. 活動の成果

木製品は木から出来ている、そして木は森へ繋がっていることを理解してもらい、また、難易度の高いゴムベース作りですが、指導を受けながら最後まで完成させる事で、人生で困難にぶつかっても、ひとつひとつ丁寧に理解しながら進めれば、解決できることを学んでもらいます。渡島総合振興局林務課、森町の協力にて9月18日（日）に開催します。

#### 3. 参加者の声

新型コロナウイルス感染症の拡大により、子どもたちへの感染防止対策を茅部町として徹底されており、期間延長期限の令和4年6月30日までに開催できなかったことから、期間内に準備を行い、行事は令和4年9月18日（日）に行うこととしている。

#### 実績報告とりまとめ表

実施時期	(予定) 9月18日	合計
事業量	ゴムベース、20個	
参加者数	20名	20名
実施場所	尾白内グランド	

## 木育フェスタ in 厚沢部 (A-18)

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

厚沢部町が所有する土橋自然観察教育林は、過去に大規模な山火事によって大きな被害を受けた結果、当時の松前藩がヒバの伐採を禁止し植生の保護に努めてきた歴史があり、現在は町有林として保護管理されている。

このような歴史的背景と豊かな自然を合わせ持つ山林の活用と保全を目的として、檜山振興局森林室の協力のもと、木育フェスタを実施した。

#### 2. 活動の成果

レクの森の散策では、林内で見られるヒバやホオノキといった植物の解説に加え、木の見分け方や紅葉の仕組みといった学術的な解説も行われ、参加者の森林に対する関心が高まった。

木育ワークショップでは、縄文式の火起こし体験や木の棒を使ったモルック体験、木の実や枝を使った木工クラフト体験、森の役割や機能の説明を通して、森林や樹木の恵みを体験してもらうことができた。

今回の木育フェスタを通して一般市民に対する森林・樹木の重要性についての普及啓発の一翼を担うことができた。今後も、更に多くの方に土橋自然観察教育林を知ってもらうために、今回のような木育フェスタを継続していきたいと考えている。

#### 3. 参加者の声

- ・ヒバの森や、林の中にいる木の子供をよく観察することができて良かった。  
(参加者より聞き取り)
- ・木の棒と麻紐を使った火起こし体験が上手にできて良かった。  
(参加者より聞き取り)
- ・森の中にある木から取れた材料を使った木工ができて楽しかった。  
(参加者より聞き取り)

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	10月30日	計
事業量	森林散策、木育ワークショップ等	
参加者数	32名	32名
実施場所	厚沢部町土橋自然観察教育林	

## 木材に親しみ、森林認証を知る (A-19)

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

##### 1) 活動の目的

工作を通じて北海道産木材に親しむとともに、SDGsの達成に貢献する森林認証制度の仕組みや理念についての理解を深める。

##### 2) 活動の内容

- ①森林認証に関するポスター掲示
- ②上川地域の森林認証製品の展示
- ③木工工作 (クリスマスボックス作り)
- ④資料・パンフレットの展示・配布
  - 1) 森林認証制度解説、2) 上川の森林認証製品の例、3) トドマツ紹介パンフレット
  - 4) HAKKAIDO WOOD 紹介パンフレット

#### 2. 活動の成果

- ①木工工作については、いくつかの完成見本を事前に準備し、基本的な作成方法を説明後は極力、参加者の自由を尊重した。このこともあって、個性的な作品が数多く作成されていた。また、長い時間をかけて親子で工作に没頭する姿も見られた。
- ②子等が工作中、同伴の父母、祖父母が森林認証展示を眺め、パンフレットを手にする姿が認められた。
- ③森林認証展示については、上川総合振興局の協力を得たことによって、充実したものとなった。

#### 3. 参加者の声

- ・自由に工作できるのがおもしろかった。
- ・クリスマスボックスの屋根材 (補注: トドマツ柾目木取りの薄板) がきれいだった。
- ・細かい部品と部品 (補注: レーザー切断機による事前切断加工) がピッタリ合うのがすごいと思った。
- ・木の板が丸く切っているのがおもしろかった。
- ・森林認証の仕組みを始めて知った。いいことだと思う。
- ・ジュースや牛乳のパックにまで森林認証マークが付いていることに驚いた。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	12月25日	計
事業量	木材に親しみ、森林認証を知る	
参加者数	90名	90名
実施場所	くるみなの木遊館	

## 森と人をつなぐ事業（A-21）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

地域の間伐材を利用した小屋作りを行う過程で森づくりの考え方や技術の習得を目指す講習会を実施した（全5回）。体験イベント（1日間）はコロナによる緊急事態宣言発令により中止とした。

講習会では旭川市東鷹栖のトドマツ人工林において地域に適した生物多様性の向上を目的とした森づくりの考え方、間伐とその効果などを検討しながら実際に小屋を建てる材料となる木を伐倒し、搬出を行った。伐倒にはチェーンソーを使用し、チェーンソー操作の基礎知識や伐倒方法、安全管理などについても指導を行った。搬出したトドマツ材は製材を行い、現在は小屋を建てるための加工を行っている。

#### 2. 活動の成果

講習会を通して森林が担う役割や実践的な森づくりの方法、間伐材の有効な利活用について伝えることができた。また、同時に焚き火やツリーイング（ロープを使った木登り）、薪割りなど森での楽しみ方を伝えることができた。このように楽しみながら森に関わってもらうことで地域に根差した持続可能なライフスタイルの確立や関心を高め、様々な問題を抱える日本の森林政策を始めとした環境問題に興味関心を持ってもらう事ができたと考える。

#### 3. 参加者の声

普段接することのない森づくりの考え方や間伐の考え方などが学べて良かった。

チェーンソーを使って木を倒すことが想像以上に繊細な作業だと知った。

単純に木を倒すだけではなく、残された森のこと、伐った木をどうやって運び出すのか、伐った木の使い道などいろいろな事を考えながら作業をしなければならなかったことを知った。

焚き火をしたり、木登りをしたり、森の中で遊べて楽しかった。

など単純に森を楽しんだり、知識や技術の習得で充実感を感じた感想が多かった。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	7月4日	8月1日	10月3日	11月14日	3月6日	計
事業量	間伐20本	搬出10本	搬出10本	間伐搬出6本	間伐体験	間伐搬出26本
参加者数	15名	12名	6名	11名	8名	52名
実施場所	旭川市東鷹栖山林					

## 「望の森」森林浴の集い（A-22）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

上川北部森林室管理区内1林班「望の森」にて、コロナウイルスの影響を受けすべての行事予定を縮小し役員4名にて、エゾヤマザクラ大苗3本植樹さみしい限りでした。

#### 2. 活動の成果

コロナ禍により、参加者を増やすことが出来なかったため、思うような普及活動は出来なかった。来年への足がかりとしたい。

#### 3. 参加者の声

コロナ禍により、参加者を必要最小限としたため、さみしい植樹となりました。来年に期待しています。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	R4.6.28	合計
事業量	植樹	
参加者数	4名	4名
実施場所	上川北部森林室管理区内1林班「望の森」	

## 生物多様性の保全を目指したオホーツクの森づくり事業（A-24）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

ボランティア活動による森林づくりを通じて、森林に対する理解を深め、その仲間の輪を広げることを目的として活動しています。

具体的には、森林管理署との「ふれあいの森」協定に基づく活動、遊歩道等の整備、森林散策会などを行っています。

また、常呂川森林ふれあい推進センター等が行っている針広混交林をめざす自然再生事業等への参加・森林教室等での協力活動を行っています。（今年度はコロナ感染予防の観点からイベント等はほぼ中止）

#### 2. 活動の成果

ボランティアの活動を通じて、森林・林業、自然、環境等に対する関心が高まり、知識が深まるとともに積極的な一般市民への働きかけ（啓蒙・普及）が行われるようになっていきます。

#### 3. 参加者の声

- ・やっぱり自然はいい。コロナ収束して欲しいね。（森林散策会）
- ・ミンミンゼミの鳴き声を初めて聞きました。（森林散策会）
- ・アサギマダラを見ることができ感激。（森林散策会）
- ・自然素材が炭になるのはとっても不思議でした。（炭焼き体験）

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～10月	10月	10月	通年	計
事業量	森づくり活動2回	森林散策会	炭焼き体験	勉強会3回	
参加者数	15名	25名	23名	25名	88名
実施場所	北見市、網走市、弟子屈町				

## 緑の少年団なかしべつ冒険クラブ事業（A-25）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

当団は豊かな自然環境を活用した自然体験活動を主として、自然を愛し、ふるさとを愛す心を育てるとともに、集団活動を通じて相互に協力し合い、友情を深め、心身ともに健全で豊かな人間性を培い、また緑の募金活動や植樹活動等の奉仕活動、地域の行事等にも積極的に参加し、地域社会の一員としての自覚を高めることを目的に年間を通じて様々な自然体験プログラムを実践しています。地元の講師に支えられながら実施した野鳥観察や乗馬体験など専門的な分野にも触れながら、今年も楽しく活動できたと感じております。そのフィールドがあるのは緑を守る活動があつてこそということをついに理解しており、森林愛護の精神も活動の中で養うことができていると感じています。

#### 2. 活動の成果

今年度はコロナ禍の影響により、入団希望者が無く、大変厳しい年となりました。また、緑の少年団の柱となる活動の「緑の募金」や「植樹祭」が中止になってしまったことも残念でした。活動は半分以下となってしまいましたが、感染対策を万全に、育成会や中学・高校生の力強いサポートにより、無事に年間活動を行うことができました。また、今年度は冒険的な要素を多く取り入れ、団員同士が話し合い、自ら計画をすることに重点をおいて活動してきたことで、団員の達成感が増し、より充実した活動になったと感じております。さらに、育成会との連携により、安全面でのサポート体制が充実したことも大きな成果であったと感じております。団員数が大幅に減ってしまいましたが、心機一転、今後も団員にとって心に残る活動を展開していきたいと考えております。

#### 3. 参加者の声

団員の父母からは年々たくましく成長する子どもたちの姿にたくさんの感謝の言葉をいただきました。今後も地域の子供たちとともに地域に根ざした活発な事業展開をしてまいります。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	別紙のとおり	計
事業量	別紙のとおり	
参加者数	別紙のとおり	32名
実施場所	別紙のとおり	

### 2021活動実績

回	月日	内容（午前）	内容（午後）	備考	参加者数
1	4月26日（月）		新しい出発（活動内容発表）	父母参加	12
2	7月5日（月）		事前学習（登山）		9
3	7月11日（日）	登山（標津岳）			8
4	10月3日（日）	野鳥観察会（秋）		野鳥：大河原先生	9
5	10月4日（月）		事前学習（サイクリング）		10
特別	10月9日（土） ～10月10日（日）	第44回全国育樹祭（苫小牧市・札幌市）		他団体主催	団員2 引率1
6	10月16日（土）	林業体験		他団体主催	8
7	10月24日（日）	サイクリング		1班：裏摩周 2班：標津町	10
8	11月8日（月）		事前学習（乗馬・団員企画会議）		10
9	11月14日（日）	乗馬		乗馬：大西先生	10
10	12月8日（月）		団員企画（火おこし体験）	町教育委員会	11
11	12月12日（日）	団員企画（クリスマスリース作り）			8
12	3月22日（火）	一年間のまとめ			9
13	3月27日（日）	目指せ！クテクンの滝（冬）			10

## ☆森林環境教育推進事業（A-26）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

札幌市立幌南小学校、札幌市立藤の沢小学校、江別市立野幌小学校、江別市立上江別小学校、江別市立文京台小学校の5校から森林環境教育（総合学習）の要請を受け、総合学習の支援として実施するもの。

（5校中の藤の沢小学校・野幌小学校は緑の少年団活動に取り組んでいる。）

## 2. 活動の成果

各校共通して、生徒が自然（樹木・植物、小鳥、昆虫など）に、直接目で見て、手で触れて、香りを嗅ぐなど五感を通してその不思議さや多様性に感動し、体験することを目的とする。この目的の達成に向けて、活動日に散策するフィールドの樹木や動植物を事前に調査し、これらを踏まえてガイド用及び生徒用の配布資料を作成し、森林環境教育推進事業を実施した。

## 3. 参加者の声

- ・木にはいろんな種類があるのがわかり、少しだけ見分け方が分かった。
- ・木や植物の名前の由来を教えてもらったので、覚えやすかった。
- ・自分たちが授業を受けた場所の木や植物、昆虫などが資料にあったので、分かりやすかった。

## 実績報告とりまとめ表

	学校名	活動日	参加人数	実施場所
①	上江別小学校	2021年7月16日	110	野幌森林公園
②	藤の沢小学校	2021年7月9日	60	学校林
③	野幌小学校	2021年7月17日	115	野幌森林公園
④	幌南小学校	2021年10月3日	112	学校校庭
⑤	藤の沢小学校	2021年10月14日	60	学校林
⑥	文京台小学校	2021年11月5日	60	野幌森林公園
⑦	野幌小学校	2022年5月27日	115	野幌森林公園
⑧	藤の沢小学校	2022年6月7日	60	学校林
⑨	上江別小学校	2022年5月13日	110	野幌森林公園
計		9回	802	

## 木育ひろばinチ・カ・ホ（A-27）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

○当初事業

〔目的〕

森林を大切に思う心を培うことを目的に、緑の少年団ほか都市部の児童や小中学生、一般住民を対象とした木育ひろばを開催〔当初の事業概要〕

冬季間、道内で一番人が集まる札幌駅前通りの地下歩行空間において、森林の育て方やはたらきなどに関するパネル展示やクイズ、木工体験などを実施し、青少年の森づくりや木づかい活動への参加促進を図る。

○当初事業はコロナウイルス感染症防止として中止し事業内容を変更

- ・森林や林業を理解しやすく解説した漫画を次代を担う農業高校生（森林科学科）へ寄贈
- ・コロナウイルス感染症拡大防止のため使用が難しくなった子どもたちが触れる木育遊具の抗菌施工などを実施

## 2. 活動の成果

新型コロナウイルス感染症の急激な拡大により、不特定多数の人々が行き交う札幌駅前通り地下歩行空間での事業の開催は、感染防止の観点から主催者である道と協議しやむを得ず中止としたが、当会としては次のとおり、高校生が森林を大切に思う心を育てていただくための事業変更を行った。

- ・道内3農業高校の森林・林業を学ぶ森林科学科の生徒に対し、森林のことを分かりやすく描いた「北の森漫画」を寄贈し、授業等で活用していただいたことにより、生徒の皆さんが森林・林業への更なる理解の促進を図ることができた。
- ・今後予定しているイベント開催に向けて、コロナ感染防止対策として、子どもたちに人気のある木育遊具を使用可能とするための抗菌施工の実施や、サーマルカメラ設置による入場の際の効率的な体温測定を行うことにより、参加者の皆さんが、木育を十分に体験し満足していただくことが期待できる。

## 3. 参加者の声

- ・今後も引き続き、「北の森漫画」を授業の資料として活用していきたい。
- ・イベントの目玉となっている「木の玉プール」などの木育遊具が使用可能になると、子どもたちが森林を大切に思ってもらえるような学びの取り組みを進められる。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	2月	3月	計
事業量	北の森漫画配布	木育遊具の抗菌施工	
参加者数	360人	-	360人
実施場所	・岩見沢農業高校 ・旭川農業高校 ・帯広農業高校	-	

## 北海道木育フェスタ推進事業（A-28）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

北海道森づくりフェスタは、広く道民や企業に森づくりへの参加・協力を呼びかけ、道民全体の力で未来に繋げる豊かな北海道の森を築き上げていく取り組みで、平成24年度から関係市町村等と連携しながら開催している。

令和4年5月14日（土）には、緑の少年団や関係機関等が参加し、春のキックオフイベントとして木育フェスタ開会式を実施する予定であったが降雨のため中止となった。一方で、札幌市内の高校生、専門学生などがそれぞれの日程に合わせて「緑の募金」街頭募金の取組を行った。

また、令和4年5月28日（土）には、331名の一般参加による第72回北海道植樹祭・育樹祭を開催した。さらに、林野庁監修の森林の役わりがよくわかる「森とくらし」うんこドリルを作成し、今後、子どもたちが集まる木育イベントなどに配布することとしている。

## 2. 活動の成果

5月14日に開催した北海道森づくりフェスタ開会式では、式終了後にガールスカウトや緑の少年団などによる街頭募金を実施する予定であったが降雨のため急遽中止した。しかし、コロナ禍により活動が停滞してきた中でありながら、札幌市内の高校生や、専門学生が都合の良い日程に募金活動を積極的に行っていただくなど成果があらわれた。

また、令和4年5月28日（土）には、331名の一般参加を得て第72回北海道植樹祭・育樹祭を開催し、広く道民などへ、将来を見据えながら森林を守り、活かし、これらの取組を支えていく重要性を伝えることができた。

## 3. 参加者の声

- ・森林の大切さを実感できた。
- ・植えた木が大きくなるのが楽しみ。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	5月14日（土）	5月28日（土）	計
事業量	緑の募金活動（降雨のため急遽中止）	北海道植樹祭・育樹祭	
参加者数	0名	331名	331名
実施場所	札幌駅周辺	苫小牧市（苫東・和みの森）	

## 道民森づくりの集い2021（A-29）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

コロナ禍での閉塞感を脱却し、第44回全国育樹祭開催後の更なる機運の醸成や北海道発祥の「木育」の普及啓発を図るため、森づくりボランティア団体や道産木材を活用する団体等が出展し、一般住民に、森林や木に係わる体験や紹介を行うことにより、北海道の森林や林業・木材産業を守り支えることの大切さを伝える。

## [開催概要]

日 時：令和3年11月3日（水）10:00～15:00

場 所：サッポロさとらんど・さとらんど交流館

主 催：北海道、林野庁北海道森林管理局、札幌市農政部、道民森づくりの集い実行委員会（事務局：北海道森と緑の会）

参加者：779名（一般参加者702名、出展者及びスタッフ77名）

内 容：出展19団体（森林ボランティア団体や木育活動団体、行政や研究機関等）による活動PRや木工品等展示販売、木工体験などのワークショップ等

コロナ禍の現状を踏まえ、徹底した感染症対策を実施して開催

## 2. 活動の成果

コロナ禍により約1年半の間、森づくりボランティアや木育等の活動団体は活動自粛を余儀なくされ、団体の目的である森林や林業の大切さの普及が思うように出来ない状況であった。

このような中、行政が主催し大人数を集客するイベントはしばらくぶりであったが、関係各団体がコロナ対策をしっかりと行いながら連携し開催したことにより、「森林とふれあう」、「森づくりに関心を持つ」など、開催目的達成に向けた一つのきっかけとなり、閉塞感を脱却する一助となったと考える。

また、緑の募金PR用バスタを会場内で着用し一般来場者に向けて「緑の募金」を呼びかけることにより、募金のPRを確実に行うことが出来た。

## 3. 参加者の声

- ・子供たちが興味を持って木にふれる体験ができてよかったです。
  - ・木に触れる体験は少ないため、子供たちは楽しそうでした。
- （別添資料の来場者アンケートを参照）

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	11月3日（水）	計
事業量	出展ブース19団体	
参加者数	779名	779名
実施場所	サッポロさとらんど・さとらんど交流館	

## ☆森林・林業・木材産業の魅力発信事業（新規）（A-30）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

道内では、コロナ禍によりほとんどのイベントなどが中止となるなか、昨年10月にはインターネットを活用しながら第44回全国育樹祭が開催されたところ。今後、開催後の更なる機運の醸成や北海道発祥の「木育」の普及啓発を図るため、林野庁北海道森林管理局職員の平田美紗子氏が制作した、緻密・詳細な描写で子供から大人まで楽しみながら森林や林業・木材産業を学べる有益な図書を、関係団体等に配布するなど、森林の魅力を伝えていく。

## 2. 活動の成果

道内の小学生・中学生・高校生をはじめとした地域住民に対し、森林・林業・木材産業についての理解・促進を図ることが出来た。

## 3. 参加者の声

- ・育樹祭に参加した子どもたちからは、「漫画なので読みやすく、森のことが良く理解できた。」
- ・緑と水のファンド事業実施団体からは、「イベントなどで参加した子どもたちに対し、森のこと、林業・林産業のことを容易に説明することができた。」との声があった。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	令和4年5月28日	令和4年6月1日～令和4年6月30日				計
事業量	図書の送付					
参加者数	350名	358市町村等	41団体	30団体	4団体	・350名 ・179市町村 ・179教育委員会 ・75団体 合計783冊の配布
実施場所	苫東和みの森 (苫小牧市)	道内各市町村 及び教育委員会	緑と水の森林 ファンド実施 事業団体	緑の募金公募 事業	ゴルファー緑化 事業	

## 木材の有効利用のための燻煙乾燥炉の開発（B-1）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

少量のために切り捨てや薪等にされることの多い貴重な広葉樹材を、家具や建築用材として有効利用するため、小規模な燻煙乾燥炉の開発計画を立てるのが、本事業の目的である。

このため、北海道内で活動する森づくり、製材、建築設計の3分野の専門家が滋賀県湖南市にある野村隆哉研究所で開発されている野村式熱化学還元処理炉を視察し、開発者から情報を収集および研修を受けた。また、近江八幡市の滋賀職能大において、木材の水中貯蔵に関する情報を収集した。さらに、厚真町の木の種社で実現に向け協議した。

## 2. 活動の成果

この結果、熱化学還元処理技術は、一般的な人工熱乾燥処理に比べ、下記の点で優れていることが理解できた。

- ・処理の効果:処理時の変形や割れが少なく、かつ、処理後の変形等も少ない。
- ・処理時間:4日程度と一般的な方法に比べて1/3程度の期間で処理できる。
- ・燃料:木質バイオマス廃材を燃料として利用するため、燃料費は不要である。
- ・労力:処理材と木質バイオマス廃材を一度に炉に入れ、後は空気弁の調節だけで処理を行うため、材料投入後の労力はほとんど不要。

また、課題として、下記の点が明らかになった。

- ・建設費用:熱化学還元処理炉では、建設に2,000万円程度の初期投資が必要。
- ・残された時間:開発者であり、この技術に精通している野村隆哉氏は、82歳の高齢であり、技術移転は、至急を要する。

## 3. 参加者の声

熱化学還元炉は、導入コストも既存炉ともさほど変わらないうえ、木質燃料が熱源になるという持続可能で脱炭素社会にふさわしい技術である。また、今後長期的視野で供給不安も予想される石油に頼らず、乾燥後の木材の質も確保しながら、近くにある資源・製材副産物を利用して木材乾燥が行えることは大きなメリットであり、森林整備・木材の地産地消とセットで行うことで、地域資源を活かした「林業→製材→乾燥→加工・利用」のサイクルに貢献できる技術であると視察を通して確信を深めた。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	5月30日～6月1日	計
事業量	小規模な燻煙乾燥炉の開発計画に向けた視察業務	
参加者数	3名	3名
実施場所	湖南町・近江八幡市・厚真町	



## 環境に配慮した作業道開設研修事業（B-2）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

奈良県吉野地方で長年、小規模な作業道を開設して多間伐施業を実施している岡橋清隆氏を招請し、富山山林環境保全の会活動山林及び池田町林業グループ分収林において、作業道開設研修会を実施した。

富山山林環境保全の会活動山林では当団体の会員でもある富山太一氏が開設した作業道にて見るべきポイントや道づくりの注意点を聞き取った。池田町林業グループ分収林においては、路線の選定や設計、施工を行った。新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、当該研修会は動画にて撮影・編集後、Youtubeで動画配信した。一定期間（9月22日～10/31）事前アンケートの回答を必須とした事により、閲覧者の属性や参加動機等が分かった。

#### 2. 活動の成果

今回の研修により、当町において作業道開設の指導者となりうる富山太一氏の技術向上を行えた。また、池田町林業グループ分収林において、実際に作業道を開設した事により、今後、視察研修を行う場所として環境に配慮した作業道の普及活動を展開していきたい。加えて、動画配信により全国各地の方々当団体の取組を普及する事が出来た。今後も、定期的に動画配信を行うなどの取組を進めていきたいと考えている。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	9月9日	9月10日	9月22日～10月31日	計
事業量	既存作業道評価・設計	施工15m	オンライン配信	
参加者数	1名	1名	25名	延べ27名
実施場所	富山山林環境保全の会 活動山林池田町林業グループ 分収林	池田町林業グループ分収林	研修会動画をYoutubeにて 配信	

## 馬追自然の森整備事業（C-1）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

長沼馬追山自然の森環境保護整備と自然愛護精神の高揚。

自然の森遊歩道の笹や草刈り作業、又、清掃作業と風倒木の処理及び登山口（7か所）の粗大ゴミ清掃処理など、年数回実行して環境保護と整備に努めている。

今年はコロナ禍で研修会が開けず事業の参加人数も少数となりがちであった。

#### 2. 活動の成果

遊歩道の整備をする事で、山野草が増え季節ごとに可憐な花を咲かせてくれ、登山者を和やかな気持ちにさせて頂き喜んでおります。毎年実施している登山口の清掃も、2か所が道々に接しているため、モラルの無い人が捨てる粗大ごみは無くなりません。しかし減少はしていますが油断成りません。看板などで不法投棄を呼びかけるなど今後の課題です。

#### 3. 参加者の声

会員達は、自然の森を守って行きたいと言う気持ちで、心強く取組んで活動している。

滯台（山頂）の記録帳を見ると、町内外から大勢の登山者の方々に来て頂き、整備された遊歩道に称賛する声が多数あります。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	7月5日	9月11日	4月20日、23日	5月5日	6月18日	計
事業量	倒木処理	遊歩道草刈り	倒木処理・ 登山口清掃	清掃登山& 倒木処理	遊歩道草刈り	
参加者数	4人	16人	21人	17人	17人	75名
実施場所	北海道夕張郡長沼町馬追自然の森遊歩道一帯					

## 里見緑地内植樹・環境整備事業（C-2）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

## (1) 植樹事業

- ① 植樹対象地は、北広島市里見町7丁目地先の南側に位置する第3周辺緑地（通称「里見緑地」という。）の傾斜地で、道営北広島団地を造成した際の捨土で、面積は約4haあるが、3ha弱が草地で大部分が葎で覆われていて、造成後50年を経過しても、未だに樹木の自生が困難な環境になっている。
- ② 令和3年度は、里見町7丁目地先のカラマツ林（植樹地）内とその北側に隣接する傾斜地約1,250㎡に、14種69本の苗木を植樹した。また、里見緑地内の植樹地と育樹地の草刈を3回実施し、植樹木の生長を促進させた。

## (2) 枝・根粉碎パーク敷均し事業

- ① 緑地内には、当会の環境整備事業により遊歩道約1,850mと作業道約350mが整備されていて、大部分が枝・根粉碎パークを敷均している。
- ② 令和3年度は遊歩道の一部区間約750mに、枝・根粉碎パーク30㎡を敷均し、遊歩道の環境保全を図った。

## 2. 活動の成果

## (1) 植樹事業

- ① カラマツ林の風倒木処理地に針葉樹の苗木（グイマツ10本・トドマツ5本）を植樹し、針葉樹林の再生にめどが立ったこと。
- ② カラマツ林の北側の隣接地に、12種54本の苗木を植樹し、針葉樹・広葉樹の混交林の森づくりに着手できたこと。
- ③ 芦原を樹林地に代えることで、将来、防風効果と林地の景観が高められること。

## (2) 枝・根粉碎パーク敷均し事業

- ① 路面の凹凸がなくなり、歩行者にとって歩き易く、転倒が著しく減少すること。
- ② 路面のクッション効果が高まり、膝への負担が軽減されること。
- ③ 雨水による路面の浸食が弱まり、雑草の生長を抑制すること。

## 3. 参加者の声

- (1) 植樹事業：会員のみで実施しているため、市民からの声は特にない。
- (2) 枝・根粉碎パークの敷均し事業：①歩き易い、②アスファルト舗装の歩道と比べて、膝に負担が掛からない、③雨後に歩いても靴に泥がつかない等の意見が寄せられた。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	4/1～8/16	7/1～7/21	計
事業量	植樹と草刈り	遊歩道に枝・粉碎パーク敷き均し	
参加者数	5名	2名	7名
実施場所	里見町7丁目地先	里見町5・6丁目地先	

## 台風被災森林の植栽及び育林活動（C-3）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

(1) 野幌森林公園国有林（42林班ふ小班1.1ha）

2004年の台風で被災し、2006年に植栽したトドマツと広葉樹の標準列で継続して実施している生長調査（周長と樹高測定）を行うと共に、ツル切り作業を行った。

(2) 野幌森林公園道有林（169林班57小班0.5ha）

2018年の台風で被災した森の再生事業2年目である。自生稚樹の優先保育と防草シートの設置、下草刈りを行った後、9月に当協会主催の親子森林教室の一環である植樹祭を子どもたちで行い、21樹種160本の苗木を植え、併せて防獣網及びツリーシェルターを設置した。

(3) 札幌市澄川都市環境林（札幌市56林班65.14ha）

台風被災で発生した枯損木、傾斜木の整理伐を冬期間に継続実施した。また、整理伐で生じた材は薪にして公共施設に提供したり、ホダ木として近隣の澄川南小学校児童や親子森林教室の子どもたちによる植菌に活用した。

## 2. 活動の成果

台風で被災した森の再生に取り組んだ3箇所それぞれは緑が順調に回復してきており、市民への憩いの場所の提供や景観維持、生きものの棲み処としての機能を取り戻しつつある。

また、植樹祭や植菌に参加した子どもたちは、森の大切さや自然と共生していることを理解する機会となっている。

## 3. 参加者の声

- ・野幌森林公園国有林の植栽木は一部欠損しているものの自生樹や笹と混在して多様性のある森に生長しているとの感想が参加者からあった。
- ・野幌森林公園道有林の植樹祭に参加した子どもからは、「一番大変だったのが、野幌で植樹したことです。なぜなら、暑い中、土を掘ったり、動物が入ってこないようにネットを張ったりしたからです。ですが、今世界では森林の数が減っているので『少しでも森林の数を増やす!!』という気持ちでがんばりました」との感想が寄せられた。
- ・澄川都市環境林の冬季整理伐に初めて参加した会員は、初体験ということもあり緊張したが、なんとか思い描いた方向に木を倒すことができたとの感想を述べた。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	2021/7/14	2021/8/21	2021/7/14	2021/8/21	2021/9/14	2021/10/3
事業量	広葉樹標準列生長調査	針葉樹標準列生長調査	下草刈り・倒木処理	防草シート敷設 自生稚樹調査	下草刈り・植樹祭準備	親子森林教室 植樹祭
参加者数	3名	3名	9名	14名	17名	52名
実施場所	野幌森林公園国有林 (42林班ふ小班)		野幌森林公園道有林 (169林班57小班)			

実施時期	2022/4/20	2022/2/15	2022/3/16	2022/3/21	2022/4/9	計
事業量	植栽木確認 防獣網修理	手鋸による 整理伐67本	整理伐15本	整理伐37本	整理伐27本・ 集材	11回
参加者数	8名	13名	16名	17名	15名	167名
実施場所	野幌森林公園 道有林	札幌市澄川都市環境林 (札幌市56林班)				3か所

## 恵庭かわまちづくり植栽事業（C-4）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

恵庭市緑化推進委員会が植樹活動を支援する「恵庭一万本桜植樹市民の会」は、「花のまち」に相応しい桜並木を作り、恵庭市を北海道一の桜の名所にすることを目標とし、平成27年に設立された。植樹場所については、恵庭市が漁川を始めとする多くの河川があり、河川とともにまち並みが形成されてきた地理・歴史の経緯から、河川敷地を優先的に植樹していき、中でも漁川河川敷地への植樹が最も効果があると考え、漁川から植樹を行っていき、漁川が完了した後は他の河川及び公園敷地等へ植樹場所を移行していく予定としている。

さらに長期的に植樹活動を継続していくため、同市民の会は、行政、町内会並びに各種団体等に協力を積極的に呼び掛け、市民活動としての基盤を確立することが必要と考えており、最終的には河川敷地等の桜と「花のまち」を併せ、他の自治体が進めている花のまちづくりとは重複しないオンリーワンの「花のまち恵庭」とすることを目指している。

※過去の活動実績として、令和2年10月10日に「恵庭市市制施行50周年記念事業」で行われた事業の中で、かわまちエリア（南島松835番地6外、A=約1.7ha）において、アーコレード15本の記念植樹活動を実施した。

※令和3年度の桜植樹について、新型コロナウイルス感染拡大に伴い密を避けるため、当初計画を変更し委託の比重を高くし植樹作業を行った。

#### 2. 活動の成果

令和3年度から恵庭市緑化推進委員会（恵庭市経済部花と緑・観光課事務局）が植樹活動を支援することになり、令和3年10月4日に前年に植樹した箇所続けて、八重桜15本の植樹を実施した。

#### 3. 参加者の声

令和3年10月4日の植樹参加者12名（恵庭一万本桜植樹市民の会10名及び恵庭市緑化推進委員会事務局2名）にて実施。

桜植樹市民の会下原干城会長は、「桜を植樹しても2～3割枯れるのは当たり前と考えており、地道に桜を植樹し、長い年月をかけて桜並木を作りたい。」と語っていた。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	9月13日	10月4日	計
事業量	現地下見	桜植樹	
参加者数	5名	12名	17名
実施場所	花の拠点（はなふる）かわまちエリア		

## 「ふるさと復興の森づくり@厚真町」事業（C-6）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

厚真の森づくりを、タネ採り～タネ播き～育苗～植栽の一連の活動を行いながら、ふるさとの自然環境と防災について学びつづけていく。

11月12日（金）、厚真小学校の生徒21名と学校関係者3名を対象に、厚真町幌内（胆振東部地震の土砂崩れの崩壊斜面）で森づくり活動を行った。

実施内容は、・植樹した苗の生育状況の確認・森でタネ採りと一部精選・育苗箱やポットに播種

#### 2. 活動の成果

厚真小学校の生徒に、ふるさとの自然環境について学んでもらうため、地域のタネから育てた苗24種を植え、植樹後はすべての苗の高さを測り記録した。また、ヤマモミジのタネを、枝から採取し育苗箱に播き、苗木を育てるための準備作業をした。

厚真の森づくりを、胆振東部地震の土砂崩れの崩壊斜面を利用して行い、地質を観察して防災についても学んだ。

#### 3. 参加者の声

子どもたちから、樹木の特徴についてたくさんの質問があった。成長の違いや種の落とし方など、興味を持って聞いていた。地元の災害地を多様な森にする、森の役割などについて学んだ様子だった。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	11月12日		計
事業量	植樹24本育苗	森についての勉強会	
参加者数	24名		24名
実施場所	厚真町幌内		

## 地球環境のための森林保全事業（C-7）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

例年通り、札幌市、当別町、小樽市、千歳市、恵庭市、苫小牧市など、8か所の森林フィールドにおいて下草刈、間伐等の作業を行った。

特に今年度は小樽市の会員所有林の里山保全活動に力点を置いて、学童や園児の森林学習に、また近隣住民の憩いの場所としての活用が盛んになった。

また、コロナによる活動中止は行わず、会員個人の意思と配慮に信頼を置き、活動時に説いては距離の確保を一番の対策として継続とした。結果感染はなかった。

## 2. 活動の成果

いずれのフィールドにおいても、下草を刈り、間伐をし、枝払いなどを行うことにより、森には光を風が入り、森が再生してくようその作業を進めた。小樽の会員所有林（ワオーの森）は、20年来作業を継続し、歩道や作業道を整備して、色々な方々が気軽に寄ってくださるようになったことは顕著である。それは森林に親しんで、その生態や役割を考える契機となることにも直結する。

また、広報については、ホームページにおいて活動都度、その様子をブログアップしているせいか、随時体験者が増加するばかりではなく、入会した方々の参加回数も多くなり、会員の平均年齢が若返りしているのはうれしく、頼もしいことである。

会の継承、その目的の啓蒙として少しばかりでも確実性を感じる。

## 3. 参加者の声

上記の通り新入会員が6名入会くださった。皆、作業が楽しく、また森林の再生・保護に役立つことを知って、積極的な参加につながっている。

また、薪ストーブ使用者も多くなっているのか、間伐材の薪利用とリサイクルにもつながっている。

## 実績報告とりまとめ表

年	月 日	フィールド	参加人数	場所
2021	7月10日	当別22世の森	24	当別町
	7月25日	柴原山林	15	札幌南区
	8月7日	柴原山林	13	札幌南区
	8月29日	新篠津村防風林	11	新篠津村
	9月11日	江別市防風林	13	江別市
	9月26日	江別市防風林	16	江別市
	10月2日	高川山林	12	小樽市
	10月24日	高川山林	12	小樽市
	11月6日	恵庭市防風林	12	恵庭市
	11月13日	苫東	16	苫小牧市
11月28日	苫東	7	苫小牧市	
2022	4月9日	高川山林	23	小樽市
	4月24日	高川山林	24	小樽市
	5月14日	新篠津村	22	新篠津村
	5月29日	北山山林	17	千歳市
	6月11日	高川山林	19	小樽市
	6月26日	高川山林	19	小樽市

## 馬と森づくり事業（C-9）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

丸一年ポラーナの杜をフィールドに活動を実施。初回に伐採・馬搬を皮切りに、2回目はこの伐採木を製材。太い丸太を角材にしたり、板材にしたりすることで日常目にする材料がどのようにできるのか、実際に製材機を動かしながら体感する。粗朶や玉切りにした丸太をクラフト材料や薪割りなど、日常の生活に取り入れてみる。4月には森に住む鳥類の観察や鳥の習性を学ぶ機会の巣箱づくり。そして、6月は多数の草花がしげる時期として森に生息する草花を観察するとともに、草花を使った草木染で昔ながらの染め物を体験する。全5回を通して一つのストーリーを描き、森の整備と連動させながらの体験学習となった。

## 2. 活動の成果

丸一年ポラーナの杜をフィールドに活動を実施。初回に伐採・馬搬を皮切りに、2回目はこの伐採木を製材。太い丸太を角材にしたり、板材にしたりすることで日常目にする材料がどのようにできるのか、実際に製材機を動かしながら体感する。粗朶や玉切りにした丸太をクラフト材料や薪割りなど、日常の生活に取り入れてみる。4月には森に住む鳥類の観察や鳥の習性を学ぶ機会の巣箱づくり。そして、6月は多数の草花がしげる時期として森に生息する草花を観察するとともに、草花を使った草木染で昔ながらの染め物を体験する。全5回を通して一つのストーリーを描き、森の整備と連動させながらの体験学習となった。

## 3. 参加者の声

丸一年ポラーナの杜をフィールドに活動を実施。初回に伐採・馬搬を皮切りに、2回目はこの伐採木を製材。太い丸太を角材にしたり、板材にしたりすることで日常目にする材料がどのようにできるのか、実際に製材機を動かしながら体感する。粗朶や玉切りにした丸太をクラフト材料や薪割りなど、日常の生活に取り入れてみる。4月には森に住む鳥類の観察や鳥の習性を学ぶ機会の巣箱づくり。そして、6月は多数の草花がしげる時期として森に生息する草花を観察するとともに、草花を使った草木染で昔ながらの染め物を体験する。全5回を通して一つのストーリーを描き、森の整備と連動させながらの体験学習となった。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	7/3・7/10	10/17	12/04	04/09	6/25	合計
事業量	伐採・馬搬体験、製材・薪割体験	伐採・薪割り体験	クラフト体験	巣箱づくり体験	薪割・草木染体験	
参加者数	35名	69名	15名	20名	26名	
実施場所	ポラーナの森					

## 新ひだか町営林友の会森林づくり事業（C-10）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

新ひだか町在住の会員を対象に、新ひだか町有林（二十間道路付近）において森林整備等を実施した。森林整備の内容は、新ひだか町有林（二十間道路付近）で、これまで植樹したエゾヤマザクラへの施肥を実施。

## 2. 活動の成果

森林整備等の活動を毎年実行することで、会員相互の親睦が深まったこと、森林の大切さや次世代へ引き継ぐための啓蒙活動になった。今後とも、地域に根ざした活動をしていきたいと考えている。

## 3. 参加者の声

参加者からは、コロナ禍でなかなか大人数での活動が難しいが、植えてきた木に施肥する取り組みに参加でき、今後も地域等の森林を守り育てるために貢献したいとの声が聞かれた。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	R3.12.13	計
事業量	150kg（5kg30袋）	
参加者数	20名	20名
実施場所	北海道新ひだか町有林	

## 「おさかなの森づくり運動」(C-11)

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

八雲町遊楽部川は、全国でも有数の清流としてサケ・マスの遡上河川であり、又、アユ等多数の魚類が生息している。近年、遊楽部川を含む管内河川の自然災害等により、河川の底棲動植物並びに水資源に対する影響が危惧される中、海を育む森づくり計画を策定し、海と河川に係わる森林整備を図るため、一般町民等の尊家を募り緑の豊かな自然環境と普及啓蒙を図ることを目的とし、地域の関係者と連携のもとに植樹（クリ苗木200本）を実施、更には、森林・林業・林産業を分かりやすく解説した「北の森漫画」を地域住民に配布した。

#### 2. 活動の成果

平成6年度より毎年実施している本事業については、植樹による森づくりの効果のみならず、本事業を今後も継続していくことにより、漁業者のみならず関係者間における森林整備が海と河川を育むという意識の維持・向上につながっている。

#### 3. 参加者の声

毎年植樹に参加することで本事業の海への好影響を感じられる。

森林整備を継続していくことで河川からの流木や濁水の流出が抑制されることを願うさけ資源の維持・保護のため欠かせない事業である。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	10月14日	計
事業量	0.2haクリ200本北の森漫画の配布	
参加者数	15名	15名
実施場所	北海道二世郡八雲町富咲	

## 五稜郭保安林清掃事業 (C-12)

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

五稜郭風致・保健保安林の塀の修理や草刈り、植木の剪定、巣箱の清掃付け替え、ゴミ拾いなどの清掃を行うことによる緑化思想の普及啓発及び美化意識の向上。

#### 2. 活動の成果

貴重な風致・保健保安林の保護意識の向上と緑化思想の普及啓発及び美化意識の向上が図られた。

#### 3. 参加者の声

市街地にある貴重な五稜郭風致保安林を今後とも守り育てていこうと確認し合った。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	7月16日	計
事業量	塀の補修、草刈り、剪定、清掃活動	1回
参加者数	43名	43名
実施場所	函館市柳町 〃 本通 五稜郭風致保健保安林	

## 赤岩青巖狭環境整備事業（C-14）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

2019年より環境整備事業に取り組み、危険個所の抽出を行い修繕行っており今年度から実際に整備した赤岩青巖狭全体の環境を体験型のフィールドとして活用し占冠村の財産の一つとし、自然保護を主体としつつ今後の利用方法の模索を踏まえて実験的な体験ツアーを実施し各回、意見交換し今後の展望について話し合いをした。

## 2. 活動の成果

昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症により大きなイベントとして実施は難しく人数や制限で数回に分けて行い今年度からはサイクリングツアーイベントとして赤岩青巖狭を体験フィールドの一部として利用する取り組みを行った。占冠村の村民を対象として4回・村外を対象として1回行った。9月にも村外を対象に実施予定であったが緊急事態宣言の為、中止とした。各回の最後には参加者を対象に意見交換や聞き取りを行い今後の活用方法について話あった。今年度に関してはボランティアスタッフの参加などもあり徐々に赤岩青巖狭の価値を少し見出せたのではないかなと思う。

## 3. 参加者の声

- ・車で一時間半ほどの距離でこんな自然豊かで紅葉が綺麗な場所があるとは知らなかった！ほかにもロッククライミングで利用する人もいて、オリンピック等の影響からか活気があって素晴らしい場所だと思った。
- ・サイクリングツアーは何回か参加しているが、こういった山沿いや溪谷沿いをサイクリングすることができ、途中に自然公園としてこういった場所があるのはなかなかないのではないかな？今後も自然を守りつつアピールしてほしいと思う。
- ・赤岩青巖狭自体は環境もよく素晴らしい！ただ・・・その道中などにゴミ拾いをしてみて色んな所にポイ捨てのゴミがあり残念だった。今後は赤岩青巖狭の周囲も環境整備してはどうか？

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	7/10・10/3・10/10	9/26	10/16	計
事業量	村民サイクリングツアー	村民サイクリングツアー	紅葉サイクリングツアー	5回
参加者数	27名	11名	19名	57名
実施場所	占冠道の駅～赤岩青巖狭～ニニウキャンプ場	占冠道の駅～赤岩青巖狭～ニニウキャンプ場（ゴミ拾い）	占冠道の駅～湯の沢地区～ニニウキャンプ場～赤岩青巖狭	

## ユネスコの森づくり（C-15）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

コロナ禍で植樹場所の大雪山へ児童のバス輸送ができないため、ユネスコ加盟70周年を記念して、市内「西神楽ほたるの里」にミズナラの苗木20本を植樹させていただきました。

一方、宮城県大和町立鶴巣小学校から日本ユネスコ協会を通して植樹依頼があり、本州の子供達との協力活動となりました。

## 2. 活動の成果

日本ユネスコ協会連盟から「グッドプラクティス賞」を受賞（全国で5団体）。こどもたちの植樹に対する意識の高さが大きく報道されました。

（別添ユネスコ日より参照）

## 3. 参加者の声

こどもたちの願いが形になるように、大人達が応援できた意義が大きいとの声が多数聞かれました。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	6月～9月	9月	11月	計
事業量	ユンボ掘削・下草刈	植樹	メンテナンス殺鼠剤散布	
参加者数	20名	15名	10名	15名（延べ45名）
実施場所	旭川市西神楽ほたるの里			



## 風倒被害を軽減し野幌の自然豊かな森づくり (C-16)

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

- 目的 平成16年9月の台風で被害を受けた野幌森林公園の再生を検討する「野幌森林再生検討会」(座長：五十嵐恒夫北大名誉教授、主催：北海道森林管理局)の自然豊かな森林の再生に取り組む。
- 内容 ・自生種の苗木による風倒被害地の再生を目的とした植樹。  
 ・植樹した苗木の育成のための下刈作業。  
 ・生育状況調査及び樹種選定の検討。

#### 2. 活動の成果

##### 成果

- ・昨年整理したコクワ等のつる類及びクマイザサ、フキが発生し、複数の植栽木に巻き付いたり、日光が遮断されていたため草刈り鎌や手鋸及び剪定ばさみにより切断、除去し植栽木の保全に努めた。
- ・保育作業(下刈、つる切り)を通じて森林育成の手順や大変さを学ぶとともに、森林の成長する過程を観察でき、森林や植生の移り変わりを知ることができた。
- ・植樹と下刈を始めて17年が経過、アカエゾマツやヤチダモ、シラカンバ、ズミなどかなり成長し、森らしくなった。

##### これからの取組

- ・生育状況調査及び林相の経過観察。
- ・女性や子供を対象とした森林学習会の実施。

#### 3. 参加者の声

- ・久しぶりに参加した、下刈りは大変だが心地よい汗をかき気持ちが良かった。ササが以前より細くなり、下刈りを継続してきた成果を感じる。
- ・作業の合間に以前植樹した樹木をじっくり眺めるとかなり大きくなっていて驚いた。下刈り作業は楽しく、作業後は、林内もすっきりして心地よかった。
- ・作業の合間にウグイスの鳴き声が聞こえたり、心地よい風を感じたり、やはり森林に来るととても癒やされると感じた。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	令和4年6月25～26日	合計
事業量	下刈0.62ha	
参加者数	9人	9人
実施場所	野幌国有林42林班に小班(0.24ha)、54林班に小班	

## 「帯広の森」づくり事業 (C-17)

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

- 帯広市の都市公園「帯広の森」を拠点とし、帯広の森ガイドラインに沿って植樹後概ね20年～40年程度の広葉樹林および針葉樹林(帯広の森第8～第9ブロック)の植樹・育樹を行っている。
- 日常の育樹活動や林内整備作業に加えて、森の生態系や間伐に必要なチェーンソーの取り扱い技術等を学ぶ各種研修会を開催している。

#### 2. 活動の成果

- ・チェーンソーの取り扱いから基本的な伐倒技術までを系統だって学んだ。安全のポイントが明確になり、今後も安全最優先で作業する基礎ができた。
- ・マダニの生態を学び、マダニから身を守る方法や、刺された時の対処法などを学んだ。これらを日常の育林作業に活かしている。

#### 3. 参加者の声

- ・チェーンソー実技研修会：他ではなかなか学ぶ機会がなく貴重な経験ができた。
- ・マダニ現地研修会：第一線の研究者(畜大白藤准教授)から直接学ぶことが出来て、有益であった。
- ・共通：ここにこんなに素晴らしい「帯広の森」があることを初めて知った。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	R3年11月7日	R4年6月25日	R3年7月～R4年6月	合計
事業量	森づくり研修会・チェーンソー実技研修会	森づくり研修会・マダニ現地研修会	日常的な森づくり活動	
参加者数	32名	24名	634名	690名
実施場所	「帯広の森」第8ブロック	「帯広の森」第8ブロック	「帯広の森」第8～9ブロック	

## 帯広の森・カーボンニュートラル促進事業（C-18）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

十勝きこりクラブは、帯広の森の植樹区域整備を担っている市民ボランティア団体です。間伐、除伐、支障木処理活動の結果、未利用資源が発生します。これら資源を林内に放置すると温室効果ガスCO<sub>2</sub>の発生源となり、カーボンニュートラルを阻害する要因となり、SDG'sの理念に反する行為になります。そこで、この未利用資源をCO<sub>2</sub>削減として利用する活動を行なっています。つまり、枝条、幹材など未利用資源を有効活用施設に移送し、次に示す成果を上げています。①チップ化しバイオマス発電に活用しています。②チップ化し家畜の木質系敷料として活用しています。③薪ストーブの燃料として市民に提供し、カーボンニュートラルを促進しています。これらの有効活用は帯広市が掲げているSDG'sの理念、つまり持続可能な社会の実現に貢献していると承知しています。

## 2. 活動の成果

- ①十勝きこりクラブが令和3年に行なった活動は、森林整備活動で発生する間伐材、枝条、幹材が、林地残材となり、温室効果ガスの発生源となることを回避する有効な手段であることを確信しました。
- ②あるいは、枝条、幹材など未利用資源を有効活用施設に移送する予算確保が必須、であること。この予算化ができてこそ、森林整備がSDG'sの理念に従いカーボンニュートラルが促進されることを確認できたことが成果であります。

## 3. 参加者の声

- ①十勝きこりクラブ構成員の高齢化に伴い、安全管理、健康管理を最優先に活動していく方針です。
- ②帯広の森は人工林であり、間伐、除伐など育成管理が必要であるが、時節柄、SDG'sの理念を取り入れることが半ば義務化されている昨今、従来の育成管理手法は見直す必要があると痛感している。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～8月	9月～10月	11月～12月	合計
事業量	枝条幹材移送量・48m <sup>3</sup>	枝条幹材移送量・64m <sup>3</sup>	管理エリア整理	
参加者数	18名	24名	10名	52名
実施場所	帯広の森・昭和58年植樹区			

## 森は海の恋人植樹事業（C-19）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

昆布森地域の住民や関係機関を対象に昆布森漁港近隣において植樹事業を実施した。植樹事業の内容はサクラ苗木の植樹を実施し、漁業資源の確保と水資源の環境を守ることの重要性和普及啓もう活動を実施した。

なお、植樹会の開催にあたっては、鹿による食害被害を防止するため電牧柵による防止策を講じた。

## 2. 活動の成果

今回の植樹活動を通して、地域住民や関係団体に対し水環境の保全や漁業活動への植樹が重要性についての普及啓蒙の一翼を担ったものと思う。

今後も植樹と水、漁業との関連を知ってもらうために今回のような植樹活動における林業等の普及活動を展開していきたいと考えている。

## 3. 参加者の声

新型コロナウイルス感染拡大により規模の縮小や延期などの制限がある中ではあったが植樹事業を通して自然に触れ、身近な海の環境が守られていることの素晴らしさや、植樹した樹木が大きくなり花が咲くことを楽しみとし、来年も植樹を実施したいとの思いを募らせていた。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	R3.12.20	R4.6.6	計
事業量	電牧柵設置	植樹実施	
参加者数	5名	40名	45名
実施場所	釧路町昆布森	釧路町昆布森	

## ☆十勝・桜の山プロジェクト（C-20）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

北海道十勝郡浦幌町富川にある南北230m東西1,100mの23haの雑木林を浦幌町森林組合と連携し、令和5年度までにエゾヤマザクラ3,500～5,000本を植樹し森林の保護・緑化環境保全を図るとともに、さらには、町の観光資源としても寄与する。

#### 2. 活動の成果

令和3年度は、6月下旬から7月上旬にかけてエゾヤマザクラの若木1,000本、大苗300本の植樹を完了した。7月には、その苗木をエゾシカによる食害被害などから保するため、ヘキサチューブ及び獣害保護ネットを設置した。また、植樹体験・植樹祭等については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、残念ではあったが見送らざるを得なかった。

#### 3. 参加者の声

令和3年度は浦幌町立の小中学校にエゾヤマザクラの苗木を各10本寄贈し、その苗木に各校のネームプレート取り付け、学校から感謝の言葉をいただいた。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	7月	計
事業量	ヘキサチューブ・獣害保護ネットの設置	8回
参加者数	20名	20名
実施場所	浦幌町富川	

## 学校緑化事業（C-21）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

ツツジを購入し、ビニールハウスでの保温・栽培期間を経て、校地内に植樹をした。同じように花（マリーゴールド）も保温の期間を経て、校地内に飾った。

#### 2. 活動の成果

植樹や栽培を通して、自然や森林・植物を大切にする心を子どもたちに養わせることができた。

#### 3. 参加者の声

購入計画や植樹や栽培を通して、自然や森林・植物を大切にする意識を高めることができた。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	6月	計
事業量	学校緑化事業	
参加者数	32名	32名
実施場所	美深町立仁宇布小中学校	

## 青森県森林づくり推進体験学習活動事業（A-29）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

県民に森林の重要性について認識を深めるため、「県民の森」を会場として森林の機能や生態等を学習する体験活動を開催する予定だったが、コロナウイルス感染の拡大により開催は中止とし、木工体験キットを参加予定者に配布して実施した。

## 2. 活動の成果

参加者が木工を体験することにより、森林の重要性等について理解や認識を深めてもらう事ができた。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	11月10日	計
事業量	県産材を使用した木工教室	
参加者数	約80人	約80人
実施場所	青森県青森市他	

## 木と人とのふれあい事業（A-30）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

- 県内6地区10箇所（ほか配布実施3地区15箇所）で木工教室や森林教室を開催した。
- 県産スギ材を使った卓上カレンダーの入替え用カレンダーを製作・配布した。
- 幼少期の子供たちに県産材の積み木を贈呈した。

## 2. 活動の成果

木工教室や森林教室の中で、森林の持つ多目的機能の重要性や木材利用の必要性について理解を深めてもらう事ができた。協力団体や企業等に県産スギ材卓上カレンダーを使用することにより、森林・林業の普及啓発を図ることができた。また、幼少期の子どもたちが、日頃から木に接し木を使うことを通じ、豊かな心を育む木育を推進し、木材の利用拡大を図った。

## 3. 参加者の声

- ・毎日の生活では体験できない貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。
- ・木工体験ははじめてで、最初は不安だったけど優しく教えてもらってうれしかったです。
- ・のこぎりの使い方を教えてくれてありがとうございました。
- ・木の成長が地球温暖化防止に役立っていることがよくわかりました。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	7月25日～12月21日	計
事業量	森林環境教室での県産材を使用した木工教室 県内6地区10箇所（ほか配布実施3地区15箇所）	
参加者数	579名（ほか配布実施464名）	1,043名
実施場所	青森市、今別町、弘前市、平川市、新郷村、階上町、むつ市、東通村、五所川原市、中泊町、つがる市、深浦町、鱒ヶ沢町、十和田市、六ヶ所村、六戸町	

## 令和4年度遠野市緑化祭『里山フェスタ2022』(A-31)

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

私達の生活に重要な役割を果たしている森林の多面的な機能とその大切さについて、森林整備の体験を通じて理解を深めることを目的とする。

## 2. 活動の成果

今年度は、遠野市宮守町達首部にある栂川目市有林において開催した。

数年ぶりに遠野市内の森林愛護少年団や企業、市民や林業関係団体から参加を頂き、協力し合いながら、カラマツの植栽を行った。

その他、高性能林業機械による伐採及び造材の実演やドローンによる作業効率の向上を説明し作業の様子を撮影した。

## 3. 参加者の声

森林愛護少年団の参加者は親子での参加者が多かった。

少年団員からは、「土を掘るのが難しかったけど楽しかった。木を植え方を学ぶことができてよかった。」等の声が聞かれ、森林の大切さや森林整備を学ぶ機会を作ることができたと感じた。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	6月11日	計	備考
事業量	・カラマツの植栽 ・高性能林業機械の見学等		
参加者数	295人	295人	
実施場所	岩手県遠野市地内		

## 城内山健康の森事業 (A-32)

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

・矢巾町の観光資源である「城内山」を町と地域住民が手を携え、景観の改善や散策路の拡充等を行い、観光・交流・健康づくり推進の一翼を担うことを目的とする。

## 2. 活動の成果

・森林内の雑草木の刈払・除伐や路網の修繕・拡充を実施したことにより景観が改善され、ハイキングや観光で訪れる人が増えること期待するとともに、地域間交流が図られることを期待する。

なお、この秋には、矢巾町社協と老人クラブで城内山のウォーキングを予定。

## 3. 参加者の声

・森林整備や散策路の整備に携わった方々からは、懸案だった城内山の環境整備ができたことに感謝するとともに、これによって、地域住民間の交流と健康増進が図られることを期待するとの声が多く聞かれた。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	2021/9/11～ 2021/9/20	計	備考
事業量	雑草木の刈払・徐間伐等約4.0ha (内1.0haは委託)		
参加者数	47人	47人	
実施場所	城内山(矢巾町和味地内)		

## 一関地方育樹祭 (A-33)

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

令和3年度一関地方育樹祭は、住民一人一人が、それぞれの立場で森林づくりに参加する気持ちを育み、人と森林が共生する心豊かな社会を構築することを目的として開催した。

## 2. 活動の成果

今年度は、「矢越山ひこばえの森」を会場に、記念植樹のほか、室根町第12自治会長による「森は海の恋人」運動についての講話を行った。

記念植樹や講話を通じて、森林整備の重要性や森林づくりに対する意識の向上とともに、緑の少年団の活動を一関地方の小学校に広く周知したことで、森林環境教育の推進が図られた。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大及び岩手県独自の緊急事態宣言を踏まえ、参加者を開催地の小学生に限定し、規模を縮小して開催した。

## 3. 参加者の声

- ・「森が豊かなら、海はよくなる。緑を大切にしよう」と思った。
- ・自然を大切にしたいと思いながら記念植樹をした。
- ・なかなか普段はできない体験、子供と一緒にできてうれしい。
- ・悪天候により、当初予定していた育樹体験が中止となり残念でした。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	令和3年10月16日	計	備考
事業量	・記念植樹 ・講話 ・育樹体験(中止)		
参加者数	46人	46人	
実施場所	矢越山ひこばえの森(一関市室根町矢越地内)		

## ふるさとの巨樹・名木観察会 (A-34)

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

地域における巨樹・名木を観察するとともに、居住地における歴史や自然環境を理解することにより、自然の恩恵に感謝する心を育むことを目的に遠野地区で観察会を開催した。

## 2. 活動の成果

参加者は、定員20名に対し、14名の応募があり、観察地は、遠野地内の6ヶ所、8種類の巨樹・名木を講師の岩手大学名誉教授 橋本良二氏の解説により観察会を行った。

講師の巨樹・名木に係る幅広い知識と経験を交えて、現地の観察樹木を見ながら樹木の優環境、生態、病害虫の分野まで具体的に分かりやすい説明と歴史にも造詣が深く、巨樹から歴史を学び伝える言葉は意味が深く、講師の解説は参加者からも分かり易くとても良かったと好評であった。

毎年、県内各地で実施しているが、参加人数もほぼ募集定員どおりとなっており、今後も継続して実施することとしている。

## 3. 参加者の声

- ・先生の説明 good
- ・天候にも恵まれ、楽しく勉強になり観察することができた。
- ・名木に沢山元気もらいました。
- ・春の時期の観察会もいいのでは！
- ・今後もこのような企画が計画される場合には、積極的に参加したいと思います。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	令和3年10月23日(土)
事業量	巨樹・名木8種類 JR遠野駅⇒遠野地内(6ヶ所)⇒IR遠野駅
参加者数	14名
実施場所	遠野地内

## 第52回岩手県緑の少年団大会（A-35）

## 基金事業の概要

## 1. 活動の概要

本県の緑の少年団や森林（自然）愛護少年団が一堂に会し、森林を中心とする自然の中で、体験学習等を通して相互に交流し、仲間の連携と理解を深めると共に、緑を愛し育てる豊かな心を育むことを目的に、新型コロナウイルス感染症対策に万全を期し第52回岩手県緑の少年団大会を開催した。

さらに、秋田県・福島県からの参加を得て、県外少年団とも交流することができた。

## 2. 活動の成果

今年度は、地元の森林インストラクター川村冬子氏を森林学習講師に招き、樹木観察を行った。

また、植樹体験やプランターカバー製作（全国植樹祭の会場周辺に花を飾るプランター）及び一輪挿し等の活動を通して、他の少年団員との交流が促され仲間との連携と理解が深まった。

これからの活動を通して人や動植物は豊かな自然環境によって生かされていることや、生活に欠かせない木材の大切さなど、森林や自然を守る重要性の理解と緑化意識の醸成が図られた。

## 3. 参加者の声

- ・岩手県民の森に木を植えたので、これからの成長が楽しみです。
- ・植樹会で植えた木が大きく元気に育ってほしい。雑草が生えないように木の円盤に絵を描いたのが楽しかった。
- ・一番思い出に残った事は、みんなで協力して苗木を植えたことです。苗木の植え方を教わり勉強になった。そして、木の種類や特徴などもすごく分かり易く教えていただきました。
- ・樹木観察では、植物によって葉の大きさや形が色々あったり、松ぼっくりをリスが齧って「エビフライ」のような形になったのを始めて見て面白かった。
- ・色々な木を観察して勉強になったので、これからも沢山の木を観察してみたい。
- ・木工工作では釘を上手に打つことができ楽しかった。一輪挿しを家に持ち帰ったら、お母さんが「すごいね」と言ってくれて嬉しかった。
- ・金槌を使って物を作るのは初めてで、怖かったけど、上手にできて嬉しかった。また作りたい。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	令和3年7月30日（金）
事業量	(1) 開会式 ①寄木小鼓笛隊が歓迎の演奏 ②スカーフとチーフリングの贈呈 ③活動事例発表 ④緑の誓い (2) 全体交流会 ①植樹会 ②樹木観察 ③木工工作（プランターカバー、一輪挿し）
参加者数	305人（緑の少年団14団150人、育成会56人、その他関係者）
実施場所	岩手県八幡平市「岩手県民の森」

## 宮城県みどりの少年団大会開催事業（C-21）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

少年団共通の認識と連携を深め、少年団活動の一層の発展と健全な育成を図るため、第46回（令和3年）宮城県みどりの少年団大会を開催した。

令和2年の大会でクロマツやアオダモを植栽した海岸防災林において、森林ボランティア団体の指導を受けながら、下草の抜き取りやツル切りなどの保育活動を行ったほか、震災後の自然環境の回復状況や外来植物の侵入状況等の自然観察、ネイチャークラフトなどのレクリエーションに興じた。また、式典では新たに設立した少年団に団旗とスカーフの贈呈が行われた。

## 2. 活動の成果

コロナ禍で様々な制約を受けながらの学校生活が続いている中、大会の実施は有意義であった。大会でも施設の利用や活動時間に制限があったものの、参加した少年団員のみならず、育成会の親御さんや教師も含めて、海岸防災林の役割、成林に向けた保育活動の意義、失われた自然の大切さなど体験を通して学習することが出来た。また、年に一度の大会では交流を通して普段会えぬ団員相互の親睦を図ることが出来たほか、新たに設立した少年団に対して、皆で祝福を分かち合うことが出来た。

## 3. 参加者の声

「防災教育の観点からよかった。」

「海岸防災林の説明、活動の指導が良かった。」

「作業体験が出来て良かった。」

「午前中のみ開催でコンパクトで良かった。」

「もっと保育活動をしたかった。」

「楽しかったのもっと時間があれば良かった。」

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	9月26日	備考
事業量	海岸防災林保育活動 下刈作業等約0.2ha 自然観察 ネイチャークラフト 式典	
参加者数	228人	
実施場所	宮城県東松島市矢本板取地内（大曲浜海岸）	



## 緑と水のキャンペーン事業（A-36）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

県土の豊かな水と緑を育み、県民の緑に対する関心をなお一層向上させるため、県内各地で緑の募金街頭キャンペーンを予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中央会場等での募金活動が中止となった。しかし、みどりの月間である4月15日～5月16日に秋田市の秋田駅東西連絡自由通路へ普及啓発プランターを設置し、緑の募金の普及宣伝を強化させたほか、一部の地域では街頭募金のイベントが開催された。

#### 2. 活動の成果

県内の街頭募金イベントの多くが中止となったが、みどりの月間に普及宣伝を行うことにより、厳しい状況の中でも緑の大切さを県民に呼びかける良い機会となった。

#### 3. 参加者の声

- ・久々に自然に関わることの出来るイベントに参加できて嬉しいです。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	令和4年4月15日～5月16日	令和4年4月17・23日	令和4年5月20日
事業量	緑の募金街頭キャンペーン 木製プランター13基設置 材質：木製 寸法：L=120cm W=55cm H=150cm (植栽された花、樹木の高さを含む)	緑の募金 街頭キャンペーン 街頭募金 苗木プレゼント 140本	緑の募金 街頭キャンペーン 街頭募金 苗木プレゼント 200本
実施場所	秋田市秋田駅東西連絡自由通路	五城目町	鹿角市

## 市民グループ森林づくり事業（A-37）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

森づくりや環境緑化に対する県民参加の促進と緑化思想の普及啓発を図るため、市民グループ等が行う植樹、育樹及び環境緑化活動に助成する。

#### 2. 活動の成果

植樹をすることで地域住民の憩いの場として蘇るとともに、緑豊かな郷土づくりを推進することができる。

#### 3. 参加者の声

- ・緑が多くなり賑やかになった。非常に評判も良く、人から人へ広まってくれたら大変ありがたい。
- ・きれいに花を咲かせるようにと健康を願い植えた。孫が見に来てくれるのも楽しみ。
- ・植樹がとても楽しかった。大きくなった木を見てみたい。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	事業内容	参加者数	実施場所
11月1日	サクラの植樹 (並木の造成)	43人	湯沢市稲庭町下川原地内 令和共生の里プロジェクト
11月3日	サクラの植樹と追肥 (環境林の造成)	48人	仙北市角館町西長野地内 株式会社花葉館・植栽グループ
11月7日	サクラの植樹 (環境林の造成)	50人	湯沢市皆瀬川向地内八幡神社境内 仏師ヶ沢部落
11月9日	サクラの植樹 (環境林の造成)	21人	大仙市内小友余目地内 内小友地域森林愛護推進協議会
12月2日	被害木伐採と炭やき (防風林の整備)	260人	秋田市下新城字街道端西地内 炭やきで夕日の松原まもり隊

## 緑の少年団育成事業（C-22）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

次代を担う児童生徒の組織基盤の強化と地域における少年団活動の一層の活性化を図るため緑の少年団交流集会を開催した。また、学校における植樹体験を通じて、児童生徒の緑化への関心を高めるため、児童生徒が行う植樹活動に対して助成した。

#### 2. 活動の成果

緑の少年団交流集会では県内の「緑の少年団」及び森林環境活動等を行う児童生徒が、水と緑の保全と創造に関する自然体験や共同生活を通して新しい友達をつくり、水と緑を愛する心を育んだ。

#### 3. 参加者の声

- ・水のすごさや自然のすごさが分かった。
- ・自然の中の植物を見ることができて、きれいだなと思った。
- ・これからも自然や木々を大切にしていきたい。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	令和3年8月7日	令和3年7月19日	令和3年10月26日	計
事業量	秋田県 緑の少年団交流集会  カヌー体験、高尾山散策、 森林レクリエーション等	秋田市立 勝平中学校  花壇づくり	大仙市立 中仙中学校  樹木の整枝・剪定体験活動	
参加者数	40人	40人	30人	110人
実施場所	秋田県秋田市雄和 雄物川・高尾山	秋田市	大仙市	

## 森林活動指導者支援事業（C-23）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

県民が森林、林業体験活動や森林をフィールドとした保健休養、文化教育等の多様な活動を行う際に支援する指導的人材を育成するため、森林ボランティアを各種研修に派遣した。（新型コロナウイルス感染拡大防止の観点によりリモート開催）  
また、森林ボランティア個人登録者650名への情報提供や、新規登録者へはヘルメットの贈呈を行った。

#### 2. 活動の成果

各種研修に森林ボランティアを派遣することにより、森林ボランティアの資質の底上げ、向上を図った。また、他県や他団体の取り組みに触れることにより、新たなボランティア活動への刺激となった。

#### 3. 参加者の声

- ・子どもたちが元気に安心して活動出来るよう、今後もお手伝いしていきたい。

## 山形県緑の少年団育成事業支援事業（A-38）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

新型コロナウイルス感染症の影響で緑の少年団の交流研修等の実施が困難な中で、各団での活動の充実を目的とし、緑の少年団を育成強化し、相互の親善と活動の促進を図るとともに、その健全な発展に資することため、緑の少年団育成事業を支援する事業を実施した。

## 2. 活動の成果

山形県緑の少年団連盟が緑の少年団の健全な発展と活動内容の充実を図るため、各市町村に組織された緑の少年団運営協議会が行う緑の少年団を育成する事業（緑化活動や森林整備活動等）に要する経費を助成する負担金として支出し、各緑の少年団への装備資材等の購入支援を行った。

## 3. 参加者の声

- ・緑の少年団育成事業の支援により、コロナ禍で縮小傾向にあった緑の少年団を育成強化が図れた。
- ・各緑の少年団で緑化活動や森林整備活動等を実施することができた。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	9月16日	計	備考
事業量	事業の決定		
参加者数	人	人	
実施場所	山形県内27市町村の58の緑の少年団の内、 12市町村32の緑の少年団の活動を支援		

## 森づくりと緑化推進普及啓発事業（A-39）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

新型コロナウイルス感染症の影響で県内の普及啓発イベント等の実施が困難な中で、広く県民を対象として森づくりや緑化の推進を普及活動することを目的にイベント、パンフレット作成等の事業を実施した。

## 2. 活動の成果

コロナ禍により県内の普及啓発イベント等の実施が困難な中で、幅広い世代に森づくりや緑化の推進等の普及を行うことができた。

## 3. 参加者の声

- 【むらやま地域森の感謝祭2021～山辺町森づくりウィーク～】メモリアル記念植樹
- ・人生の節目に記念となる植樹をしたことで思い出になった。これからも成長を見るため、定期的に見に行きたい。
- 【山形県立農林大学校特別講演会】
- ・里山資本主義と言われる地域でお金を回す暮らし方を林業をベースに紹介いただき、仕事ではなく生業としての林業についての働き方の話に大変刺激を受けた。
- 【緑の少年団紹介パンフレット配布】
- ・自分の学校には緑の少年団がなかったが、どのような活動をやっているのか知ることができた。
- 【山形県県民の森普及啓発事業】
- ・普段なかなか自然があるところに行かないが、県民の森のイベントに参加する中で、様々な体験活動の形で自然に親しむことができとても良かった

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	R3.4～R4.3	R4.4～R4.6	計	備考
事業量	・メモリアル記念植樹 ・山形県立農林大学校特別講演会 ・緑の少年団紹介パンフレット配布	・山形県県民の森普及啓発事業		
参加者数	184人	760人	944人	
実施場所				

## 庄内森とみどりのフェスティバル開催事業（A-40）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

新型コロナウイルス感染防止対策及び新しい生活様式に配慮したうえで、森林・林業に係る情報や木材等林産物と触れ合う機会を提供し、その役割や緑豊かな自然環境の重要性について県民に発信し、林業振興への機運を未来へ引き継いでいく。

主な内容として、木製品（日用品、工芸品、おもちゃ）や木材サンプル、森林・林業の仕事や活動等についてのパネル等を展示した他、木製のおもちゃで遊べる体験コーナーや写真撮影コーナーを設置した。

## 2. 活動の成果

地域住民が木製品等に直接触れ、その良さを感じていただくとともに、パネルや模型等により森林・林業に関する知識を広く提供することができた。

地域産木材及び木製品の認知度向上による需要拡大や森づくり活動の契機となった。

## 3. 参加者の声

## 鶴岡会場

- ・久しぶりに木の香りに浸った
- ・小中学校にPRして来てもらおうとよい
- ・来年も続けてほしいです
- ・楽しかった、日用品や木のおもちゃを買ってみたい
- ・今後も続けてください
- ・少しでも良いので実演してほしい
- ・おもちゃ（あそぶもの）がたくさんあって面白かった

## 酒田会場

- ・もっと宣伝されて「木」に皆さんが興味をもたれたら良いですね
- ・木でこんなすごいものが作れるなんてびっくりしました。また開催したら来たいです
- ・とても良い企画 学校関係にチラシを配ってはいかがでしょうか？
- ・とても楽しく子供たちが遊ばせていただきました。木の手触りを体験できてよかったです
- ・匂いの違いや木工品の手触りを体験出来てとても良かったです
- ・木材の特性に合わせた木工品が興味深い
- ・木の香りに癒されます
- ・あたたかみがあってとても良い展示会だったと思います

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	11月13・14日	11月27・28日	計	備考
事業量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パネルの展示</li> <li>・木工品などの展示</li> <li>・体験コーナー</li> </ul>			
参加者数	92人	191人	283人	
実施場所	鶴岡市中央公民館	酒田市総合文化センター		

## 緑化普及啓発事業（第30回緑の提言・作文コンクール）（A-41）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

本県は多くの湖沼や温泉資源、すぐれた景観・自然環境に恵まれ、人情味あふれる県民性ともあいまって全国の人々から愛され、親しまれてきました。

緑は本県のかげがえのない財産であり、これを守り育て次の世代に引き継ぐことが私たち県民に課せられた大きな使命です。森林資源をとりまく諸情勢は厳しく、地球的な問題を抱えている現在、「緑の大切さ」「森林と自然の保全」を啓発することが急務となっています。このため、県民の「緑」に対する関心と意識を高めることを目的に、広く県内の児童・生徒から提言と作文を募集し、優れた作品を表彰・発表するものです。

#### 2. 活動の成果

作品は日常生活の中での体験や家族との会話、環境学習の授業などを通して自然への関心が高まり、美しい自然や豊かな森林を未来へと守っていききたいという子どもたちの思いが伝わってくるもので、毎年の実施することにより、緑や自然環境、環境問題への関心を学年が上がっても持ち続け、更に昇華させている児童・生徒が多く見受けられる。また、文章力・表現力の向上にも役立っていると感じる。今回30回という節目に、改めて、コンクールを通じて未来を担う小中学生に、紙面を通して県民に、「緑の大切さ」「森林と自然の保全」を啓発していききたいと思います。

#### 3. 参加者の声

「作品に対する審査員の感想」

##### ■低学年

家族や日々の生活の中で、どのように自然と関わっているのか、またどのような思い出が関わっているのかを表現している。

##### ■中学年

調べたことや経験したことを詳しく書いたり、それらを基に自分の考えを詳しく述べたりしており、伝えたいことが明確である。

##### ■高学年

身の回りの出来事をきっかけに、緑の大切さについて福島県や日本、世界的な視野で現状や解決策を考えている。緑の提言の趣旨に沿って自分の考えが述べられている。

##### ■中学校

ゴミ問題や地球温暖化、担い手不足、原子力災害などの森林環境保全の現状や課題をよく調べ上げ、緑や自然と関わる生きた体験を考えた切り口や根拠にした作品が多く、読み手に対して説得力をもたらし、力強い提言になっていた。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	令和3年11月1日	令和4年1月13日	令和4年2月17日	備考
事業量	作品募集開始	作品締め切り作品整理	本審査会	
参加者数		185人	7人	
実施場所	本審査会は、オンラインで実施（事前審査は、附属小・中で実施）			

## 森林・林業とのふれあい事業（第46回福島県林業祭）（A-42）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

林業アカデミーふくしまの令和4年度本格開講に向けて、林業関係者だけでなく林業を知らない世代、これから林業の担い手となる世代へ森林・林業の役割やその重要性について、広くPRを図り、林業という仕事の魅力について関心を持っていただくことを目的に、令和3年10月24日に第46回福島県林業祭を開催した。

なお、開催にあたっては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、人数制限・事前申込制とし、イベントや出展ブース等の規模も従来の半分程度に制限し、対象と目的を絞り込んだ開催形態とした。

イベント内容としては、併催行事である林業コンクール等表彰式を開催するとともに、林業アカデミーふくしまのPR、高性能林業機械展示、ドローンやシミュレーターの操作などの豊富な林業体験コーナーの設置や林業のチェーンソー技術を競う「そまリンピック」のほか、県の取組に関するパネル展示など県政PRや各林業関係団体PR、各種相談、木工体験コーナー、チェーンソーアート、きのこ品評会、森のオークション、木工品、農林産物の展示・販売などのイベントを実施し、県内外問わず、若年層から高齢層まで幅広い年齢層での参加があった。

#### 2. 活動の成果

林業機械の体験や林業のそまリンピックを実施したことにより、林業という仕事がイメージしやすいプログラムとなり、就業促進に向け効果的にPRを図ることができた。

また、イベントには1,400名の方が来場し、林業の魅力やその重要性が感じられる機会を提供したことで林業に対する意識の醸成、担い手確保の推進につながる。

#### 3. 参加者の声

来場者に実施したアンケートでは「機械操作体験が楽しかった。林業という仕事に興味を持った。」などの感想が寄せられた。

また、今回初めて実施した「そまリンピック」では、観覧席の子どもたちから「『そまびと』かっこいい。」などの声があり、イベントの趣旨に合致するものとなった。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	10月24日	計	備考
事業量	第46回福島県林業祭の開催		
参加者数	1,400人	1,400人	
実施場所	福島県郡山市安積町成田東丸山61 (第3・第4駐車場)		

## ファミリー緑の教室の開催事業（A-43）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

##### 【目的】

家族が共通の課題をテーマに、一日一緒に自然に親しみながら地球温暖化防止等の緑の重要性を認識するため、森林・林業体験等を通じて、緑に対する愛護の心情と豊かな郷土を後世に引き継ぐ自覚を促進することを目的とする。

##### 【内容】

休日を利用して家族の参加者を募集し、手作りカリンバの製作を行った。木の種類によって異なる特徴（硬さ、匂い、音色）を感じながら、木の良さやその利用の意義を学習した。

#### 2. 活動の成果

木材を使って何かを作成する機会はあまりなく、親子で一緒に作成することにより、少しでも木工品の良さを感じ取っていただけだと思います。

町民の皆様からは、好意的な意見を多数いただきましたので、今後も継続して開催していきたい。また、新型コロナウイルス感染症や会場の都合上、今回は抽選となり参加できない方もいましたので、開催回数や時間等で調整していきたいと思います。

#### 3. 参加者の声

- ・大変楽しかったです。
- ・親子で楽しめるイベントがあまりないので、大変ありがたかったです。
- ・年に1回開催では少ない、もっと開催回数を増やしてほしい。
- ・親1人で子供数人の面倒を見ながら作れるものにしてほしい。

#### 実績報告とりまとめ表

実施時期	1月15日	計	備考
事業量	木工体験		
参加者数	39人	39人	
実施場所	福島県伊達郡国見町		

## ふくしま緑の醸成事業（A-44）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

「緑の募金」における新型コロナウイルスの影響低減に向け、昨年度より運用を開始したキャッシュレス決済によるカード利用者等へ、領収書発行時に「ふくしま緑の写真コンクール」優秀作品のポストカードを作製配布し、緑の醸成の拡大を図るものです。

#### 2. 活動の成果

「第36回ふくしま緑の写真コンクール（令和3年度）」の特選1点、金賞5点、銀賞6点、計12枚のポストカードを作製しました。パッケージデザインは2種類用意し、ポストカードには、桜の香りや緑の募金キャッシュレス決済のQRコードをつけました。

作製したポストカードは、キャッシュレス決済による緑の募金寄付協力者へ領収書と併せて配布しました。また、会議開催時や、企業等へも配布し、緑の醸成の拡大を図るためPRを行いました。

ポストカードのデザインは、写真コンクールの入賞作品を使用していることから、福島県内の美しい緑の風景や自然の力強さを感じさせる作品が多く、ポストカードの配布をとおして、県内の緑への親しみやすさが再認識されるとともに、ポストカードの性格上その波及効果が期待される。

#### 3. 参加者の声

- ・桜の香りがとても良い。
- ・綺麗な写真だ。
- ・県内にこんな場所があるなら行ってみたいと思う。

#### 実績報告とりまとめ表

実施時期	令和3年11月～令和4年3月	計	備考
事業量	ポストカード1,000組		
参加者数	—	—	
実施場所	福島県全域		

## 都市と農村の交流事業（第34回ふくしま緑の百景歩こう会）（C-24）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

緑あふれるコースを歩き、自然と緑の大切さを再認識し、環境保全に対する意識の高揚を目的に、参加者の健康増進と開催自治体の活性化を図るために毎年開催している。

今年は、2011年の集中豪雨により、JR只見線の橋脚が流されるなど甚大な被害を受けた福島県の只見町で開催した。

コースは、ふくしま緑の百景に選定されている浅草岳を望み、また11年ぶりに全線運転再開となったJR只見線の駅舎などを含む「浅草岳を眺めながら只見湖岸を歩き秋景色を満喫するコース」で実施し、参加者には、豊かな自然や歴史、緑あふれる道を歩きながら、自然災害からの復興や防災林など命を守る森林の大切さ、また人と町を支える森林の恩恵を学んでいただいた。

併せて「緑の募金」へのご協力のお願いや地元の名産品等のPRも行った。

参加者については、昨年に引き続き、今年も新型コロナウイルスの感染防止のため、福島県在住の方のみに限定し、新聞掲載やポスター、チラシなどで、参加者募集と様々な緑化推進啓発活動を行った。

#### 2. 活動の成果

「ふくしま緑の百景」の選定地である「浅草岳」を望む豊かな自然や、11年ぶりに全線運転再開した只見線の駅舎など歴史や緑あふれるコースを歩くことにより、自然の良さや防災林など命を守る森林の大切さ、また人と町を支える森林の恩恵を実感していただくことができた。

今後も参加者の健康づくりと自然豊かな福島県の魅力のPRを続けていきたい。

#### 3. 参加者の声

今回は、福島県と新潟県の県境での開催で、豊かな自然に親しむことができ、次年度も参加したいと多くの声が寄せられた。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	令和4年10月23日	備考
事業名	第34回ふくしま緑の百景歩こう会	
参加者数	約230人	
実施場所	福島県南会津郡只見町	

## 青少年に対する林業普及啓発資材の配布事業（A-46）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

森林・林業に対する理解を深めるため、県内の小中高等学校等を対象として、本県の林業普及誌である「林業いばらき」に緑化だより欄を設け、教材として配布する。

#### 2. 活動の成果

林業体験学習の募集、実施状況、緑の少年団の指導者に対する情報提供活動などの広まりに効果があった。

#### 3. 参加者の声

緑化だよりで森林や自然に関わる文化について学ぶことが出来て良かった。

緑化関係イベント等の開催情報が良かった。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	毎月	計	備考
事業量	935部/月	11,220部	
参加者数	教育関係者	人	
実施場所	茨城県一円		

## 緑の体験教室開催事業（A-47）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

子どもたちが森林・緑への理解を深め、自然に親しみ、豊かな自然環境を守る心を育成するため、緑の体験教室を開催した。

#### 2. 活動の成果

緑の体験教室の開催を通して、子どもたちが森林・緑への理解を深め、豊かな自然環境を守る心を育成することが出来た。

#### 3. 参加者の声

児童の皆さんも丸太切りや茨城県の自然の話など、とても有意義な体験になったと振り返っていた。機会があれば、次年度も参加したい。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	7月20日～3月20日	7月20日～3月20日	計	備考
事業量	昆虫標本づくり、冬の昆虫観察会 (計2回)	県内の森林や自然の観察、 木工工作(プランター作り等)、 丸太切り体験等(計11回)		
参加者数	40人	406人	446人	
実施場所	茨城県民の森、潮来市水郷県民の森			



## グリーンフェスティバル開催事業（A-48）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

適正な森林管理の重要性をはじめ、利用期を迎えた人工林を有効に活用することが、森林の整備にもつながることなど、広く県民に森林や木材利用の大切さについて理解と関心を深めるため、「グリーンフェスティバル2021」を開催する。

## 2. 活動の成果

広く県民に、地球温暖化防止等の様々な機能を発揮している森林の重要性を啓発することができた。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	10月30日、31日（道の駅かさま）、 11月6日、7日（水戸駅）	計	備考
事業量	いばらき森林づくり・木づかいキャンペーン2021		
参加者数	延べ2000人	延べ2000人	
実施場所	道の駅かさま、水戸駅		

## 森林ボランティア育成事業（C-25）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

森林ボランティア団体のスキルアップを図るため、指導者養成が急務になっているので、ボランティア活動の意義と技術の習得を目的に公募による指導者育成・確保及び交流を図るための学習を行う。

## 2. 活動の成果

他団体の活動情報の収集・交換を通じて今後の活動に生かせる情報を共有でき、意識の高揚を図ることができた。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	1月21日	3月5日	計	備考
事業量	間伐研修、木工工作、 杉玉づくり	間伐・植栽・下草刈り、 記念植樹		
参加者数	17人	34人	51人	
実施場所	久慈郡太子町高柴	石岡市真家		

## 山村地域づくり活動助成事業（C-26）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

山村地域の活性化を図るため、地域づくりを実践する森林整備グループ活動に対して支援を行うことを目的として、公募により助成金を交付する。

## 2. 活動の成果

県内一円の森林整備を行う団体等に活動助成を行った。

また、支援は団体活動が定着する5年程度を目途に継続支援し、新たな地域、新たなグループの掘り起こしを重点として助成した。

## 3. 参加者の声

活動を通じて地元の自然環境の理解と自然環境部員の情報交流を図ることができ、他地域のグループ結成の動機づけにつながった。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	10月～3月	計	備考
事業量	森林整備・環境整備・間伐実施・竹林整備・松林再生等		
参加者数	12団体/約500人	500人	
実施場所	茨城県水戸市等10か所		

## 緑化樹木等苗木無償配布事業（C-27）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

県民の緑化意識の向上を図るため、市町村等が開催するイベント等の参加者に対し苗木の無償配布を行い、緑化思想の普及啓発を行う。

## 2. 活動の成果

緑化樹木の配布により、各地域での緑化意識の啓発を図ることができた。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	7月20日～3月20日	計	備考
事業量	苗木の配布及び緑の募金PR		
参加者数	500人	500人	
実施場所	石岡市、鉾田市、笠間市、潮来市、日立市他		

## 森林・緑・水に対する国民の認識を深めるための普及啓発事業（A-49）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

みどり豊かな環境を次の世代へ引継いでいくため、幅広い緑化運動を実施し、秋季緑化期間中に、17市町19会場において苗木の配布会を行った。

また、苗木配布会には県土緑化メッセージの幟旗等を多数配置し、参集者への緑化の一層の推進を図った。

なお、当機構の情報・活動内容を掲載した、広報誌「業務報告」を発行し、県内関係機関に配布するとともに、緑化をPRするCMを県域ラジオ・テレビで放送して緑化の推進を図った。さらに、国土緑化推進機構作成の国土緑化運動ポスターを、学校や関係機関に配布し、緑化の重要性について普及啓発を行った。

#### 2. 活動の成果

苗木配布会、みどりの月間にCM放映をするなど、県土緑化の推進及び県民の緑化意識の醸成に資した。また、苗木配布会場においては、募金箱設置や募金チラシの配布等で募金活動を実施し、多くの県民の方々が緑化募金に協力した。

なお、当機構の機関誌「業務報告」には、機構の組織・事業内容、事業実施結果等を掲載し、当機構の事業や緑の募金についてご理解をいただいた。

今後より一層緑化の推進に努めていきたい。

#### 3. 参加者の声

- ①苗木配布会を毎年楽しみにしています。
- ②大切に育てます。引き続き実施してほしい。
- ③実がなるのが楽しみです。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	9月1日～3月30日	4月1日～6月30日	計	備考
事業量	苗木 3,954本 ポスター配布 1,030枚	広報誌配布600冊 県域ラジオ放送28回・ テレビCM10回		
参加者数	4,000人	550人 放送回数計38回	4,550人	
実施場所	苗木配布会:栃木県大田原市他16市町19会場 ポスター・機関誌:各学校・各市町等			

## 青少年の教育の場としての森林の活用促進事業（C-28）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

目的：木工体験や自然観察会で木と自然に親しむ中で、子ども達に自然や森林環境に興味、関心をもってもらい、SDGsの目標達成のために森林や樹木が果たす役割についての学びにつなげる。

内容：令和3年10月23日（土）、とちぎわんぱく公園（壬生町）にて、来訪者（高校生以下とその保護者）に、木工体験（栃木県産材木製ミニ足つきすのこ製作）と自然観察会（公園内自然林をグリーンアドバイザーの説明を聞きながら観察）への参加を呼びかけ、89名の参加を得た。

森林環境教育資料をパネル展示及び配付し、治山や森林の機能についての普及啓発に努めた。

#### 2. 活動の成果

地球温暖化対策と森林環境の関連を、自然観察や木工体験をとおして身近なことから捉える機会をつくれた。

コロナ禍での実施のため、会場の選定や資機材の取り扱い、ソーシャルディスタンス等制約の多い状況ではあったが、参加者の協力も得ながら安全に実施できた。

今後、様々な状況下での実施を想定した柔軟な対応ができるよう事業を検討する必要性を感じた。

#### 3. 参加者の声

- ・昨年参加し、有意義だったため、是非今年も参加したいと心待ちにしていた。
- ・学校での学習を発展させるよいきっかけとなった。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	10月23日	計	備考
参加者数	89人	89人	
実施場所	栃木県下都賀郡壬生町		

## 群馬県植樹祭開催（A-50）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

県民の参加のもと、緑化思想の普及・啓発を図るため、群馬県、南牧村及び林業関係団体等8者共催で、「第75回群馬県植樹祭」を開催。

参加者自らが苗木を植えることで、身近な環境緑化の運動推進と緑化思想の高揚を図ろうとするもの。

## 2. 活動の成果

- ・群馬県植樹祭は、緑豊かな住みよい郷土を作るために昭和21年から続いている郷土緑化運動の中心的行事であり、参加者による記念植樹を通じて、県民の森林に対する愛情と理解を培うことを目的に開催されている。今回は3年ぶりのリアル開催となった。伝統ある行事ではあるが、開催地選定や開催規模など効率的な方法を検討していきたいと考えている。

## 3. 参加者の声

- ・3年ぶりに開催が出来て良かった。
- ・植えた苗木が大きく育つのが楽しみ。山を守り緑を守る大切さが良くわかった。
- ・緑化運動標語「緑植えわたしもできたSDGs」のとおり、SDGsを身近に感じた。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	10月22日	備考
事業量	第75回群馬県植樹祭	
参加者数	360人	
実施場所	群馬県甘楽郡南牧村小沢地内	

## 「木育」活動促進事業（A-51）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

戦後の緑化運動により築かれた豊かな森林を守り、育てるため、将来を担う子どもたちに森林の大切さや木材利用の有用性を普及啓発するため、群馬県が養成した木育インストラクターが所属するこども園や、植樹活動や地域材を利用した「木育」活動に取り組んでいるこども園等に対して「木育」教材を提供し、「木育」活動を促進する。

## 2. 活動の成果

利根沼田森林組合の協力を得て、「木で作る」「木で遊ぶ」をテーマとした「木育」セットを提供し、「木育」活動をとおして子どもたちに木材の良さを体感してもらうとともに、保護者にも木材利用を普及啓発した。

- ①藤岡市鬼石こども育園（木育インストラクター）【園児数44人】
- ②藤岡市ふじおか中央こども園（木育インストラクター）【園児数185人】
- ③高崎市おひさま倉賀野保育園（木育インストラクター）【園児数134人】
- ④洪川市コスモス保育園（子どもたちの未来の森づくり）【園児数103人】
- ⑤南牧村さくら保育園（群馬県植樹祭関連）【14人】

## 3. 参加者の声

- ・子どもたちが楽しそうに遊んでいます。（保育士）
- ・大変ありがたい事業で「木育」を実践したい。（園長）
- ・木の良さが本当によくわかる。（保護者）

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	令和5年3月3日	計	備考
事業量	木育セット10セット		
参加人数	480人		
実施場所	藤岡市鬼石町82ほか4カ所		

## 巨樹・古木巡りツアー事業（A-52）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

県内各地に点在する巨樹・古木の現状と治療状況を樹木医の解説を交えながら観察し、保全の必要性や重要性等の認識と理解を深め、緑化思想の高揚と啓発を図る事を目的として、毎年年2回春、秋に県内4コースにわかれて巡る日帰りバスツアー。

## 2. 活動の成果

新型コロナウイルスの感染拡大のため、今回も参加人数を20名で実施した。

県内各地の代表的な巨樹・古木を樹木医の解説を交えながら観察し、直接木々に触れ、歴史を学び、自然を思いやる心、森林の重要性を伝えることが出来た。

毎回抽選するほどで、4月9日実施の応募状況は、定員80名のところ235名の応募があり、吾妻コースが118名と一番人気であった。

一度参加された方は、4コース巡りたいと、毎回楽しみにしている。

## 3. 参加者の声

- ・緑化の大切さや歴史の大切さも考える事ができた。
- ・コロナ禍で家にいる事が多かった今自然にふれられてリフレッシュ出来て良かったです。又参加したいです。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	11月6日	4月9日	計	備考
事業量	巨樹・古木巡りツアー	巨樹・古木巡りツアー		
参加者数	78人	79人	157人	
実施場所	群馬県一円			

## 緑の少年団活動活性化事業（A-53）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

本県の緑の少年団は県内すべての小学校等に結団され約5万4千人の団員が活動しており、全国的にも有数の規模を誇っている。しかしながら、全少年団を対象として交流集会の開催等が困難であることから、意欲ある少年団の活動を支援し、その少年団の模範的活動を冊子等で紹介することとした。

県内各少年団に対して、緑の少年団として、森林の役割や森林との関わり方を考えるきっかけとなるよう働きかけ、また指導する小学校教員に対し森林環境学習の重要性を認識してもらい、今後の少年団活動の活性化に資することを目的とし、自然観察会やツリーイングなどを実際に森林に入って体験する「夏の森林教室」を開催するほか、各緑の少年団の活動内容を紹介する冊子「緑の少年団活動の記録」ほかを作成した。

## 2. 活動の成果

自然観察会、ネイチャーゲーム、ツリーイングなど実際に森林に入って体験することによって、子供たちの森林や林業、環境問題等に関する理解を深めることができた。活動事例冊子の配布は、他団の特色ある活動や優れた活動を知ることによって、緑の少年団活動がより一層活性化することが期待される。

## 3. 参加者の声

- ・自然をいっぱい感じられたのでとてもよい体験ができました。
- ・ロープを足に引っかけて登るのは難しかったけど、上からの景色がきれいでした。
- ・空気がよく、いい気持ちになりました。
- ・森に来て心身をやすませるため、森林を大切にしたいです。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	7月21日	月 日	計	備考
事業量	夏の森林教室	緑の少年団活動の記録ほか		
参加人数	27人	県内全314団ほかに配布	41人	参加児童・教員27人 ほかスタッフ14人
実施場所	群馬県前橋市「SUBARUふらあいの森赤城」			

## さいたま森林フォトコンテスト事業（A-54）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

森林と緑と水の豊かさを再認識すると同時に、林業及び環境保全への理解を深めてもらうため、県内の森林と緑の再発見を目的に、第31回さいたま森林フォトコンテストを開催した。

作品テーマは「森林や緑などの自然風景、またそれらと人間との結びつきを感じさせるもの、または林業への理解を深めるもの。」として募集した。

## 2. 活動の成果

応募期間は令和4年3月から令和4年5月13日までとして実施し、応募作品は409点であった。同年5月に審査会を行い、特選（知事賞）1点、準特選（緑化推進委員会賞、埼玉新聞社賞）2点、優秀賞（埼玉りそな銀行賞、埼玉県治山林道協会賞、ガイドードリニコ賞、日本製紙賞、AGS賞）5点、佳作12点を選定し、6月21日に表彰式を行った。

表彰式会場での展示のほか、今後埼玉県庁で展示を行う予定である。また、6月20日の埼玉新聞紙上で全入選作品が紹介された。併せて、埼玉新聞社のホームページでも紹介されている。

## 3. 審査総評

今回で31回目を迎えたさいたま森林フォトコンテストは、応募点数409点と昨年の応募点数を16%ほど下回った。数年来、新型コロナウイルス感染症拡大で不要不急の外出を控えるよう求められている状況から応募点数がかなり減ると思われていたが、わずかな減少で済んだのは幸いなことであった。また、一昨年は入選者の平均年齢70歳であったのが、昨年に続き59歳と若返っていて、初入選者も6名になっており、時代の変化を感じさせる。

今年の作品傾向については昨年同様、祭りやイベントなどをテーマにした作品は少ない状況であった。しかし、四季ごとの美しい森林風景や、市民が「森の自然」を楽しんでいるようなシーンを撮影した作品が多く寄せられ、森林（もり）との関わりがいかに深いかを改めて感じさせるコンテスト内容となった。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	3月4日～5月14日	5月17日	6月21日	6月21日
事業量	作品募集	審査会	授賞式	展示
参加者数	409人			
実施場所	埼玉県内			

## 緑の少年団活動支援事業（A-55）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

緑の少年団育成のため、指導者研修を実施した。

また、緑の少年団員へ埼玉県の木からできたストラップを配布し、木材に対して親近感を持ってもらうとともに、地球温暖化防止に対する森林の役割について理解を深めてもらう。

## 2. 活動の成果

次代の緑化運動の担い手である「緑の少年団」活動の推進と、継続して森を守り育てることの大切さが普及啓発された。

## 3. 少年団の声

- ・研修会で、新型コロナウイルス感染症防止に配慮した活動方法について参考になった。
- ・今年も活動があまりできなかったが、ストラップ作りは楽しかった。
- ・木を使うことが地球のために役に立つことを知った。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	7月29日	9月～11月
事業量	研修会	埼玉県産材木製ストラップ 1500個配布
参加者数	20人	22団
実施場所	寄居町、埼玉県内	

## 緑化普及啓発事業（A-56）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

県民に対し緑化活動への参加促進を図るため、森林ボランティア団体の活動を情報提供した。

活動情報は、8月から4月の地元新聞に森林イベント情報を掲載し、緑の募金とともに森林ボランティア活動への参加を呼びかけた。

#### 2. 活動の成果

新聞の情報を見て、毎月2から3人が新たに森林ボランティア活動に参加した。

#### 3. 参加者の声

- ・森林ボランティア活動をやってみたかったが、どこに問い合わせようかわからなかった。新聞を見て、参加のきっかけとなった。
- ・緑の募金が緑化に役立っていることがわかった。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	R3.8.～R4.4.	計	備考
事業量	1月を除き、毎月1日にイベント情報掲載		
参加者数			
実施場所			

## 木づかい推進・普及啓発事業（A-57）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

二酸化炭素吸収機能など、森林の公益的機能を十分に引き出すためには森林の若返りが求められている。

そのためには豊富な森林資源を上手に活用し（木づかい）、木材製品の良さを社会全体に普及啓発する必要があることから、本事業においてモデル的な取り組みとして間伐材を利用したベンチ、消毒ポール及び樹木名ラベルを製作し、会員市町村の施設及び葛南教育事務所管内の小中学校（43）に設置した。併せて地域材、間伐材の活用の目的を広く周知等を行った。

## 2. 活動の成果

市町村の庁舎だけでなく、学校や図書館などの施設に設置することにより、多くの県民が木製品に実際に触れることができるとともに、豊富な森林資源を上手に活用し循環させることの重要性について理解を広めた。

## 3. 配布先の声配布先の感想を短くまとめたもの

木の自然な色合いが良い・木の暖かみがあってよい・学校も喜んでた（学校設置分）  
子どもたちが樹木名を学び、みどりにふれあった。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	7月1～2月28日	7月1～12月28日	計	備考
事業	ベンチ、消毒ポール	樹木ラベル		
設置数	13市町村	43小中学校		
実施場所				

## 森林・林業技術講習会（A-58）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

健全な森づくり、災害に強い森づくり、森の生物多様性など、現代の森づくりはテーマが多様化、高度化しており、専門的な知識や技術を求めるニーズが出てきていることから、森林に携わる県民のスキルアップを図るため森林林業技術講習会を実施した。

会員、市町村及び県の森林・林業・緑化等の担当者、森林・林業に関心のある県民等を対象に、「森林土木工事へのICT導入に向けた林野庁の取組」、「リモートセンシング技術を用いた森林土木・森林整備事業の効率化」と題して講習会をおこない、知識・技術の習得を図った。

## 2. 活動の成果

千葉県でも集中豪雨などの自然災害が発生しており、森林では広範囲にわたる風倒木被害が発生している。森林機能の大切さを再認識するとともに、治山・森林整備事業の重要性が増しており、森林土木・森林整備のICT化が進んでいくことで効率化を図っていく。また、参加者がそれぞれの職場、地域等で本講習会の内容を周知することが期待される。

## 3. 参加者の声

ICT化は森林の管理に必要な技術だと思う。業務の効率化がはかれると思った。最新のデータや情報を聞くことができ、勉強になった。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	12月1日	計	備考
事業量			
参加者数	34人	34人	
実施場所	ホテルプラザ菜の花		



## 第41回千葉県みどりの少年団交流集会（C-29）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

みどりの少年団員に森林等での体験学習の機会、相互交流の機会を提供し、緑・森林への理解や親しみを深め、少年団活動の一層の活性化を図ることを目的にコロナ禍において実施可能な行事様式や内容にアレンジした第41回千葉県みどりの少年団交流集会を実施。

内容は①「チャレンジ、樹木博士」（10/30、11の少年団から、親子13組26名参加）は子ども樹木博士制度を用いた自然観察・学習・自然素材を活用した創作活動等。②「木を知ろう、木を使おう」（12/4、14の少年団から、親子14組28名参加）は学習会（森林資源の循環利用）、木のおもちゃ遊び、木材市場の見学、木工作等を行った。

## 2. 活動の成果

自然や緑を守り育てることの大切さを体験活動をとおして感じてもらった。これらの体験を参加者が各少年団に持ち帰り、フィードバックすることで一層の活動の推進が期待される。

## 3. 参加者の声

木にはいろいろなおいがあった。もっとたくさんの木や葉について知りたい。（チャレンジ、樹木博士）  
木を大切にすることをもっと多くの人に知ってもらいたい。（木を知ろう、木を使おう）

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	10月30日	12月4日	計	備考
事業量				
参加者数	26人	28人	54人	
実施場所	緑化推進拠点施設	千葉県木材市場協同組合		

## ふるさとの杜活力調査事業（B-3）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

都内には小さな公園や寺社など、多くの「杜」が点在する。これらは、市街地における美観風致の維持に加え、地域住民の憩いの場や災害時の避難場所としても、古くから重要な役割を果たしてきた。

こうした公共的評価の高い「杜」のうち、区市町村が指定する保存樹や保存林などを中心とした樹林を対象に、樹勢診断と健全度評価等を実施し、その成果を樹林の整備に還元した。

また、本事業を通じて過去に調査を行った「杜」についても、その後の保全や活用の状況を追跡調査して再評価し、地域の取組みの中で「杜」を有効に活用する方策等をまとめた。

## 2. 活動の成果

今回は、計4か所で調査を実施し、それぞれの報告書を作成した。

杜の活力調査では、おとめ山公園（新宿区）、向川原堤桜並木（日野市）、原町田ふるさとの森（町田市）にて、樹木や植生の現況、活力度等の調査・評価を行い、今後の管理方法について提言等を行った。

追跡調査では、武蔵御嶽神社杉並木（青梅市）の樹木・植生について、前回調査後の変化等を再調査し、持続可能な「杜」として管理するための提言等を行った。

上記4箇所の「杜」における樹木の腐朽や枯損等の問題点と課題を明らかにし、具体的な対策を提言としてまとめ、地元自治体へ還元した。今後、利用しやすい「杜」の環境整備と安全確保がいっそう進み、景観の維持や生物多様性の保全等が図られることが期待でき、都市緑化の推進に寄与した。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	8月3日～2月28日
事業量 ・参加人数	・樹勢調査・樹木点検 4か所=79人 ・報告書作成 4か所 27人×5日=135人 延べ 214人
実施場所	・活力調査:おとめ山公園（新宿区）、向川原堤桜並木（日野市）、 原町田ふるさとの森（町田市） ・追跡調査:武蔵御嶽神社杉並木（青梅市）

## 普及啓発 卒寿の森づくり事業 (A-59)

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

22世紀の県民に緑の遺産を贈る木を植える県民運動を広く普及啓発するため、県民一人ひとりが吐き出す二酸化炭素を自らの植樹活動によって相殺させることを目的とする、県民運動を象徴する森づくりを実施する。

#### 2. 活動の成果

水害で荒廃した三条市大谷ダム周辺で、卒寿の森づくり実行委員会を立ち上げ、参加者を募り、ブナを植樹した。活動については会報誌やラジオ、新聞等を通して周知した。

#### 3. 参加者の声

- ・うまく、楽しく植えてよかったです。ぼくたちがおとなになったときに、高く大きな木になってほしいと思って植えました。(地元小学校4年生)
- ・時間はかかりますが、木を植えて土砂の流出を防ぎ、大谷ダムや五十嵐川の濁水対策になればと思います。(五十嵐川漁協組合長)

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	R3年7月～R3年10月	計	備考
事業量	植樹ブナ103本		
参加者数	100人	100人	
実施場所	新潟県三条市		

## 「にいがた緑の百年物語」普及啓発事業 (秋期) (A-60)

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

地球温暖化防止や持続的可能な社会の実現に向け、当委員会では、21世紀の百年をかけて県民みんなで木を植え、緑を守り育てる『にいがた「緑」の百年物語一木を植える県民運動』を展開している。この運動への県民の一層の参加促進を図るとともに、「国民参加の森林づくり」の具体的な行動を喚起するため、BSN放送での周知、森づくり活動情報パンフレット、会報誌の作成を行った。

#### 2. 活動の成果

ふるさとの環境について理解を促進するため、新潟放送(BSN)が企画した「近藤丈靖の独占ごきげんアワー」内「ごきげんガーデニング」では、県民一人ひとりが身近な森林について考え、保護し活動を促すことを発信した。新潟の森林について考え、森林への理解を深めること、「緑の募金」協力を広く県民に呼びかけることができた。

また、にいがた「緑」の百年物語県民運動及び国民参加の森づくりへの一層の参加の促進を図るには森づくりや緑化の活動情報を県民に提供する必要がある。会報誌では、植樹した樹木の成長した姿、森からの恵み、活動するボランティア団体の紹介等を広く周知することができた。

そのほか県内で実施される森づくりの活動情報が記載されたパンフレット(秋期版)等を作成して広く県民に配布し、ホームページにも掲載したことで、活動の参加促進を図ることができた。

どちらも新潟においては少しずつ浸透してきており、今後も春期と秋期の2回に分けて継続していく。

#### 3. 参加者の声

- ・「ごきげんガーデニング」の放送を聞いて緑の募金への意識が高まった。
- ・自分たちだけで広報をするには限界があるので、パンフレット等での広告はととてもありがたい。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～12月	7月～9月	7月～9月	7月～9月	備考
事業量	BSN放送	パンフレット	会報誌	募金チラシ	
参加者数	人	人	人	人	
実施場所	新潟県全域				

## 「にいがた緑の百年物語」普及啓発事業（春期）（A-61）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

地球温暖化防止や持続的可能な社会の実現に向け、当委員会では、21世紀の百年をかけて県民みんなで木を植え、緑を守り育てる『にいがた「緑」の百年物語一木を植える県民運動』を展開している。この運動への県民の一層の参加促進を図るとともに、「国民参加の森林づくり」の具体的な行動を喚起するため、会報誌、事務局だより、森づくり活動情報パンフレットの作成を行った。

#### 2. 活動の成果

にいがた「緑」の百年物語県民運動及び国民参加の森づくりへの一層の参加の促進を図るには森づくりや緑化の活動情報を県民に提供する必要がある。会報誌では、植樹した樹木の成長した姿、森からの恵み、活動するボランティア団体の紹介等を広く周知することができた。

また、事務局だよりでは、当委員会の運営を深く理解し、「緑の募金」を促すため、当年度の事業計画のほか、国土緑化運動・育樹運動のポスターや標語の入賞作品、褒賞の受賞者を広く周知することができた。そのほか県内で実施される森づくりの活動情報が記載されたパンフレット（春期版）を作成し、広く県民に配布することにより、活動の参加促進を図ることができた。

会報誌と活動情報パンフレットにおいては着実に浸透してきており、今後も春期と秋期の2回に分けて継続していく。

#### 3. 参加者の声

- ・自分たちだけで広報をするには限界があるので、パンフレット等で活動等の県民への周知はとてもありがたい。
- ・イベント情報の掲載期間の範囲が広まったため、年間を通した活動が周知できるようになって良かった。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	3月～4月	4月～5月	10月～6月	3月～4月	計	備考
事業量	会報誌	事務局だより	パンフレット	新潟放送		
参加者数						
実施場所	新潟県全域					

## 緑化団体活動周知・地理情報活用事業（A-62）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

地球温暖化防止や持続的可能な社会の実現に向け、当委員会では、2001年にスタートした、21世紀の百年をかけて県民みんなで木を植え、緑を守り育てる『にいがた「緑」の百年物語一木を植える県民運動』を展開している。この運動への県民の一層の参加促進を図るとともに、「国民参加の森林づくり」の具体的な行動を喚起するため、地理情報システムを活用して、県内で展開する緑化団体の活動を周知し、身近な森づくりの推進を図る。

#### 2. 活動の成果

第65回全国植樹祭の開催を契機として、県民参加の森づくりの推進が一層求められている。当委員会が中心的役割を担う、2001年にスタートした「にいがた緑の百年物語県民運動」のこれまで積み上げた県内各地の森づくり活動を集約・発信し、森林・緑に対する意識を深める機会を提供するとともに同時に、身近な森づくりへの参加を促した。また、環境保全への関心を深め、ボランティアによる森林整備や緑化活動を活発にした。そして、当委員会との連携や緑化活動団体相互のつながりを密にし、県民一人ひとりが思いを抱く緑化活動の展開につなげた。

#### 3. 参加者の声

- ・これまでの森づくり活動が簡単に検索でき、他団体の情報も知ることができた。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	R3年7月～R4年6月	備考
事業量	地理情報システム	
参加者数	人	
実施場所	新潟県全域	

## 森林・木材等普及啓発事業（A-63）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

## ①木工教室の開催

富山県木材組合連合会と共催で、令和3年10月23日、県木材研究所において「とやま木と住まいフェア2021」を開催した。木工教室（椅子、バードコール、小枝のキーホルダーづくり）、公開実演（柱を曲げて木の強さを調べよう、ヒノキ丸太のかつらむき）を体験し、木のもつ柔らかさや温かさ、加工の容易さなど木の特徴を伝えることができた。

## ②緑に親しむ集い

令和4年5月4日（みどりの日）、県民公園頼成の森において「緑に親しむ集い」を開催した。シイタケの植菌体験（120本）、管理方法や森からの恩恵について普及啓発を行った。

## ③花とみどりの少年団支援

森林環境教育を促進するため少年団に運営費を助成した。また、少年団活動の一層の推進と、少年団としての連帯意識の高揚を図るため、各少年団の地域活動を取りまとめた「活動集」を作成し配布した。

## ④森林・緑普及広報

ホームページで事業活動を紹介し、県民に森林・緑の大切さを普及啓発した。また、学校への苗木配布や各種コンクールの募集、審査や表彰を行い、県民の緑化思想の醸成を図った。

## 2. 活動の成果

木工教室やシイタケの植菌体験を通して、森の恵みの活用や作る楽しさ、木のもつ柔らかさや温かさを知ってもらえた。

森林環境教育や苗木の植樹を通して、未来を担う青少年に森林のはたらきについて理解を深める機会となった。

ホームページで情報を発信することにより、身近な森林や緑化に関する事業やイベントへの参加や理解に繋げることができた。

## 3. 参加者の声

（木工教室）バードコールを持って親子で森林散策をしたい。

（シイタケ植菌体験）親子で貴重な体験ができた。来年も参加したい。

（花とみどりの少年団活動）森林のはたらきについて知識を深めることができた。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	2021/10/23	2022/5/4	通年	計
事業量	木工教室の開催 （とやま木と住まいフェア2021）	緑に親しむ集い	花とみどりの少年団支援	
参加者数	300人	84人	32団	384人/32団
実施場所	富山県射水市	富山県砺波市	富山県内一円	

## 花とみどりの少年団活動支援事業（C-30）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

次代を担う子供たちが、緑と親しみ、緑を愛し、緑を守り育てる活動を通じて、ふるさとを愛し、そして人を愛する心豊かな人間に育っていく一助となるよう、県内の各少年団のうち、今後リーダーとなる小学校5年生（社会科で森林との関わりを学ぶ）を対象に、副読本を配布し、希望少年団へ講師の派遣をした。

## 2. 活動の成果

今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、少年団が一堂に会する学習を中止とした。しかしながら、団員の学びの機会を確保する必要があると考え、各少年団単位で副読本（みどりのおもしろ発見ノート）の配布をし、希望少年団へは講師の派遣（6校、75人）をした。

森林のはたらきや森林の大切さについて、一定の理解を深めることができた。

## 3. 参加者の声

講師の先生の話聞いてわかったこと

①「森林がSDGsに貢献していることが分かった。」

②「身近な森林に興味を持つことができた。」

③「森林の手入れが必要なことを知った。」

## 実績報告とりまとめ表

## ①副読本（みどりのおもしろ発見ノート）の配布

実施時期	8月17日	計
事業量	副読本（みどりのおもしろ発見ノート）の配布	
参加者数	1200人	1200人
実施場所	県内の小学5年生の団員及び指導者、その他関係者	

## ②講師派遣

実施時期	R3.10/27	R3.11/29	R3.12/13	R4.1/27	R4.2/24	R4.2/28	計
事業量	講師派遣						
参加者数	13人	10人	17人	9人	18人	8人	75人
実施場所	立山町立 立山小	上市町立 白萩西部小	立山町立 釜ヶ淵小	南砺市立 井波小	南砺市立 上平小	南砺市立南砺 つばき学舎	

## 森づくりグループ活動支援事業（C-31）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

森林整備を行う森づくりグループの活動を支援し、森づくりグループの自発的な活動を促進した。

## 2. 活動の成果

植樹活動による健全な森林育成を通じて、地球温暖化防止や環境保全、水源の確保、潤いと安らぎの提供など多様な効果が期待できる。

また、第68回全国植樹祭（2017年5月28日開催）で高まった緑化の機運が継続された。

## 3. 参加者の声

- ・景色のよいところに植樹したので、成長した花と、景観を同時に眺めることが、楽しみです。
- ・開花時期の異なる木を植樹したので、苗の成長と季節を感じるために、公園を訪れることが楽しみです。
- ・花とみどりの少年団の子供たちが、楽しそうに植樹している姿が印象的でした。この苗が大きく花開き、公園を訪れる人の心を明るくしてくれることを期待します。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	10月13日	計
事業量	植栽0.05ha ・ヤマザクラ 7本 ・サルスベリ 40本 ・ハギ 40本	植栽0.05ha ・ヤマザクラ 7本 ・サルスベリ 40本 ・ハギ 40本
参加者数	68人	68人
実施場所	富山県滑川市東福寺野 「東福寺野自然公園」	

## 緑化思想の普及啓発事業（A-64）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

幅広い県民の緑化意識の高揚を図るため、緑化運動・育樹運動ポスター原画コンタールの県審査における入選作品の表彰を行った。

また、「県民みどりの祭典」やショッピングモールにおいて、入選作品の掲示を行った。

## 2. 活動の成果

表彰により応募者のインセンティブが高まるとともに、緑化ポスターに対する関係者の関心が高まった。

また、イベントやショッピングモールにおける作品の掲示を通して、広く県民の皆さんに対する緑化思想の普及啓発に役立った。

## 3. 参加者の声

森や緑の大切さについて、子供たちの視点で絵に表現されている。

表彰や作品展示は、児童・生徒のインセンティブの向上になる。

作品を鑑賞して、子供たちの自然に対する想いの一部が伝わってきた。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	令和4年3月～5月	計	備考
事業量	県民みどりの祭典:掲示、表彰 ショッピングモール:5カ所掲示		
参加者数	1,000人	1,000人	
実施場所	河北郡津幡町ほか4市町		

## 県内産緑化苗木無償配布事業（C-32）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

幅広い県民の緑化意識の高揚を図るため、県・市町、関係団体等の緑化イベント、緑の募金や緑化の普及啓発活動とセットで県内産緑化苗木の無償配布を実施した。

## 2. 活動の成果

緑化苗木の無償配布を通じて、広く緑の募金運動や緑化の大切さに対する意識の高揚が図られ、新たに募金に協力する動機付けにつながった。

また、県内における緑化苗木生産部門の振興に寄与した。

## 3. 参加者の声

森や緑の大切さについて、改めて感謝したい。

今後、緑を守り育てるための協力をしていきたい。

無償配布で頂いた緑化苗木は大切に育てていきたい。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	令和4年3月	令和4年4月	計	備考
事業量	31本	210本	241本	
参加者数	31人	1,000人	1,031人	
実施場所	県内一円	河北郡津幡町		

## 森づくりボランティア・キャンペーン事業 (C-33)

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

森林に対する国民の期待が多様化、高度化する中、国民参加の森づくり運動推進の中核的役割を担う森づくりボランティアのリーダー養成を目的に、県内各地で森づくりボランティア・キャンペーンを展開し、活動基盤の整備及び森林ボランティアリーダーの養成、資質の向上を図った。

ボランティアについては、一般県民を対象に広く募集し、地元の住民との交流、連携に努めながら、各フィールドの森林の現況に応じて、植栽、下刈、施肥、除間伐、歩道開設、竹林伐採等の作業を実施した。

また、現地での作業のほか、セミナー形式で森づくりに関する基礎的知識や、安全のポイント、森林整備の道具・機械類の扱い等の研修を開催し、人材の育成に努めた。

## 2. 活動の成果

各フィールドの整備が促進されたことに加え、計画的に県内の森づくりボランティア活動を担う人材の育成が図られた。また、地元住民等との交流を通じて、農山村の活性化に役立った。

## 3. 参加者の声

森林の大切さや森林整備における各種作業の適期、必要性が理解できた。

森づくり活動は、一定期間継続しなければいけないことがわかった。

事前準備の重要性や作業が重労働であることがわかった。

## 実績報告とりまとめ表

## ①森づくり活動

実施時期	9.4 11.6 (第2回)	9.11	9.25	10.16 11.13 (第2回)	10.30	計
事業量	竹伐倒整理、 植樹 0.3ha	下刈 0.99ha	下刈、植樹 0.3ha	竹伐倒整理、 植樹 0.4ha	下刈、植樹 0.4ha	2.39ha
参加者数	75人	48人	62人	111人	57人	353人
実施場所	津幡町	小松市	能美市	金沢市	輪島市	

## ②研修講座

実施時期	7月～11月
事業量	講義6回
参加者数	124人
実施場所	金沢市他2市町



## もりとふれあい推進事業（普及啓発事業）（A-65）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

森づくりを通じて次世代の育成を目指した森林教育の推進と、山村地域の活性化・地域づくりの推進を図る。

- ①自然素材で木染め体験 ②森の生き物観察 ③原木シイタケの植菌体験 ④自然素材の収穫とリース作り体験 ⑤紅葉の森の散策で健康増進 ⑥侵入竹の伐採とバンブーハウス作り ⑦森林からSDGsを学ぶ ⑧森林内の植樹、草刈り作業活動

## 2. 活動の成果

森からの新たな恵みを体感し、木染めやリース、箸作りなどを通して親と子が楽しく自然体験ができたこと、森林内でキノコや昆虫に接し生物の多様性を感じられたこと、シイタケが森からの恵みであることと元気な森づくりに繋がることを理解出来たこと、森林内を歩く事で健康増進が図れることをエビデンスを基に理解できたこと、荒廃した竹林の現状と竹の新たな活用を体験できたこと、植樹や下刈の体験ができたことなど、森づくり活動等を通じて広く県民に森林づくり運動の大切さや、森と緑・水・きれいな空気などの関係の認識が深められた。

今後とも大人から子供まで県民が森の中に入り、森の恵みを体験できるイベントを実施する。

## 3. 参加者の声

- ・クロモジを使った木染めや箸づくりを通して森の恵みを感じられた。
- ・普段見ることが出来ない昆虫やキノコ、植物がたくさんあることが分かった。
- ・シイタケは森の恵みであること、大変な手間が掛けられていることが分かった。
- ・リース作りを通して子どもと森の中で自然に触れ合えることが出来た。
- ・子どもに自然を学ばせたかった。森を歩いていて色々な発見に興味を湧いた。
- ・荒廃した竹林の現状と新たな活用方法を学べて良かった。（バンブーハウス）
- ・ネイチャーゲームを通してSDGsを楽しく学べた。
- ・森にはいろんな植物や虫などがたくさんいることがわかった。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	9月20日 10月10日 10月31日	11月14日 11月21日 12月12日	12月19日 11月25日	計
事業内容	木染め体験 マイ箸作り体験 秋の自然観察 森の生き物探し 樹木観察 原木シイタケ体験	林内散策 リース作り体験 森のウォーキング 竹林の整備 バンブーハウス作り体験	冬山の散策 森からSDGsを学習 植樹と草刈り体験	
参加者数				230人
実施場所	越前市別印、福井市朝谷町、大野市阿難祖領家、鯖江市西山町、福井市竹生町、福井市下市町、越前町江波			

## ふくいの森林づくり推進事業（活動基盤の整備）（C-34）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

森づくり活動の実践と森林整備の担い手、森林ボランティアリーダーの養成を図る。

- ・ふくいの森づくりを知る研修会
- ・森を元気に育てる体験会

## 2. 活動の成果

植樹の大切さの体験、低コスト化して伐採する方法の講習、余すことのない森林資源の利用講習で、森林の大切さ、地域材・山村資源の活用等について、子どもから大人まで広く県民に啓発ができた。これからも植樹体験会や効率的な森林整備研修会を実施し、森林所有者や一般県民、ボランティア団体に積極的に森林づくりに参加して貰えるよう努めたい。

## 3. 参加者の声 参加者の感想

- ・機械で木を伐るところを初めて見たが、こんな機械もあるのかと思った。
- ・建築材にならない木材はチップ、木粉化して、違った形で活用される事がわかった。
- ・自分の植えた木が大きくなるのが楽しみ。また見にきたい。
- ・森林の働きがわかった。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	10月9日	11月21日	計
事業内容	伐採講習リサイクル講習	植樹体験森の働きを学ぶ	
参加者数	18人	80人	98人
実施場所	あわら市清滝・蓮ヶ浦地区、若狭町中井地区		

## 普及啓発事業 教職員森林・林業研修 (A-66)

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

学校周辺の自然を観察する方法や、体験活動、木工の指導方法等について、実作業を通じた研修を行うことにより、社会科、理科、生活課、総合的な学習の時間、環境教育等における指導方法の向上を図る。

## 2. 活動の成果

教職員の木材への理解や工作スキルが高まるとともに、児童生徒に対して教育する際のポイントが身につくなど、実践力アップが図れた。

## 3. 参加者の声

- ・山梨の森林・林業を知る初めての機会であり、森に対する感心が高まった。
- ・木が鉄に比べて火に強いというのは意外だった。
- ・間伐体験は迫力もあり、森の大切さを身をもって感じる事が出来た。
- ・実作業に携わる方が講師であったことから、技術や説明に奥深いものを感じた。
- ・木工に使う道具の種類や使い方、ポイントやコツがよく理解できた。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	令和3年8月3日	令和3年8月6日	計	備考
事業量	・森林・林業・木材の基礎知識 講義 ・木工入門講義および実技	・森林・林業・木材の基礎知識 講義 ・間伐体験と樹皮を使ったカゴ 作り		
参加者数	8名	6名	14名	
実施場所	山梨南巨摩郡富士川町最勝寺 山梨県森林総合研究所			

## 普及啓発事業 緑の少年隊活動発表会大会開催 (A-67)

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

県内各団体の情報を共有する中で、各団体における今後の緑化活動が発展することを目的として、緑化活動を積極的に行っている団体として各地区から推薦された4団体が、日ごろの緑の少年隊や学校林活動等の状況を発表した。

## 2. 活動の成果

特色ある活動内容や実施方法について、広く共有できたことで、今後の団体活動の広がりや充実が期待できる。

## 3. 参加者の声

- ・隊員の発表だけでなく、意見や感想なども交換できて良かった。
- ・審査待ち時間に舞鶴城公園での歴史学習を企画したのは、子どもたちにとって良い機会だった。
- ・もっと多くの隊の子どもたちへ聴かせたい。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	令和3年11月13日	計	備考
事業量	4団体による活動発表		
参加者数	39名(指導者等を含む)	39名(指導者等を含む)	
実施場所	山梨県甲府市丸の内 恩賜林記念館 大会議室		

## 普及啓発事業 緑化ポスターコンクール等開催 (A-68)

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

県土緑化運動の一環として、植樹及び森林・樹木の保護・保育の助長並びに県民の緑化思想の高揚を図るため、青少年等を対象に、緑化ポスター・標語のコンクールを開催し、優秀作品を選定後、秋に開催した山梨県林業まつり記念式典で表彰を行った。

## 2. 活動の成果

ポスター、標語の応募を通じて、森林や自然に対する関心を深めてもらい、森林環境教育の充実が図られた。

## 3. 参加者の声

- ・植樹祭での植樹活動の経験を思い浮かべながら書くことが出来た。
- ・木や森があることで生きられる動物や植物がいることを改めて感じた。
- ・このような活動を機会に緑化や育樹の意義や必要性が広がるとよいと思った。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	令和3年7月 ～12月	令和3年7月 ～12月	計	備考
事業量	緑化・育樹ポスターコンクール	国土緑化運動・育樹運動標語 コンクール		
応募者数	821作品	677作品	1498作品	
実施場所	山梨県内全小中学校（標語は、高等学校・特別支援校・一般も含む）			

## 普及啓発事業 子ども樹木博士認定事業 (A-69)

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

夏休み期間中に県内の2箇所の森林で、小学生とその保護者を対象として、林内を歩きながら講師から樹木の解説を受けた後、樹木の名前テストを実施し、成績に応じて樹木博士の認定書を授与した。  
(新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、実施施設の利用可能人数等から募集人数を絞って開催)

## 2. 活動の成果

森林の中で、親子が共にふれあいながら樹木の名前を識別できるようになり、自然に親しんでもらうきっかけになった。

## 3. 参加者の声

- ・普段は気にかけない木にも、いろいろな種類や様々な特徴があることがわかり、森を見る目が変わった。
- ・来年も挑戦してより上の段を目指したい。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	令和3年7月18日	令和3年8月1日(日)	計	備考
事業量	小学生9名、中学生1名 に認定書を授与	小学生11名に認定書を授与		
参加者数	19名(保護者を含む)	19名(保護者を含む)	38名(保護者を含む)	
実施場所	山梨県甲府市山宮町片山 武田の杜 山梨県南都留郡富士河口湖町船津 河口湖フィールドセンター			

## 普及啓発事業 親子緑の集い (A-70)

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

加工を伴う木工や、枝・木の実・樹皮等を組み合わせたクラフト、ロープを使い高木へ登るツリークライミングなど、森林の恵みの豊かさや楽しみ方を体験をとおし、親子でのふれあいながら森林や緑の重要性の理解を深める。

## 2. 活動の成果

日常生活では味わうことのできない森林や木工体験の場を親子に提供することにより、森林や緑への幅広い意識の醸成が図れた。違う季節に異なるプログラムを行うなど、森林の持つ多彩な魅力を伝える工夫を続けていきたい。

## 3. 参加者の声

- ・ガイドさんの解説のおかげで、これまで見えなかったこと、知らなかったことを沢山学んだ。
- ・ツリークライミングは素晴らしい体験、もっと機会を増やしてほしい。
- ・怖かったけどとても楽しかった。
- ・素敵な工作で、親子でとても楽しく参加ができた。
- ・このような企画をもっと数多くやってほしい。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	令和3年7月24日	令和3年10月23日 令和3年10月24日	令和3年11月23日	計	備考
事業量	森の散歩と山梨県の木を使った木工	親子でツリークライミング	クリスマススタペストリー作り		
参加者数	親子15組 37人	親子20組 66人	親子16組 45人	親子51組 148人	
実施場所	山梨県甲府市山宮町 武田の杜サービスセンター				

## 普及啓発事業 親子森林・林業体験教室開催事業 (A-71)

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

日頃、森林や林業に触れ合う機会のない親子が、森林の現状や林業の必要性について、関心や理解を深めるため、若手林業者による森林学習と間伐体験をするとともに、森の精油工場の見学とアロマウォーター作りを行った。

## 2. 活動の成果

大自然の中で直接林業体験活動を経験するとともに、若い林業者と触れ合うことで、より理解が深まるとともに関心も高まり、森林・林業への応援団や将来の担い手の一人となることが期待される。

## 3. 参加者の声

- ・木を切ることが森を育てることに繋がることが分かった。
- ・木を切ってしまったけど、また植えて育てればよいことを知った。
- ・日頃できない体験を楽しみながら出来た。
- ・見慣れた森や林の風景ですが、これからは見る目が変わりました。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	令和3年11月6日		計	備考
事業量	スライド説明	20分		
	伐体験作業	120分		
	製油所見学等	60分		
参加者数	親子11組、26名		26名 (保護者を含む)	
実施場所	山梨県南都留郡鳴沢村大字富士山 全国植樹祭記念公園広場ほか			

## 普及啓発事業 森林環境教育プログラム発刊事業（A-72）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

森林環境教育活動の指導者等の参考となるプログラム集を作成することにより、森林環境教育の確実で広範な推進を図る。

## 2. 活動の成果

今日注目されているESD（持続可能な開発のための教育）の一環として、森林環境教育の場や森林内での体験活動での速戦マニュアルとして活用が期待できるほか、学校などの教育機関を中心に配付したことで、ESDの早期の普及、定着が期待される。

## 3. 参加者の声

・山梨県版の統一マニュアルが作成され、スムーズな現場への拡がり期待できる。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	令和3年11月から 令和4年3月まで	計	備考
事業量	1000部発行（12月）		
参加者数	関係団体等に配付		
実施場所	県内の全小中学校、市町村、公立図書館、 その他関係団体等に配付		

## 緑・森林の感謝祭等開催事業及び児童啓発事業（A-73）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

緑豊かな住み良い郷土づくりを進めるため、森林の重要性等について県民の一層の理解と関心を深めるべく、県内各地区の実情に応じた植・育樹祭、講演会・表彰式、苗木の頒布、若手人材育成のための森林実習、学校での森林に関する図書購入等の普及啓発活動を実施するとともに、森林教室（自然観察会）を一般参加者を募って開催し、森林インストラクターの解説を得ながら森林景観や植生の観察のほか、諏訪御柱の切出し跡地、江戸時代初期に建設された堰を見学した。

また、青少年の森林環境教育を促進するため、郷土の森林と川を題材にした絵本の制作に向け現地を取材調査した。

#### 2. 活動の成果

コロナ禍で当初企画した催しの中止を余儀なくされる中、事業規模の縮小や他事業への変更等により創意工夫して事業を実施し、さらなる健全な森林づくりの機運が高まるとともに、緑豊かな住み良い郷土づくりの推進が図れた。

姫川流域を舞台とした森林と川の絵本の制作に向け、絵本作家とともに現地の取材・調査を重ね、制作に必要な情報収集を行った。今後、令和4年度中の発刊を目指し、発刊後は、幼児・児童の森林環境教育をさらに促進するため、県内全小学校・特別支援学校への寄贈を予定している。

#### 3. 参加者の声

森林教室は、40名近くの一般参加者の申込があり、関心の高さが窺える。また、少人数ごとのグループに分け、2人ずつ森林インストラクターを各グループに配置したため、参加者には丁寧な解説が聞くことができたことと好評だった。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	令和3年7月1日～令和4年6月30日	計
事業量	植・育樹祭等の開催	:3地区（3市町村）
	講演会等の開催	:3地区（6市町村）
	環境緑化	:1地区（2市町）
	環境教育	:2地区（7市町村、49箇所）
	緑化木の頒布	:3地区（13市村）
	絵本制作の取材調査	:1地区（5市町村）
	森林教室	:1地区（1町）
参加者数		2,660人
実施場所	長野市、伊那市など延37市町村	

## 緑化推進キャンペーンと資材供給事業（A-74）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

樹木を増やすことや守り育てることの理解の深まりと将来の緑化を担うみどりの少年団活動を支援するため、緑化用の苗木の提供やみどりの少年団活動に必要な教材の提供を行い、緑化推進に繋がる活動を行った。

## (1) 植木祭り

道の駅をはじめ、生活環境保全林などでのイベントで苗木を配布したほか、地域の植樹祭や保育園において、苗木を植栽した。

## (2) みどりの少年団活動支援

みどりの少年団の活動を支援するため、活動手帳「伊吹山花の観察ガイド」を4,400部作成し、みどりの少年団へ配布した。

なお、この冊子は、東海地区みどりの少年団（隊）サマージャンボリーで使用するために作成したもので、併せて県内のみどりの少年団へも配布した。

## 2. 活動の成果

## (1) 植木祭り

苗木の配布や植栽を契機に緑を大切にしている地域住民の意識が高まった。

イベントについては、以前よりも開催しやすくなってきたが、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながらの対応が必要である。

また、苗木の無料配布により、「緑の募金」への協力が繋がった。

## (2) みどりの少年団活動支援

少年団活動に必要な冊子や資材を配布し、子どもたちに身近な緑や樹木に対する興味を喚起することができた。

今後もテーマに配慮して作成していきたい。

## 3. 参加者の声

## (1) 植木祭り

夕森公園は、モミジの名所であるので、これからも植樹活動を続けていきたい。

子どもたちが植えた苗木がすくすく育ってほしい。

いただいた苗木を大事に育てたい。

## (2) みどりの少年団活動支援

伊吹山には、多くの種類の植物があることがわかった。

伊吹山に行ってみた。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	令和4年4月～6月	令和3年7月～8月	計	備考
事業量	植木祭り苗木本数1,511本	みどりの少年団用冊子4,000部		
参加者数	1,615人	4,000人	5,615人	
実施場所	植木祭りは岐阜県大垣市、東白川村、御嵩町、中津川市（2箇所）・下呂市 みどりの少年団は県内全域			

## 恵みの森づくり事業（C-35）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

恵みの森づくり事業は、人々と森林や樹木とのふれあい機会を創出するとともに、森林や樹木の恵みを得られるよう、地域のシンボルとなる森林や樹木を整備することを目的としている。

NPO法人ななしんぼは、長良川源流域の森と人がともにある社会を目指し伐採跡地への植樹活動を通じて子どもたちとともに育む豊かな源流の森づくりに取り組んでいる。

黒内区山林整備委員会は、果樹園の伐採跡地を放置することなく、地域住民や近くの温泉利用者が四季折々に楽しめるよう花の咲く広葉樹や紅葉の美しい広葉樹の森を整備するため、子供連れなど家族を中心に参加者を募集して植栽活動を行っている。

## 2. 活動の成果

NPO法人ななしんぼについては、以前から実施されてきた郡上市明宝地域の伐採跡地における広葉樹の植樹活動について、今回は子どもたちの参加を得て実施することができた。コロナ禍により一般の人達の参加は3年ぶりとなるが、今後もコロナ対策を講じつつ、子どもたちの未来につなぐ源流の森林づくりに取り組んでいきたい。

黒内区山林整備委員会については、令和2年度から始めた取り組みであるが、果樹園跡地の有効利用と近くの温泉施設の利用者の憩いの場となるよう、今後も植樹活動を続けていきたい。なお、雪の多い地域であるので、植栽した樹木の雪囲いなどの管理も併せて行っていきたい。

## 3. 参加者の声

- ・長良川の清流を森林が守り育てていることが実感できた。
- ・植えた木の成長を見ることができ、樹木に対して愛着がわいてきた。
- ・地域の人達と力を合わせて植樹したので、連帯感や達成感が得られた。
- ・コロナ禍であるが、対策を講じて多くの人たちが参加できたのは良かった。
- ・役目を終えた果樹園の再生は、周囲の桃やリンゴの畑にも良いことだ。

## 実績報告とりまとめ表

恵みの森づくり	NPO法人ななしんぼ	黒内区山林整備委員会	計	備考
実施時期	令和4年5月4日	令和4年6月5日		
事業量	里山の広葉樹植栽 650本 面積:0.65ha	花の咲く広葉樹植栽 290本 面積:1.42ha	広葉樹苗木 940本	
参加者数	107人	115人	222人	
実施場所	岐阜県郡上市明宝気良地内、飛騨市古川町黒内地内			

## 森づくり県民大作戦支援事業（A-76）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

- ①森づくりグループとの連携による参加拡大  
「森づくり県民大作戦」の参加者を拡大するため、参加を呼び掛けるチラシを作成し、森づくりグループなどに送付するとともに、県自然ふれあい施設など56箇所に配架した。
- ②県との連携による参加拡大  
県と連携し、県内各地で、森林・林業体験、木工など森林・里山の大切さを知る「森づくり県民大作戦」を県民の参加を公募して7回開催した。
- ③自然ふれあい保育の啓発  
幼児期を対象とした自然とのふれあいを促進するため、園庭での自然体験が充実している園、身近な地域の自然を生かした園外保育が活発な園の協力を得て、「自然を生かした保育・幼児教育」の動画を2本作製した。

#### 2. 活動の成果

- ①と②森づくり活動への参加拡大  
コロナ禍であったが、それぞれが感染症対策を実施した上で、多くの行事を開催することができた。参加した県民は森林に触れ、楽しみながら、森林の大切さを学べた。昨年度の参加者が今年度も参加するイベントや、参加者が昨年度の3倍となるイベントもあり、今後も、静岡県とともに「県民総参加による持続的で魅力的な森づくり活動」に向け、県民参加の森づくり活動を推進する。
- ③自然ふれあい保育の啓発  
身近な自然を活用して自然ふれあい保育に取り組めることを伝えるツールができた。今後、動画をグリーンバンクの公式YouTubeで公開し、静岡県で開催される「森のようちえん全国交流フォーラム at 富士山」とともに、県内の幼保園に周知する計画である。

#### 3. 参加者の声

- ・参加者からは、「森の手入れをする大変さがわかった」「貴重な体験ができた」「親子で自然に触れる体験ができてよかった」「とても楽しかった、またやってほしい」などの感想を聞くことができた。
- ・スタッフからは、「森林整備の必要性や木材のぬくもりを理解していただけて良かった」「子供から大人まで楽しめるプログラムを提供できてよかった」などの感想を聞くことができた。
- ・動画作製の企画等に携わったNPO法人の職員からは、「自然ふれあい保育は必ずしもハードルが高くないことを伝えられた」などの自己評価があった。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	4月1日～5月31日	9月15日～12月15日	その他	計	4月～6月
事業量	199行事	289行事（7行事）	169行事	657行事（7行事）	動画2本
参加者数	4,306人	5,830人	2,836人	12,972人	2園
実施場所	静岡県内 各地				静岡市内

## 静岡県緑の少年団交流集会開催事業（C-36）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

- ①緑の少年団交流集会  
次代を担う緑の少年団と団員の育成と交流を図るため、新型コロナウイルス感染症対策を図った上で、春、秋、冬の3回実施し、森林や緑の大切さを学んだ。  
夏：森の恵みの火起こしと焚火（たきび）パンづくり  
秋：森からのおくりもの～木箱づくりと宝物さがし～  
冬：ツリークライミング・木工工作
- ②プログラム開発  
県内の小学校に改訂された学習指導要領に対応した森林ESD学習を提案するため、森林ESD推進チーム（2回）を中心に、アンケート調査（35校）、小学校との意見交換（5校）、小学校での出前授業の実施（1校）などにより森林ESD学習のプログラム開発等を行った。

#### 2. 活動の成果

- ①緑の少年団交流集会  
・開催場所を変えることにより東西に長い静岡県の森林を体感するプログラムを実施することができた。  
・新しいプログラム、束縛時間が少ない日帰りにしたことにより、小学校低学年も参加でき、団員の継続・増加に繋がった。
- ②プログラム開発  
・コロナ禍のため出前授業の実施は1校となったが、開発中のプログラムを小学校で実施できたことは、大きな前進であった。  
・次年度には、さらに多くの小学校で実施し、その都度評価・改善を行い、プログラムの完成が期待できる。

#### 3. 参加者の声

- ①緑の少年団交流集会  
・森の中には、日常の生活と繋がりのあるものが次々発見できた。  
・「ツリークライミング」は新鮮で、いっそう森林に興味を持てた。
- ②プログラム開発  
・ワークシートがあると、子どもたちも質問を考えやすい。  
・教科書に沿った内容であったと評価できる。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	R3.8	R3.11	R3.12	R3.7～R4.6	R3.2
事業量	交流集会（夏）	交流集会（秋）	交流集会（冬）	推進チーム開催2回アンケート35校 小学校との意見交換5校	出前授業1回
参加者数	30人	42人	12人	-	13人
実施場所	富士宮市	富士宮市	静岡市	浜松市ほか	静岡市



## 普及啓発 みどりのに親しむ集い事業 (A-77)

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

地域の住民各層が自然とふれあい、みどりに親しむと同時に、森林整備作業や間伐材の木工工作などを体験することを通し、森林や緑の大切さを理解し、緑化意識の高揚を図った。

## 2. 活動の成果

森林整備を進めていくと、荒れた森林に光と風が入り多様な生物が住みやすい環境に移り変わっていく様子が体感できた。また、「森で体験しよう」などの体験イベントに551人の参加者があり、森林整備・緑化推進の意識が高まった。

## 3. 参加者の声

竹で作った植木鉢、パンジーがよく似合う。  
遊び場づくり、今年も来ました。  
山の整備、疲れたがいい経験になった。明日から頑張れる。  
シイタケ、いつ収穫できるの。

## 実績報告とりまとめ表

## ・市民参加による子ども森林ひろば作り体験

実施時期	令和3年7月1日～令和4年3月1日
事業量	・遊歩道整備体験 ・遊び場作り体験 ・木つかい体験 ・森林作り体験
参加者数	200人
実施場所	瀬戸市上半田川町「遊々の森」

## ・グリーンクラフト

実施時期	令和3年7月1日～令和4年1月20日
事業量	・竹間伐で鉢作り ・間伐材でイス作り ・どんぐり間伐材で鍋敷作り ・シイタケの菌打ち
参加者数	351人
実施場所	春日井市廻間町・西尾町(県有林他)

## みどりフェスティバル21秋・22春事業 (A-78)

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

自然や緑とふれあい親しみながら、森林・木材の大切さを理解するため「みどりフェスティバル21秋・22春」を開催した。身近な昆虫や花写真を使い、自然を感じる缶バッジの作成や、家庭の緑化を推進するため秋にはブルーベリーなど500本を配布した。また、春にはヤマボウシなど600本を配布し、一番身近な家庭の緑化を進めた。今回は新型コロナウイルス感染症対策のため、対策を講じての実施でしたが、特に問題もなく実施できた。講堂では、令和3年度の緑化ポスター原画コンクールの入賞作品の展示もおこなった。

## 2. 活動の成果

みどりフェスティバル21秋・22春のイベントに多くの方が参加したことにより、各々が緑化の大切さを理解ができ、地域緑化の推進にも繋がった。

自然や緑とのふれあい、家庭での緑化へと貴重な体験となっている。  
今後とも、フェスティバルの継続が望まれる。このフェスティバルを、未来に繋げるイベントとしていきたい。  
フェスティバル全体を通し、緑化意識の高揚、緑化の推進を図り貢献できた。

## 3. 参加者の声

対策を講じての開催であったが、楽しめた。  
今年も苗木の配布を楽しみにしていた。早速、植えた。  
缶バッジの作り方に驚いた。子どもも楽しめた。  
世界に一つしかない缶バッジだ！  
家族が外で楽しむ機会が増えた。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	5月3日～5日	計	備考
事業量	みどりフェスティバル21秋 みどりフェスティバル22春	2回	
参加者数	21秋 26,500人 22春 138,200人	164,700人	
実施場所	愛知県豊田市西中山町(愛知県緑化センター)		

## 苗木の育成と配布事業（A-79）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

緑化に対する意識の高揚を図り、みどり豊かで快適な環境づくりを推進するため昭和23年から愛知県植樹祭を毎年開催している。植樹祭では参加記念として緑化木を配布している。その配布用緑化木を植樹祭の開催町の小学校（3校）が、前年度に挿し木（ムクゲ）をし、育てる。育った苗木を植樹祭開催時に記念樹として参加者に配布する。

#### 2. 活動の成果

小学生児童が挿し木を体験することにより、緑の大切さを感じ、知ることができた。また、緑が将来に繋がる活動にもなった。植樹祭で多くの方が苗木を持ち帰り、身近（家庭）な緑化の推進に繋げることができた。

#### 3. 参加者の声

初めて挿し木をした。（挿し木を実施した児童）  
挿し木をしたムクゲが咲くのがたのしみです。  
温州ミカンとセットでいただいた。早速植えたい。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	9月～10月	5月28日	計	備考
事業量	挿し木（3校）	愛知県植樹祭		
参加者数	48人	400人	448人	
実施場所	挿し木（豊山町3小学校）	愛知県植樹祭（豊山町）		

## ふるさと樹木診断事業（B-4）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

古くから地域の人達に愛され親しまれてきた巨樹・名木等（ふるさと樹木）を県民の財産として守り育て後世に引き継ぐために、その樹勢等を診断し、保護・保存のための基礎データを収集した。  
樹勢診断は、市町村条例等で指定されている樹木、又は地域のシンボリックな樹木のうちから市町村の要望に基づいて42本の診断樹木を選定し、一般社団法人日本樹木医学会愛知県支部に委託し実施した。  
診断終了後、報告書を関係市町村、所有者に戻し、今後の樹木の手当に役立っている。

#### 2. 活動の成果

ふるさと樹木を保護・保存する基礎データを収集することにより、後世まで、大切な「ふるさと樹木」を引き継ぐ方法を検討するのが容易になる。また、診断結果から手当に結びつくこともあり、貴重な事業として評価を受けている。  
緑化意識の高揚、地域緑化の推進に大いにつながっている。また、地域からの要望も非常に高く、今後も続けて実施する予定である。  
平成6年からのデータの蓄積（1,432本）もあり、保護・保全に役立っている。過去のデータをまとめ、情報の共有を計画している。

#### 3. 参加者の声

- ・事業を今後も続けてほしい。
- ・名木（シンボル）が保存され、地域住民の緑化の高揚にも繋がった
- ・過去のデータをとりまとめて、誰でも見えるようにしてほしい。
- ・手当をした際このデータが役に立った。（過去の診断木）
- ・名木を一覧にして本にならないか。
- ・予算の計上に参考になった。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期 (委託)	委託期間令和3年7月20日～令和4年1月21日 委託完了令和4年1月21日
事業量	樹木診断本数 42本
実施場所	愛知県内 17市町

## 森林ボランティア養成事業（C-37）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

所有している山林をどのように管理したらよいかのノウハウや、森林観察活動のリーダーの育成を図った。

また、次世代を担う子どもたちと共に森林環境学習や間伐材を利用した木工作を行い、将来の森林環境整備のリーダーとしての育成を図った。

#### 2. 活動の成果

楽しい山づくり講座では、山の機能について学び、山の管理に関心をもたせることができた。森林観察リーダー入門講座では、模擬体験等を通して、参加者自身が講師の経験ができ、次代のリーダー候補を育成することができている。

また、将来を担う子どもたちに、木工作や森林作業を通じ、木に親しみを抱き、森林環境や育林に興味を持つ子どもも現れ、将来に期待をもてた。同時に、森林の重要性を認識した子どもたちを多く見ることができた。

#### 3. 参加者の声

- ・話すということは、その数倍勉強した。
- ・模擬体験であったが、結構緊張した。
- ・山の管理の仕方、勉強になった。
- ・山について、なにも知らない自分がいた。
- ・座っても壊れないかな、チョット心配。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	令和3年7月～令和4年6月		計	備考
	①豊田市	②森林真剣隊		
事業量	森林観察リーダー入門講座 楽しい山づくり入門講座	初級活動、環境整備 森林真剣隊活動 木工作	147人	
参加者数	5回 51人	8回 96人		
実施場所	豊田市有林他	新城市門谷及び周辺		

## みどりの少年隊活動推進 (A-80)

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

県内のみどりの少年隊の活動の活性化を図るため、県内の6隊にそれぞれ4万円の活動助成を行い、活動に必要な装備品の充実や動植物観察や木工等の体験学習や、野外学習の費用などを支援した。

なお、当初計画していた交流集会については、新型コロナウイルスの感染防止のため中止し、各隊に木製スプーン作成キットを配布し、各隊・隊員ごとにスプーンづくりを楽しんでもらった。

#### 2. 活動の成果

子どもたちが楽しみにしている交流集会は実施できなかったが、代わりに配布した木のスプーンづくり体験は、隊員から「また作ってみたいと思った」とか「最初はギザギザだったけどつるつるになった」などの感想をいただいた。また、各隊の施設利用や装備品を支援することで、各隊の活動の幅を広げることができた。

交流集会の開催も含め、緑の少年隊の活性化に向けて活動を継続していきたい。

#### 3. 参加者の声

- ・先生からやり方を教えてもらってうまく作ることができた。
- ・大切にしようと思う。
- ・家で木製スプーンを使うのが楽しみだ。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～2月	3月	計	備考
事業量	活動支援6隊	木工体験キット配布 (指導者含)		
参加者数	84人	100人	184人	延人数
実施場所	三重県内一円			

## 森林教室開催 (A-81)

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

令和3年12月12日(日)に開催された四日市市「じどうかんまつり」で「ミニ門松づくり体験」を実施した。

令和4年1月15日(土)に、松阪市にある三重県立みえこどもの城で「シイタケ菌打ち体験」を実施した。

#### 2. 活動の成果

森林教育指導者「森のせんせい」の指導により、体験と併せて森林や木材、きのこの話を聞くことを通して、森林や樹木に対する理解や関心を深めることができた。

#### 3. 参加者の声

- ・シイタケができるまで時間がかかること、大変なことが分かった。
- ・シイタケができるのが楽しみだ。
- ・作るのが難しかった。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	12月12日	1月15日
事業量	ミニ門松づくり体験	シイタケ原木菌打ち体験
参加者数	親子39組	90子ども63名と保護者
実施場所	三重県四日市市勤労者・市民センター(ミニ門松づくり体験) 三重県立みえこどもの城(シイタケ菌打ち体験)	

## 森林ボランティア活動促進（A-82）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

- (1) 概ね20名以上の県民が参加する森林環境教育等のイベントを実施する森林ボランティア6団体に対して10万円を限度とする助成を行った。
- ① Waraひろば親子体験教室は、鈴鹿市内で県産材を使ったブックスタンドづくり体験を実施した。16回。155名参加。
  - ② 竹林整備隊は、松阪市「みえこどもの城」で丸太切り体験、木材に関するクイズ、竹ボックリ製作体験を実施した。丸太切り32名、竹ボックリ23名参加。
  - ③ 大山田大日つあんクラブは、伊賀市甲野地内で牡丹の苗木18本の植栽とキノコ菌打ち体験を実施した。56名参加。
  - ④ 穂積製材所は、伊賀市鳥ヶ原地内で森林学習、木の工作を実施した。8回。119名参加。
  - ⑤ 認定非営利活動法人森林の風は四日市市立常盤西小学校で、学校林でのベンチづくり等を実施した。児童144名、教員7名参加。
  - ⑥ 鈴鹿市大久保町自治会は、鈴鹿市椿一宮町内で卒業記念植樹会場の下刈等環境整備を実施した。植樹参加者卒業生他42名。
- (2) 森林ボランティア団体の活動の活性化を目指すため、令和4年1月8日（土）森林ボランティア交流研修会を開催した。

#### 2. 活動の成果

森林ボランティア団体等の活動に支援することで、県内各地で一般参加を得て森林関係イベントが開催され、森林活動の大切さ、森と触れ合うことの楽しさ等の普及啓発を図ることができた。

また、研修交流会を通じて情報交換や技術向上を図ることで、ボランティアの今後の活動の活性化につなげることができた。

#### 3. 参加者の声

各団体が実施するイベントの参加者からは好評をいただいているとのことで、活動基盤の弱い団体にとっては、当助成によって活動が広がり子どもたちに森林環境教育の機会を提供することができるため、事業継続を求める声が寄せられている。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～2月	10月31日	計	備考
事業量	助成団体6団体	交流研修会1回		
参加者数	539人	27人	566人	
実施場所	三重県内一円（活動助成）三重県津市白山町			

## 県民参加の森林づくり運動推進（巨樹・古木見学会、クマノザクラ観察会）（A-83）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

一般県民に森や木とのふれあいを通して森林や樹木への理解を深めてもらう目的で、令和3年11月27日（土）に、南伊勢地域の巨樹・古木をバスで巡る見学会を実施した。

また、令和4年3月20日（日）には、新種の野生サクラとしては約百年ぶりに発見されたクマノザクラの観察会を熊野市紀和町で実施した。

いずれも、日本樹木医会三重県支部の案内で、新型コロナウイルスの感染を防止する観点から参加人数を制限するなど対策を講じながら実施した。

#### 2. 活動の成果

地域にある巨樹・古木や地域固有の樹木を知ってもらうことを通して、森林の良さや樹木保護の大切さを認識してもらうことができた。

募集人数を大きく上回る多数の応募があり、また参加者からも好評をいただき、引き続き実施していきたい。

#### 3. 参加者の声

- ・クマノザクラが鑑賞木として普及することの可能性を感じた。
- ・参加を楽しみにしていたので当選して良かった。勝木先生の講演もあり、期待したとおりであった。
- ・古木の姿から元気ももらった。
- ・このようなイベントがあればこれからも参加したい。
- ・とても楽しかった。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	11月27日	3月20日	計	備考
事業量	巨樹・古木見学会1回	クマノザクラ観察会1回		
参加者数	20人	18人	38人	
実施場所	三重県南伊勢地域他 三重県熊野市紀和町内			

## 海・山連携植樹活動実施（A-83,1）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

山村地域と漁村地域の相互理解を深め、森林づくりについて自発的な協力関係が築くことを目的に三重県漁業協同組合連合会に対して漁業者が行う植樹活動の助成を行った。

植樹活動は令和4年3月12日（土）に地元の森林組合の協力のもと実施され、漁業関係者46人が参加し伊勢湾に注ぐ雲出川上流にケヤキ30本を植樹した。

## 2. 活動の成果

海・山連携で漁業関係者による植樹活動が森林組合の協力を得て実施された。漁業関係者からは引き続き植樹を実施してきたとの声をいただいております。森林が川や海にもさまざまな恩恵をもたらしていることの理解が深まっていることが感じられる。

## 3. 参加者の声

- ・これからも継続して実施していきたい。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	3月12日	計	備考
事業量	植樹活動ケヤキ苗木30本		
参加者数	46人	46人	
実施場所	三重県津市美杉町八手保（君ヶ野ダム湖周辺）		

## 緑の少年団育成強化事業（C-38）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

県内の緑の少年団49団、4,462人の日常の活動を支援するとともに指導者研修会や交流会等を実施し、緑の学習や実践的な活動等の促進を図ることが出来た。

## 2. 活動の成果

緑の少年団への育成強化活動支援により、緑を愛する心豊かな人間に育っていくことが期待出来る活動となった。

また、こども水源の森サミットの開催により、団員間の交流や団結・協力が図られ、互いに緑化意識を高めることが出来た。

とりわけ平成26年度より、滋賀森林インストラクター会の協力を得て緑の少年団サポーター制度を設け、当インストラクター会の指導のもと県内を4ブロックに分け行っている指導者研修会を令和3年度は計8回開催し、またそのフォローアップとして5回にわたり個別指導を実施したことによって、各団指導者の緑化に対する意識の高揚と資質の向上を図ることができた。

今後は、さらに当制度の充実を図り、より一層指導者の育成と少年団活動を推進していきたい。

## 3. 参加者の声

森づくり・緑づくりの重要性を十分に理解することができ、それらを支える緑の募金の啓発活動をより一層積極的に進めていく必要があることを実感する声が多かった。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	通年	7月～10月	11月14日	計	備考
事業量	個々の緑の少年団の一年間の様々な活動に対して支援	指導者研修会 8回	こども水源の森サミット		
参加者数	4,462人	65人	136人	4,663人	
実施場所	県下一円	びわこ地球市民の森 (守山市) 他7箇所	甲賀市土山室内運動場		

## 京都モデルフォレスト運動連携強化事業（A-84）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要活動の目的、内容などを記述

モデルフォレスト運動における多くの「人とのつながり」「地域、企業、団体」をさらに強め、活かし、広げることによる運動のさらなる発展を目指して、運動のPRを行った。今年度は特に次世代を担う青少年や親子向けの体験講座等を、オンラインでの取り組みを含めて開催した。また、設立30周年を迎えた国際モデルフォレストネットワーク加盟団体としてのネットワークを活かし、取り組みについての情報発信を行った。

#### 2. 活動の成果

新型コロナウイルス感染症の影響でフィールドでの活動が大幅に制約された中であったが、子どもたちや保護者を対象とした事業オンラインによる動画配信を新たに開始し、京都の木や森に親しむクラブと組み合わせて実施することで多くの参加を得た。フィールドでの実施については従来より規模を縮小し、感染対策に実施しながら開催し、実際に森林に入ってもらうことで保護者を含め森林の重要性や人間の暮らしとの関わりについて体験を通じ認識を深めていただく開会を提供することができた。

#### 3. 参加者の声

- ・普段は聞くことのできないお話を聞くことができ良かった。(鎮守の森)
- ・実際に見たクスノキの木と樟脳について初めて知った。(鎮守の森)
- ・家族で遊びに来たりしていたが、あらためてインストラクターに教えてもらいながら回ると新しい発見があった(双ヶ岡)
- ・とても楽しかったのでまた違う季節にぜひ訪れたい。(双ヶ岡)
- ・木によって音が違う事を改めて知り、親・子ドキドキしながらの音合わせでした。
- 紙に書いてある通りにしたら、必ず成功するのではないというのが、とても難しく面白い作業で、大人も楽しめました。(オンライン森の教室/木琴づくり)
- ・木は縦に大きくなるのではなく、横に大きくなるというのを初めて知りました。(オンライン森の教室)

### 実績報告とりまとめ表

事業量	WOOD RISE 2021	企業参加の森林づくり オープンフォレスト・ トライアルフォレスト	森林整備 ボランティア 体験講座	次世代向け環境育事業						
				鎮守の森	双ヶ岡		木の文化	オンライン森の教室		
実施時期	新型コロナのため中止			R4.11.7	R3.11.28	R3.12.4	R4.7.29	夏版	秋版	冬版
参加者数 (人)				23	34	14	38	100	43	30
実施場所				八幡市	京都市右京区		京都市 中京区	オンライン		



## 自然環境保全団体ネットワーク事業（A-85）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

大阪府内の自然環境保全活動を実施している団体の、活動を維持・発展させることを目的に前年度立ち上げた、大阪里山ネットワークの運営を行い、府民へ森林保全に関する情報を提供する。

ホームページ

サイト名：大阪里山ネットワーク

URL：https://www.ogtrust.jp/satoyama/index.html

公開日：2021年5月18日（火）

登録団体数：28団体（2022年8月31日現在）

#### 2. 活動の成果

インターネットサイトを公開したことにより、大阪府内で活動している里山保全団体の情報を集約し、情報発信力を高め、活動への理解者と参加者の拡大に繋げることができた。今後も未登録の団体に参加を呼びかけ、登録団体を増やしていく。

また、自然環境保全活動に興味のある府民に対しての情報発信を強化していく。

#### 3. 参加者の声

- ・大阪里山ネットワークで団体を知った方が、活動に参加してくれて久しぶりに新しい会員となって団体に加わってくれた。とても嬉しいです。
- ・大阪里山ネットワークの少額助成制度は、NPOの事情をよくご存知の組織だからこそそのアイデアで、とても助かる制度です。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	通年	計	備考
事業量	ホームページ公開、運営 少額助成事業実施	ホームページ公開、運営 少額助成事業実施	
参加者数	4,222人 閲覧数13,508回	4,222人 閲覧数13,508回	2022年8月31日現在
実施場所	主に大阪府内、WEB上		

## 府民参加の森林づくり（A-86）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

多くの府民が森林・みどり・水、あるいは、そこに培われる多様な生き物を身近に感じ、森林と生物多様性の重要性について理解を深めるため、情報発信を行うとともにイベントを開催した。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、多くのイベント等は中止または規模を縮小して実施した。

- ①.和泉葛城山ブナ林シンポジウム（6月13日 YouTube動画2作品視聴計430回）
- ②.三草山ゼフィルスの森 リーフレット作成（2500部印刷・配布）
- ③.三草山ゼフィルスの森 エア観察会（6月12日 YouTube動画視聴計588回）
- ④.タガメの田づくり 稲刈りイベント（12月5日 参加者21名）
- ⑤.地黄湿地観察会（6月26日、8月1日、10月21日 参加者計63名）
- ⑥.自然環境保全地域（社寺林）支援

各イベントを開催するため、年間を通じてボランティア保険に加盟した。また草刈りなどの保全活動のほか動植物調査を行った。イベント告知には会報誌「みどりのトラスト」、HP、ブログやSNSを活用した。

#### 2. 活動の成果

大阪府内での貴重な自然環境、それを保全管理する必要性について、理解者が増えた。今後も引き続き様々な手段を講じ、理解者を増やす。

#### 3. 参加者の声

- ①高校生とのコラボが良かった。次世代につなげるために良いと思います。
- ②花が咲く時に開催して欲しい。
- ③能勢分校の生徒さんの参加がとても良かった。高校生の講師経験と、参加者の生徒経験が良かった。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	通年	計	備考
事業量	普及啓発やイベント		
参加者数	のべ84人 視聴1,018回	のべ84人 視聴1,018回	
実施場所	大阪府内 大阪市、豊能郡能勢町ほか。及びWEB上		

## 地域緑化イベント開催事業（A-87）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

- (1) 「森もりの日」開催事業（やしらの森公園）  
やしらの森公園において、ボランティアスタッフと参加者が一体となって、不要木除去や歩道整備等の里山の保全活動を行った（月2回「森もりの日」に実施）。
- (2) 第36回ひょうご木材フェアの開催  
積極的な木材利用によって森林整備を促進し、森林の多面的機能の高度発揮を図ることを目的に「第36回ひょうご木材フェア」を開催した。  
実施主体：兵庫県木材利用推進協議会、  
開催日：令和3年10月9日（土）  
開催場所：神戸市中央区元町商店街 参加人員：約8,000人  
内容
  - ・木材利用によって森林整備が進み、多面的機能が高まることの展示
  - ・都市の木造・木質化を促進するための不燃ボードや床材等の展示と説明
  - ・木製遊具や木製玩具等の展示・販売と木工教室の開催等

#### 2. 活動の成果

- (1) 「森もりの日」開催事業  
スタッフの指導助言を受けながら森林整備を実施することで、参加者の森林への理解が深まり、県民総参加の森づくりが促進できる。
- (2) 木材フェア  
木材を使うことが森林整備の促進につながり、森林の多面的機能の発揮に必要であるとの理解を深める一助となる。

#### 3. 参加者の声

- (1) 「森もりの日」開催事業
  - ・普段は見ることのない生物を観察でき、知識が広がった。
  - ・自然いっぱいの中で様々な体験ができて楽しかった。
- (2) 木材フェア
  - ・間伐の必要性がよくわかった。
  - ・木材を使って再度植えて育てていくという森林資源の循環利用の仕組みがわかった。

#### 実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～2月	10月9日	計	備考
事業量	「森もりの日」開催事業（13回）	第35回ひょうご木材フェア		
参加者数	253人	約8,000人	約8,253人	
実施場所	加東市	神戸市		

## 森林整備・緑化活動支援事業（C-39）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

- (1) 指導者研修会の開催  
少年団の指導者を対象に、森林ボランティア団体のメンバー等による研修会を開催し、指導者の資質の向上を図った。
- (2) 出前講座の実施  
森林活動をサポートするため、緑の少年団に森林インストラクターを派遣し、講義（森の大切さ等）、自然観察会、森林整備体験、ネイチャーゲームを実施した。
- (3) 緑の少年団地域活動の支援（各少年団活動の支援）  
兵庫県内の地区連絡協議会に地区活動費及び少年団活動費を助成した。
- (4) 冊子の配布  
予定していた「緑の少年団のつどい」が新型コロナウイルスの影響により延期となったため、冊子（森の中の自然体験プログラム集（国土緑化推進機構発行）等）を少年団に配布した。

#### 2. 活動の成果

- (1) 少年団の指導者を対象とした研修の開催により、森林の機能や整備手法等についての知識の向上を図ることができた。
- (2) 少年団へのプログラム集や学習資材の提供により、森林の多面的機能と整備の重要性に係る理解を深めるきっかけづくりができた。

#### 3. 参加者の声

- (1) 少年団の指導者研修を受けて、知識不足から悩んでいたことが解消できた。
- (2) 出前講座での講義やネイチャーゲームを通じて、講師から団員に対し、森と動植物のつながりをわかりやすく教えていただけたのでよかった。

#### 実績報告とりまとめ表

実施時期	8月5日	10月22日	7月～2月	計	備考
事業量	指導者研修	出前講座	各地区での活動		
参加者数	59人	21人	10,207人	10,287人	
実施場所	宍粟市	宍粟市	県内各地		

## 森の文化活動事業（A-88）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

- ・「大和路花と緑のフェスティバル」「奈良技能フェスティバル」出展準備  
奈良県内で行われるイベントに参加し、緑化啓発PR展や緑化啓発パネルを使ったクイズと球根を配布し、緑化普及啓発を行う予定であったが、主催者側の判断により中止となった。
- ・「緑化啓発PR展」  
令和3年緑化啓発の一環として、緑化作品コンクール入賞作品の展示やパネル展示、花苗や球根の配布などを行ったが、新型コロナウイルス感染症対策のため、従来のような広報は行わず、来場者数の制限に努めた。  
その他、年間を通じて花苗のプランターの設置を推進し、街の景観保全につとめた。

#### 2. 活動の成果

イベントを通して様々な地域や年齢層の県民に、緑化普及啓発を行うことができた。  
新型コロナウイルス感染症対策のため、様々なイベントが縮小や中止を余儀なくされたが、対策を講じて取り組んだことへの評価は得られた。また反対に、対策を講じても同列のイベントが中止されればこちらも中止とせざるを得ない場合もあり、多様な対応が今後の課題である。

#### 3. 参加者の声

- ・新型コロナウイルス感染症対策のため、夏休みもあまり遊びに行けなかったが、野外でのびのびしている子供たちを見られて嬉しい。
- ・きれいな花をいただけで嬉しい。新型コロナウイルス感染症が心配で参加をためらっていたが、タイミングもよく、ほかのイベントが自粛や中止する中、やっていただけて感謝しています。
- ・森林の機能やあり方など、現在の環境について、もっと勉強したいです。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	月 日	計	備 考
事業量	12/11～12/25	750人	
	12/19		
	4/12～4/19		
	4/19～4/27		
	4/28～5/30		
参加者数	750人	750人	
実施場所	奈良県奈良市、橿原市、宇陀市		

## ボランティア緑化活動事業（C-40）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

県内各地で活動する森林ボランティアの連携と活動の充実を目的とし、技術向上と事故防止への意識向上を図った。各団体への助成事業等の情報提供など、ボランティア活動の推進につながるものを紹介し、助成事業や物品提供の案内を行った。また、事業の紹介やイベントへの案内、対応など事務的な支援を行った。新型コロナウイルス感染症対策として各団体へ情報提供し、事務運用の効率化を図るため当協会の物品を提供する等通信関係の改善を図った。

#### 2. 活動の成果

各地で活動するボランティア団体が互いに連携して地域内での情報交換を行い、今後の活動につながる信頼関係を構築した。  
新型コロナウイルス感染症対策のため、活動を自粛や縮小した団体が多くあり、活動再開や通常活動に戻す判断が難しかった。  
活動が自粛される中、会報等を作成し配付することでボランティアを意識し活動を維持した。会報等では安全を喚起するとともに技術の更なる向上に向け情報発信した。今後も情報発信や事務運用の効率化を図っていきたい。

#### 3. 参加者の声

- ・いろいろな助成事業や苗木提供の情報等いただいて、活動に役立てています。一旦コロナ対策で活動を自粛したり縮小したりすると、次回からの参加者が大幅に減ってしまい、今後の参加者数回復に向けてどう取り組んでいくかが課題です。新型コロナウイルス感染症対策のマニュアルがあったのは助かりました。対応できて良かったです。
- ・会員からイベントの開催要望もあったが、コロナ禍でのボランティアとしてのあり方に苦慮した。他団体の情報や連絡をもらえてありがたかった。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	月 日	計	備 考
事業量			
参加者数	300人	300人	
実施場所	奈良県奈良市、大和郡山市		

## 青少年を対象とする森林ESDの推進など森林環境教育の促進事業（A-89）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

森林や緑の公益的機能の重要性や、再生可能な循環資源である木材の需要拡大が地球温暖化防止等に果たす役割等については、継続して広く県民に普及啓発して行くことが重要であり、本会としては特に青少年に対する普及啓発活動を重点的に実施するとともに、県民総参加の森林整備活動、緑化運動を促進する。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、例年実施している県内のみどりの少年団代表が集まったの交流集会在実施できなかったため、希望する団を対象に森林や林業に関する研修会を開催した。また、県内各地の少年団が「緑を愛し、緑を守り・育てる心を養う」ことを目的に行う学校及び周辺の緑化や自然学習活動に対し支援を行った。

#### 2. 活動の成果

- ・みどりの少年団団員に森林・林業に関する普及啓発活動、緑化及び環境貢献活動の重要性を学んでもらうことができた。

#### 3. 参加者の声

- ・森林や林業のことがわかり勉強になった。
- ・学校周辺や地域の保全活動に参加し、環境貢献活動の大切さがわかった。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	令和3年7月1日～令和4年5月31日	備考
事業量	＜主な取組＞ ・森林や林業に関する研修会の開催 ・校内の緑化活動	
参加者数	31団	
実施場所	・県農林大学校林業研修部 ・各みどりの少年団の活動エリア	

## 森林ボランティアリーダーの養成・ネットワーク構築等の活動支援事業（C-41）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

和歌山県は「紀州木の国」と呼ばれるように豊かな森林に覆われているが、近年は人と森林との接点が少なくなり、放置された森林が増加し、そのまま放置すれば森林の荒廃が広がる可能性があります。これらの問題に対処するためには、行政だけでなく森林ボランティア団体等の活動が重要であり、和歌山県森林インストラクター会と共催で、森林ボランティアリーダーの養成や既存の森林ボランティア団体の連携強化に取り組みました。

具体的には、「森づくり塾」を開催し、1年間を通じて座学と現地実習により、森林の現状と様々な問題点・里山の問題・獣害対策等に関する知識や、人工林間伐作業やチェーンソーの使い方・竹林整備方法・苗木の植栽・照葉樹林監察など、森づくり活動に必要な技術講習を行い、森林ボランティアの中核的担い手を育成し、健全な森林の再生を目指した。

#### 2. 活動の成果

1年間を通じて座学・現地実習を毎月1回実施し、自然・森林・林業について見解を深めてもらう事が出来た。また、毎年新規募集を行い確実にボランティアに参加する人数が増えている。今後は、行政等からの支援による森林整備事業などを紹介し、森林ボランティア活動への誘導を促す。

#### 3. 参加者の声

講習会では「森林、特用林産物、動植物、森に住む生物など、多方面の先生の話しが聞けてとても勉強になった。」、実習では「実際に山で活動して体験することで、山の知識や林業の現状など、身をもって学べた」等の意見があった。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	令和3年7月～令和4年6月（毎月、座学1回・現地実習1回）	備考
事業内容	1. 座学 森林とはどんな空間か・木材の特徴と魅力・竹の種類と性質・竹林の整備・人のくらしと森林の関わり・森林の危険な生き物と怪我への対処・和歌山県の自然植生について・様々な樹木の生育特性と自然配植技術・和歌山県の特用林産物・日本の林業と和歌山県の林業 2. 実習 竹林整備（ノコギリ・ナタの使い方）・人工林整備（チェーンソーの使い方と人工林間伐作業）・苗木の植栽・竹炭づくり・山菜料理・里山の観察・土壌動物・里山整備（竹炭窯出し）・照葉樹林の森林観察・ブナ林の観察・紀州備長炭生産と原木林観察	
参加者数	延べ516人	
実施場所	座学：和歌山市中央コミュニティセンター 実習：和歌山県紀美野町・岩出市・日高川町・田辺市・みなべ町・すさみ町	

## 「樹名板設置事業」(A-90)

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

地域住民や児童などが樹木に親しみ、樹木を大切にすることを養うことのできる環境を整備するため、公園や学校などの公的な場所の樹木に樹名板を設置する団体等に対し、県産材を活用して製作した樹名板を交付する。

#### 2. 活動の成果

公園などの公的な場所の樹木に、県産材による樹名板を設置することで、地元住民や子どもたちに、県産木材の用途の普及や樹木の名前を覚えてもらうことで、樹木に親しみ自然を大切にすることを養うことができた。

#### 3. 参加者の声

- ・公園や公的施設、森林セラピーロードに設置したことで、利用者に高評価をいただきました。
- ・学校等の校地内の樹木に樹名板を設置したことで、子ども達が樹木に興味を持ち始め、学習にも活用しています。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	月 日	計	備考
事業量			
参加者数			
実施場所	鳥取県内 3市町 6箇所 74枚		

## 「木工工作キット配布事業」(A-91)

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

県産材を使用した木工工作キット、杉板を配布し、小・中学校の児童・生徒に木材に触れ親しむ機会を作り、木材の良さの普及と木材需要の拡大を図る。

#### 2. 活動の成果

鳥取県産の杉板、木材キットを使用することで、木に触れることにより、木の持つ独特の柔らかさ、温かさ、加工のしやすさや組立ての難しさ等感じる事ができた。

#### 3. 参加者の声

- ・釘が打ちやすかったし、木が組み合わせやすかったです。きれいにできたので、普段から使いたいです。
- ・下穴があって、とても簡単に釘打ちをすることができました。説明書の図が分かりやすかったです。
- ・家に持って帰って大切に使おうと思います。
- ・楽に楽しく本立てが作れてよかったです。また機会があれば作ってみたいです。
- ・本立てを作るのはとても楽しかったです。木を使っていろいろなものを作ってみたいと思いました。
- ・かどなどにも、ささくれがなくて作りやすかったです。
- ・ボンドを付けすぎではみ出しました。今度は気をつけたいです。
- ・初めて釘を打ったので、まっすぐに釘を打つのが難しかったです。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	月 日	計	備考
事業量		1091組	
参加者数			
実施場所	鳥取県内28小・中学校		

## 「森林空間活用推進事業」(C-43)

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

天木森林公園のウッドチップ施設作業を募集型行い、参加者の森林空間を大切にしようという意識を育てる。

#### 2. 活動の成果

智頭町民の方々に広く参加を呼びかけ、募集型で作業を行ったことで、参加者の森林空間活用や環境づくりの重要性認識について認識が深まった。

また、自らがウッドチップ敷設を行った公園に愛着をもち、作業後も天木森林公園を活用してもらうことが期待できる。

#### 3. 参加者の声

- ・作業後には歩きやすい綺麗な散策道ができました。
- ・ウッドチップは町産の木材を使用とのがよかったです。
- ・ウッドチップがふかふかでした。
- ・木の香りに包まれた夏のひとときを過ごすことができました。
- ・歩きやすいセラピーロードができました。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	8月8日	備考
事業内容	ウッドチップを敷設作業イベントを開催	
参加者数	30人	
実施場所	鳥取県智頭町	

## 「森の誕生日」2022事業（A-92）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、当初予定していた「森の誕生日」は中止となった。

このため公募により参加者を募集し、参加者を限定・特定する方式で事業を実施することとし、「秋の森フェス」として体験講座、講演会等を開催し、県民に森林と触れ合う機会を提供し、森林保全の大切さをPRするとともに、「緑の募金キャンペーン2022秋」の一環として、緑の募金への協力を呼び掛けた。

事業の概要は次のとおりである。

(1) 開催日時：令和4年10月2日（日）9：30～16：30

(2) 実施内容

- ① ネイチャートレイルングとして、クイズを解きながら散策をするとともに、公園内の動植物に関する講師の解説と質疑応答を行った。
- ② 秋の木の実等を使った動物作りを行った。
- ③ 元（公財）日本野鳥の会理事長 佐藤仁志氏を講師に「ふるさと森林公園の生き物たち」について講演会を開催した。
- ④ 「緑の募金キャンペーン2022秋」の一環として、参加者に緑の募金への協力を呼び掛けた。

## 2. 活動の成果

- ・ 普段何気なく見ている動植物の意外な特性や危険性について楽しく学ぶことができ、森林に生息する生き物への知識を深めるとともに、森林の働きや重要性についての理解を深めることができた。

## 3. 参加者の声

- ・ 普段訪れている、森林公園の動植物について、いろいろと学ぶことができ、今後の森林散策の参考となった。
- ・ 親子でも気軽に参加できました。わかりやすい説明で、森の働きや重要性についてもよく理解ができました。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	10月2日	計	備考
事業量	1日		
参加者数	34名	34名	
実施場所	・ 島根県ふるさと森林公園 (島根県松江市宍道町佐々布3352)		

## 緑の少年団育成強化事業（C-44）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

緑の少年団の育成や少年団相互の親睦と活動を促進するため、指導者講習会・活動発表大会・交流集会などを通じ、森林環境教育を推進することにより、子どもたちの「生きる力」を育む。

#### 2. 活動の成果

##### ●島根県緑の少年団連盟総会・指導者講習会

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から総会は書面決議とし、指導者講習会は岩谷美苗氏の木育講座と全国植樹祭開催地の緑の少年団活動紹介DVDを作成し、県内すべての団へ配付した。

岩谷美苗氏の木育講座では、普段何気なく見ている樹木でも視線を変える事で面白い発見があることを教えてもらい、全国植樹祭開催地の3つの少年団の取り組みは、ふるさとの自然を学びながら大切に守っていこうという思いが伝わり、他団の参考になるものとなった。

##### ●県活動発表大会・交流集会

自然体験活動や宿泊を伴う交流集会は取り止め、活動発表大会のみをzoomで開催した。審査員にのみ会場に集まっていただき、zoomで5団に発表していただいた。発表大会後も県内すべての少年団を対象にアーカイブ配信を実施することで、発表団の活動を広く紹介することができた。

##### ●全国緑の少年団活動発表大会

今年度「吉賀中緑の少年団」の「みどりの奨励賞（国土緑化推進機構理事長賞）」受賞が決定したが、コロナ禍により北海道で開催された全国育樹祭への参加は叶わなかったが、発表大会へはオンラインで参加し、後日、当委員会理事会で表彰状伝達式を行った。

その後、島根県知事・島根県教育長・吉賀町長へ受賞報告を行い、県民や町民への緑の少年団活動のPRにつながった。

#### 3. 参加者の声

##### ●島根県活動発表大会

###### 【審査員の感想】

・最優秀賞を受賞した「横田中学校緑の少年団」は、結成30年という長い歴史の中、緑の少年団活動が日常の学校生活にしっかりと根付いていると感じました。コロナ禍の中、学校のシンボルである花壇でコンテストを実施したり、苗の販売方法を工夫したりと、皆さんの活動が学校内にとどまらず地域の皆さんの癒しとなり支えとなっていることを強く感じました。今後もさらに地域を巻き込んで取り組みを進めていただきたいと思います。その他の少年団の皆さんも、それぞれ素晴らしい活動でした。各学校・地域において、取り組みをさらに広げていただきたいと思います。

###### 【発表少年団の感想】

・慣れた場所（学校）での発表だったので、落ち着いてできた。  
 ・移動の負担を考えると、オンライン発表会で十分だと感じた。  
 ・リハーサルで接続の確認があったため、スムーズに進行できて良かった。

##### ●緑の少年団への出前講座

・コロナ禍で実施校が減ることを危惧していたが、昨年度より多数の学校が取り入れてくれる結果となった。森の専門家から森林・林業について学ぶとともに体験学習を実施することで、より深い学びにつながっている。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期		7月29日	計	備考
事業量	島根県緑の少年団連盟総会・指導者講習会	島根県緑の少年団活動発表大会審査会		(通年) 冊子・募金箱等配布指導者研修教材配付
参加者数	0人	審査員4人	4人	少年団120団
実施場所		島根県林業会館		県内



## 県産木材フェア開催事業（A-94）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

岡山県産木材等の利用の一層の推進及び販路の拡大を図るほか、子供たちに木材や木製品とのふれあいを通じて木材への親しみや木の文化への理解を深めてもらうため、県南・県北の2会場で木工教室を開催した。

また、木材利用促進に繋げる取り組みとして、優れた木造建築のポスターを購入配布した。

#### 2. 活動の成果

大工や工務店・建築士等の指導により美作スギ・ヒノキを使用した本棚やイス作りを体験してもらった。

また、手刻み加工したミニハウスキットの上棟体験を通じて美作材の良さを存分にPRした。

さらに、デジタルサイネージ用に作成したPVをオーロラビジョンで放映したほか、主催者が設計した家をパネル展示するなど一般の来場者に向け「美作木の家」をアピールした。

来年度も、県内の集客力のある会場等で同様のイベントを開催する予定である。

#### 3. 参加者の声

（県北会場）

親子でふれあいながら本格的な書棚を完成することができた。

講師のプロの技に感動した。

（県南会場）

ひのき玉プールで遊んだり、木のパーツでフォトフレーム作りに真剣に取り組むことができ、子供たちは土日の休日を楽めた。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	県北（8/1（日））	県南（1/15（土）、16（日））	備考
事業量	1日	2日	
参加者数	親子等21組	親子等150組	
実施場所	真庭市勝山文化センター	イオンモール倉敷	

くらしき都市緑化フェア実行委員会

## 第37回くらしき都市緑化フェア（A-95）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

地球温暖化による環境の破壊を止めるためには、今ある森林を保全し、美しい森づくりを推進する必要がある。そのためには、都市に住む人々にも、森林の機能や緑の重要性について、知ってもらう必要があり、森づくりの推進等のPR活動、各種木工教室、身近な木を使った小物づくり等を行い、広く人々に森林の保全や緑の重要性に対する認識を深めてもらう場を提供した。

#### 2. 活動の成果

昨年に引き続き、好評であった樹木医による樹木観察会を実施したところ、幅広い世代に参加していただき、樹木についての関心や知識を深めることができた。

また、森づくりと緑の募金の紹介ブースでは、（一社）にいみ木のおもちゃの会による岡山県産材のおもちゃで遊ぶコーナーを設けていただき、小さなお子様に塗料を施さない無垢の木材の手触りの良さや匂いを体感していただいた。

さらに、庭木の剪定教室では、庭師からマツの剪定指導を受けることができることから、難しいとされているマツの剪定方法を熱心に学んでいた。

今後も、参加者に身近な緑の重要性を説明し、県産木材を身近に感じてもらえるような取組みを行っていきたく考えている。

#### 3. 参加者の声

- ・コロナ禍でイベント中止が続く中、秋晴れのもと、樹木に触れ合うことができ、緑の持つやすらぎの効果のようなものを感じることができた。
- ・ちびっこ木工教室で触れた無垢の木の感触は、プラスチックや合板と違い、気持ちが落ち着くように感じました。今度、玩具を買う時は、無垢の積み木を選び、大切に使用していきたいと考えています。
- ・競り市では、お店で買う値段よりかなりお安く購入することができました。花や樹木は好きですが、購入して家で育てる程まででは無かったので、これを機会にお家の緑を増やしたいと思います。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	10月24日	備考
事業量	1日	
参加者数	2,611人	
実施場所	岡山県倉敷市寿町12-1 倉敷みらい公園	

## 緑化普及推進事業（C-45）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

「みどりの少年隊指導者研修会」は、指導力の向上と情報交換を目的に岡山市北区建部町の友愛の丘研修センターで森林インストラクター会による植生の見分け方として「子ども樹木博士」や木工クラフト、意見交換会等を実施した。

夏休み期間中の1泊2日の「みどりの少年隊交流集会」と秋の「みどりの大会」は、新型コロナウイルス感染症が子供達にも広がっていることから、中止した。

このため、今年度は少年隊活動資材として、団旗収納鞆やユニホームを購入、配布した。

昨年度、書籍「新岡山の巨樹老樹名木」を約30年ぶりに改訂した。掲載樹木を大切に、次世代へ引き継ぐために、今年度から新たに樹木診断調査を開始した。

また、緑化月間には山陽新聞社の協力を得て、緑化募金や緑化事業、各種緑化イベントのPRを紙面に大きく掲載した。更に昨年度から始めた岡山駅東西連絡通路に設置されているデジタルサイネージによる広告を今年度は、倉敷駅でも実施した。

## 2. 活動の成果

少年隊指導者への研修プログラムの1つを県森林インストラクター会にお願いし、5年程度の計画で実施している。今年度は2年目で植生の見分け方を野外で実施した。計画的な研修内容により、少年隊への指導力強化につなげたい。

「みどりの少年隊交流集会」と「みどりの大会」は、中止となったが、来年度は、新型コロナウイルス感染症防止対策を十分実施したうえで、開催可能な企画を検討したい。

巨樹老樹名木の診断調査は、1年間に数本しか実施できないため、樹木の状態や地元地域の要望など調査の優先順位を勘案し、効果的に実施したい。

## 3. 参加者の声

みどりの少年隊指導者研修会に参加した指導者からは、「樹皮や葉など樹木の見分け方が良く分かった。」また、木工クラフトづくりでは、「子供たちより先に経験することで、指導する参考になった。」などの意見が寄せられた。

岡山の巨樹老樹名木診断調査は、結果を各市町村等管理者に通知することで、今後の保存事業の実施に向けての参考資料に役立つとの意見をいただいている。

## 実績報告とりまとめ表

行 事 名	みどりの少年隊交流集会	みどりの少年隊指導者研修会	みどりの大会	岡山の巨樹老樹名木診断調査
実施時期	中止	R3.8.20	中止	R3.7～R4.2
事業量		1日		4カ所4本
参加者数		21人		12人
実施場所		岡山市北区建部町		県内4カ所

## 「みどりの集い」開催事業（A-96）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

自然に親しむとともに、その恩恵に感謝し、豊かな心を育むという主旨を踏まえ、身近な緑とのふれあいや郷土の自然を学ぶことを通じて、みどりを「つくり」「守り」「育てる」意識の醸成を図るため、みどりの効用を体験するイベントを開催した。

体験ブースにおいては、①寄植教室、②粘土で遊ぼう、③自由工作塾、④たね団子を作ろう、⑤珍樹ハントに出かけよう、⑦空から森林を見よう、⑧森の安全作業を学ぼう等を開催し多くの家族連れで賑わった。また、販売ブースにおいては、①朝取り野菜と地元加工品、②草花販売等を開催し、好評を博した。

展示コーナーにおいては、広島県、広島県みどり推進機構、「森林づくり活動・森林の働き」に係るパネル展示及び当該展示に係る質問並びに各種相談会が催された。

感染防止対策として、入口での検温、消毒、連絡先の届出、マスクの着用をお願いし、各ブースに消毒液を設置

#### 2. 活動の成果

森林ボランティア団体・林業関係団体・広島県緑化センター等が、一体となって「みどりの集い」を実施した結果、多くの一般県民の参加があり、森林・緑に対する県民の関心と理解を深めることができた。

好天に恵まれ、新緑も重なり、約2000人の県民の方々に参加していただいた。本年度第26回の開催となり、多くの県民が家族連れで楽しむイベントとなっている。

#### 3. 参加者の声

粘土細工等の体験ブースについては、大人・子供を問わず一生懸命取り組まれていた。作品が家庭に持ち帰り、使えることがメリットであると喜ばれた。

寄植教室については、直ぐに定員オーバーになるなど、根強い人気を感じられた。

体験ブースでは、テント内で多くの家族連れが作品づくりに熱心に取り組み、今後も継続を求める声が多かった。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	4月30日	計	備考
事業量	10:00 開会式 各種行事を実施 15:00 閉会式		
参加者数	2000人	2000人	
実施場所	広島県広島市東区福田町 ひろしま遊学の森「広島県緑化センター」		

広島県木材組合連合会

## ひろもくデザインアワード開催事業（A-97）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

広島工業大学の「建築分野における木材利用研究センター」と協働し、産学官連携の下で地域材の需要拡大や人材育成のための効果的な手法の実証を目的に「ひろもくデザインアワード」を開催。木製ベンチのデザイン募集やベンチの試作、公共施設等への展示活用を通じて、地域材利用に関する人材育成や、県民への木材利用促進キャンペーンを総合的に展開した。

#### 2. 活動の成果

デザイン募集では、小学生の部に過去最多の267点、一般の部に127点の応募があり、安全性や機能性などに配慮した作品も多く、試作ベンチ17点を展示活用した施設から感謝の声、感想が多く寄せられるなあと、「木」の魅力と可能性の啓発に繋がった。

今後の取組としては、イメージが固定化されつつある「木製ベンチ」の募集の仕方を更に見直すなど、新たなデザイン発想の下で、木の良さに対する理解を一層深め、木材利用の促進、人材育成とともに、「国民参加の森林づくり」運動の展開に取り組む。

#### 3. 参加者の声

##### 《デザイン応募者》

- 自分が応募した絵から、こんな素晴らしいベンチを作って貰って嬉しいです。(小学生)
- 初めて木製ベンチの設計デザインと制作を行い、木の特徴や安全性、耐久性、実用性などを検討しながら試行錯誤の取組みでしたが、木に関わる大変良い経験になりました。(大学生)

##### 《展示活用施設関係者》

- 素晴らしい木製ベンチを展示活用させて頂き感謝しています。多くの児童や保護者の皆さんが立ち止まって見学されており、優しい肌触りや温もりが感じられる木のベンチに驚かれています。(小学校教頭先生)
- ロビーに展示したベンチの見学者が、工夫されたデザインのベンチに驚くとともに、大学1年生がデザインし製作した椅子であることを伝えると、広島らしい宮島をモチーフにしたデザインに感心されていました。(地域センター管理者)

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	7月1日～9月30日	10月30日	4年3月～	備考
事業量	木製ベンチデザイン募集	審査委員会	ベンチ展示活用17点	
参加者数	394人	11人	約1,000人 (3月末時点)	
実施場所	デザイン募集範囲 県内23市町			

## 緑の少年団交流集会開催事業（C-46）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

新型コロナウイルス感染症の影響により、集団での活動が困難となっている緑の少年団の活動を支援するため、活動の参考となる図書を配布して、少年団員各自が自主的な活動を行うことの助けとする。この取組みを通じて、少年団員の自律・友愛・協同・奉仕の心を養う。

#### 2. 活動の成果

活動を通じて、自然を愛し、仲間を愛するなど、心豊かな人間を培うことに寄与する。

#### 3. 参加者の声

新型コロナウイルス感染症の影響により、活動が制約されている中、活動の助けとなるとの感謝の声を頂いている。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	10月	計	備考
事業量	図書の配布		みどりのおもしろ発見ノート（4年生） みどりの手帳（5年生以上）
参加者数	1,605人	1,605人	少年団員1,578人 指導者等27人
実施場所	広島県内		

## 森林体験学習支援事業（A-98）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

山口県県土緑化推進委員会が林業研究グループと連携して実施する森林体験学習に参加した県内小中学校の児童生徒及び指導者に学習教材を配付し、森林環境教育・森林E S Dの促進を図る。

#### 2. 活動の成果

山口県県土緑化推進委員会が林業研究グループと連携して実施する森林体験学習会に参加した県内小中学校33校の児童生徒及び指導者等920人に「みどりの手帳」等を配付し森林体験学習会を行った。

自然環境の保全や緑化推進の重要性について理解が深まり森林環境教育・森林E S Dの促進を図ることができた。

#### 3. 参加者の声

- ・児童達はみどりの手帳を手にして熱心に体験学習に取り組んでいた。
- ・森林や自然に関する新しい発見もあり、興味深く学習する児童生徒の姿が見られた。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	10月12日～3月11日		計	備考
作業内容	33小中学校で森林体験学習を実施 学習教材を配付			
参加者数	県内	920人	920人	
	県外	人	人	
	計	920人	920人	
実施場所	山口県 岩国市、柳井市、下松市、光市、周南市、 山口市、美祢市、宇部市、山陽小野田市、 下関市、長門市、萩市、和木町			

## 都市と山村ふれあい交流促進事業（C-47）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

林業研究グループ会員が都市住民を対象に森林をフィールドとした自然体験等の交流活動を実施することにより、都市住民に対する森林の重要性や森林整備の重要性の理解促進を図る。

#### 2. 活動の成果

森林林業体験、木工体験、椎茸駒打ち体験、学習会等を通じて、都市と山村の住民が交流を図り、森林の持つ役割や林業の重要性について理解が図られた。今後も事業の継続を望む。

#### 3. 参加者の声

- ・身近な場所で貴重な体験ができ楽しかった。また参加したいので、今後も続けて欲しい。
- ・地域の皆さんと一緒に交流ができ、森林や林業についても理解が深まった。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	9月25日～3月25日		計	備考
作業内容	6林業研究グループが6箇所 森林林業体験等を実施			
参加者数	県内	476人	476人	
	県外	人	人	
	計	476人	476人	
実施場所	山口県岩国市、下松市、山口市、 宇部市、長門市阿武町			

## 記念の森造成事業（C-48）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

植樹、保育等の森林整備、地域住民や児童生徒を含めた植樹祭等、記念の森の緑化活動を通じて、緑化思想の高揚と緑化運動の推進を図る。

#### 2. 活動の成果

県内の6箇所において、子どもを含めた地域住民約280名が参加し、記念植樹や植樹イベント等を開催し、緑化思想の高揚に成果があった。この事業は地域住民のコミュニケーション、連携を深める機会ともなっている。事業要望も多く継続していきたい。

#### 3. 参加者の声

- ・貴重な体験ができた。今後も続けて欲しい。
- ・夏の草刈り作業が大変ですが、記念植栽した苗木の生長が楽しみです。
- ・自分が植樹した森が、将来どのようなようになるか楽しみです。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	9月5日～3月10日		計	備考
作業内容	県内6箇所にて記念の森を造成、植樹、森林整備等実施			
参加者数	県内	282人	282人	
	県外	人		
	計	282人		
実施場所	山口県岩国市、周防大島町、山口市、宇部市、萩市			

## 企業の森づくり普及啓発イベント（C-49）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

SDGsや地球温暖化防止などCO2吸収を高める機能発揮のための取組に関心のある企業・団体から「緑の募金（使途限定募金）」を寄附していただき森林整備を実施している。

支援いただいた企業・団体に対し、植栽や間伐、木育や森林環境教育などの体験イベントを開催しているが、昨年度に続き密にならないよう活動できるメニューを提案し実施した。

神山町では「どんぐりの採取・植え込み」、美馬市では「苗木へと育ったどんぐりを採取地近隣で植樹」と森林の循環を絶やすことなく未来へと繋ぐ活動を実施。

また、小学生を対象に山に興味や関心を持ってもらえるよう森林教室を実施し、森林の役割を学んでもらうとともに、間伐材を利用した木製時計を作った。

#### 2. 活動の成果

県西部では前年度植え込みをしたどんぐりが苗木へと育ち採取地近隣で「記念植樹」を実施した。それぞれが育てた苗木の横に標柱を立て、今後も成長を見守っていく。

また、今年度は県央で植え込みを実施し同様に1年かけて苗木へと育てていただく。

森林教室を開催した、小学校でも植え込みを実施し、「植える・育てる」を実際に学んでもらう。同時に間伐材を利用した木製時計を作り、「使う」を体験してもらった。

コロナ禍で少人数での開催となったが、この活動で「植える・育てる・使う」といった森林サイクルの重要性を認識してもらうことができた。

#### 3. 参加者の声

- ・1年間どんぐりを育てて、芽が出るまで時間が掛かったから心配した。芽が出てからは生長するのがすごく早くてビックリしました。大きく育ったこの木のどんぐりを拾いたい。(小学生)
- ・どんぐりを植えるのは初めて。全部違う種類を植えてみた。葉っぱが違う形をしているか監察していきたい。(小学生)
- ・今回、体験させていただいたことをもとに、授業でも森林の働きなどをもっと伝えていかないといけないと思いました。(教諭)

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	10月24日	11月7日	12月9日	計
事業量	どんぐりの採取・植込	植栽約500本	どんぐりの採取・植込 木工クラフト等	
参加者数	45人	73人	34人	152人
実施場所	徳島県神山町（2箇所）・美馬市			

## 緑化普及活動事業（A-99）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

## （目的）

森林・緑・水に対する県民の認識を深めるための普及啓発活動を行うとともに、森林ボランティアや緑の少年団の活動を支援した。

## （内容）

- ① どんぐり銀行活動を通して県民の森づくりへの関心を深めるために、「どんぐり 預金」を実施し、預金高に応じて苗木やグッズ等を預金者に払い戻した。
- ② 公湖森林公園で緑の少年団などの小学生をに対象にした環境、林業、森林に関する「謎解きイベント」を実施した。

## 2. 活動の成果

コロナ禍の中、熱心な県民（小学生・保護者等）に「どんぐり銀行」「謎解きイベント」に参加していただき、森づくりへの理解と関心を深めてもらうことができた。

今後とも、県民参加の森づくりを推進するため、森（里山）に親しむ体験の場を提供して行きたい。

## 3. 参加者の声

## ①（どんぐり銀行）

「森林の大切さを認識したので、苗木が早く大きくなるように大切に育てたい。」

「どんぐり銀行は、コロナ禍の中、森林・里山へいざなういい機会になった。」

## ②（謎解きイベント）

「各コーナーの問題を通して、環境、林業、森林の大切さがよく分かった。」

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	年間	3月21日	備考
事業量 （内容）	どんぐり銀行活動	「謎解きイベント」	
参加者数	2,684人	276人	
実施場所	香川県内一円		



## 木工作品製作キット配布事業（A-100）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

## 【目的】

木材の利活用を促進するため、次代を担う小中学生を対象に、県産材を使用した木工作品製作キットを提供し、実際に木に触れ加工することで木の良さを知ってもらい、県産木材の利用拡大を図る。

## 【内容】

県内の木材加工業者が県産スギ材で作製した本立てのキットを、総合的学習の時間やクラブ活動、図工の時間等で、製作希望のある県内小中学校へ配布した。

## 2. 活動の成果

木材加工の製品づくりの前段階として、県産材の木製品を活用し、下穴開け、組み立て、やすり掛け、仕上げ作業（ニス塗や焼き板等）を起ったことで、木材になるまでの過程や林業に携わっている人の思いや苦勞を想像し、実感してもらうことができた。

森林を受け継ぎ、後世に残すことができるように、今、自分たちができることをしていきたいという気持ちを高めることができた。

今後も、子供の頃から木に触れ合うことによって森林や林業に興味を持ち、関わりを持ってもらえるよう、継続して事業を実施していきたい。

## 3. 参加者の声

- ・材料の溝のおかげで、組立ても簡単で楽しかった。形がきれいに整い、うれしかった。
- ・釘が隠せるともっといい仕上がりになると思った。さらに大きいサイズのウッドボックスを作りたい。
- ・焼杉をしてみて、均一に焼くことが難しかったが、楽しかったです。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～9月配布 7月～製作	計	備考
事業量	4,090セット	4,090セット	
参加者数	4,090人	4,090人	
実施場所	愛媛県内の小中学校		

## 愛媛の森林友の会育成及び現地研修会開催事業（A-101）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

## 【目的】

県民に森林・林業についての知識を向上させ、理解を深める。

## 【内容】

- ・えひめ森林公園森林散策の実施（令和3年11月6日）  
愛媛森林管理署の協力を得るとともに、「えひめ山の日の集い」併催行事と併せての森林散策を行った。

## 2. 活動の成果

「えひめ山の日」の周知に寄与するとともに、森林を散策することで、森林が生み出す綺麗な空気、川、水を体感し、森林の良さを身体全体で実感してもらうことができた。そして、この森林を保全することの必要性を理解してもらうことができた。

今後も、森林と触れあう活動を通して、森林保全、森林資源の活用について、広く一般県民に普及啓発していきたい。

## 3. 参加者の声

- ・ガイド付きの森林散策で、美しい紅葉や景色を楽しむことができた。
- ・樹木の解説などをしていただいて、知識を深めることができた。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	11月6日	計	備考
事業量	1回	1回	
参加者数	50人	50人	
実施場所	伊予市上三谷		

## 土佐の名所の樹木活性化事業（A-102）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

多くの人が大切にしてきた名所の桜等の再生を図るため、治療等の手入れをボランティア団体と地元住民等で行い、憩いの場としての地域の活性化を図るとともに、樹木を大切にすること等の普及啓発を行う。高知県内で緑化活動を行う2団体に助成し、県内5カ所で桜の手入れや植樹活動を行った。

#### 2. 活動の成果

桜の名所等で樹木の手入れやテングス病の治療・剪定等を行うことで、樹木の保護・育成や景観整備となった。ボランティアには当会が長年実施している「樹木医セミナー」の修了者も参加しており、セミナーで得た知識や技術の実践の場となった。ボランティア活動の経験を生かして、参加者の中には他の地域で自主的に桜の手入れ等を行っている人もおり、県内の樹木の保護・育成活動が広がっている。地域住民と協力して活動したことで、手入れの必要性を伝えることができた。

#### 3. 参加者の声

- ・本数が多くて全ての桜の手入れができなかった。テングス病の目立つ桜がまだまだあるので、今後も手入れを続けたい。
- ・もともと鬱蒼としていた竹林が伐採されたが、毎年草刈り等が大変だった。桜を植えたことで今後の作業が楽しくなる。
- ・桜マラソンのコースとなる川沿いの桜が有名だが、このように手入れが必要と知ってもらえて良かった。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	9月5日	11月23日	1月11日～14日	2月23日	11月20日	計
事業量	四万十町影野地区の桜の手入れ	四万十町米奥地区の桜の手入れ	四万十町県道381号線沿いの桜の手入れ	四万十町日野地で桜植樹	筆山公園周辺の桜の手入れ	
参加者数	15人	8人	10人	6人	28人	67人
実施場所	高知市、高岡郡四万十町					

## 森のようちえん推進事業（A-103）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

県内で森のようちえん等の自然体験活動が広まり、子どもたちが質の高い自然体験の機会を得られるために、高知市「アジロ自然の森」でイベント型の森のようちえんを開催した。実施に当たっては、子どもたちの自然体験のみならず親への普及啓発や指導者育成を視野に入れて行った。また、安全に子どもたちが遊べるように、定期的なフィールド整備を行った。

土佐町「ふるさと再生の森」ではコロナウイルス感染拡大防止のためイベントを開催することはできなかったが、今後のために老朽化したブランコを撤去し新たに新設した。

#### 2. 活動の成果

自然の中で子どもが伸び伸びと遊ぶことで豊かな感性や好奇心が芽生えるような見守りを行っている。自然に囲まれた高知県でも安心して遊べる森は少なく、自然を活かしつつ少し手を加えることで安心して遊べるフィールドを確保し、継続的な自然体験活動を行うことができています。コロナウイルスの影響で外出が制限されるなか、気軽に遊べる「森」にはイベントがない時でも地元の子どもたちや少人数の家族連れなどが遊びに来ており、気軽に自然体験できる場を提供することができた。

#### 3. 参加者の声

- ・家ではぐずる子どもが森に入ると元気になり、何度も転びながら山を登る姿に感動しました。
- ・体験型のイベントは新しい発見・感動、スタッフとのふれあい等があり良いです。
- ・遊具があり、森もきれいに整備されていて安心感があります。日程が合えば森の整備にも参加してみたいです。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～3月	7月18日	11月21日	3月20日	3月
事業量	アジロ自然の森のフィールド整備・遊具の修繕	アジロ山を綺麗にして森で遊ぼう	遊ぼうアジロ山自然体験	春の息吹を探そう	ふるさと再生の森フィールド整備・遊具の新設
参加者数	のべ77人	23人	160人	60人	のべ16人
実施時期	5月8日				計
事業量	森のようちえん新緑を楽しもう				
参加者数	34人				のべ370人
実施場所	高知市・土佐郡土佐町				

## 森の魅力普及啓発事業（A-104）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

一般県民を対象に、高知県の森の魅力や森林の持つ機能等を広く伝え、森林を守り育てる必要性を啓発するためのイベントや学習会を実施する。

比較的身近な里山を利用して、山と自分たちの関わりについて理解し、山の大切さに気づき、山への愛着が深まるような体験を提供するため、また木材利用の手法の一つとして、四万十ヒノキの産地でもある四万十町で町産材を活用したツリーハウスを制作した。

- ①ツリーハウス制作説明会、皮剥ぎ体験
- ②ツリーハウス制作
- ③ツリーハウスお披露目ウォーキングイベント

#### 2. 活動の成果

ヒノキの皮剥ぎ体験を通して、ヒノキの特徴や森林資源の利活用、森林保全等について学ぶ機会を提供した。県内でツリーハウスを150棟以上制作した経験を持つ講師から指導を受け、ツリーハウス制作に関心のある人にその方法を伝授した。お披露目ウォーキングツアーでは、ツリーハウス周辺の里山を散策し、かつては坂本龍馬や牧野富太郎等も通ったとされる山道を歩きながら植物観察等も行った。今回の事業により、里山利用が森林保全につながることやボランティア活動により森林保全に参加できることを伝えることができた。

#### 3. 参加者の声

- ・皮剥ぎ体験、超楽しかったです。素人の女性でもできて達成感も味わえました。
- ・他のツリーハウスと比べて木への負担のない組み立てに関心しました。
- ・ウォーキングはちょうどよいコースで、身近に散策できる場所があり楽しみが増えた。
- ・木の素朴な雰囲気が心地よい。

#### 実績報告とりまとめ表

実施時期	10月31日	10月～2月	3月13日	計
事業量	ツリーハウス制作説明会、皮剥ぎ体験	ツリーハウス制作	ツリーハウスお披露目ウォーキングイベント	
参加者数	14人	のべ86人	12人	112人
実施場所	四万十町	四万十町	四万十町	

## 高知県森林インストラクター養成講座（A-105）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

森林に関する幅広い知識や技術を持った森林インストラクターの養成を図ることで、体験活動や自然観察、森林づくり等を通して、森林・林業に関する正しい知識を一般県民等に広く普及啓発する人材を育成する。

今年度も県内で活動する団体「高知県森林インストラクター会」が実施主体となり、森林に対する幅広い知識、技術を習得するため、「森林」「林業」「森林内の活動」「安全及び教育」の4分野の講習及び実習を全7回で実施した。講座内容は、全国森林レクリエーション協会の実施する「森林インストラクター」の受験に対応できるものとし、講座修了者には養成講座修了証を発行した。修了証書（写）提出により、森林インストラクター資格試験の二次試験「実技」が免除される。

#### 2. 活動の成果

過去の受講生がスタッフとして参加し、知識と技術の向上を図っている。これまでに受講生2人が森林インストラクター資格試験に合格した。森林・林業分野における指導者の育成となっており、今後の普及啓発の広がりが期待できる。

#### 3. 参加者の声

- ・初心者にはとてもわかりやすい内容であった。講座で学んだことをベースにして、今後技術力を向上させていきたい。
- ・森林をはじめとする自然を見る目が変わっていくのを感じることができた。
- ・講義は非常に難しいが、実習を通じて講義の必要性を理解することができた。
- ・ネイチャークラフトに興味を持ち、今後クラフト作成を趣味にしていきたい。

#### 実績報告とりまとめ表

実施時期	8月～2月
事業量	森林インストラクター養成講座（全7回）
参加者数	23人
実施場所	高知県高知市、香美市、長岡郡大豊町

## 地域の森林整備事業（C-50）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

県内のボランティア団体や地域住民により、緑の募金等で植樹が行われた場所の草刈り等を行い、憩いの場の維持管理や景観整備を行った。

#### 2. 活動の成果

緑の募金で植樹した場所は公園など近隣住民の憩いの場となっており、維持管理をすることで地域の活性化に貢献できた。また、アジロ自然の森は定期的に森のようちえんフィールドとして活用されており、樹木が順調に成長している様子を子どもやその保護者に実際に見てもらい、手入れの大切さを伝えることができる。

#### 3. 参加者の声

- ・きれいに草刈りや手入れをしてくれているので、季節ごとに花を楽しむことができる。
- ・下草や樹木の勢いで桜が負けてしまいそうだが、毎年草刈りをしているので植樹した桜が根付き、元気が出てきた。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	7月3日	7月16日、19日	計
事業量	約0.4haの草刈り作業 アジロ自然の森	約0.3haの草刈り作業 清水農村公園および周辺緑地	
参加者数	7人	のべ5人	のべ12人
実施場所	高知県高知市、吾川郡いの町		

## 活動基盤整備推進事業（C-51）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

高知県内で森や緑と水に関わって活動する団体について、地域ごとに組織化を図る。これまでも支援してきた県内の緑と水の会（幡多、須崎）の活動を持続できる基盤整備として事務費の助成を行った。

#### 2. 活動の成果

地域の森林整備や緑化推進に関する啓発活動を行っている団体を支援することで、ボランティア活動を継続することができる。また、これにより一般県民に森林にふれる機会を提供でき、森林の持つ機能や大切さについての普及啓発ができる。

#### 3. 参加者の声

- ・事務費を支援していただいたので会員活動の呼びかけ、報告等に活用することができた。
- ・新型コロナウイルスの感染の不安が払拭できないため、近隣で行える環境整備やボランティア活動を積極的に行った。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～3月	計	備考
事業量			
参加者数	2団体	2団体	
実施場所	四万十町、四万十市		

## 森林ふれあい交流事業（A-106）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

- 四王寺山森林浴ウォーキング 森林とふれあいながら歴史のロマンを感じ、特別史跡「大野城跡」や森林の大切さへの理解を深めるとともに、森林浴による心身の健康増進を図る。
- 親子木工教室 木工製品を組み立てることで、木材の良さ、自然の大切さを感じてもらおうとともに、共同作業を通じて親子の絆を深める。
- 四王寺山ネイチャーラリーと火おこし体験 森林内を散策して薪を集め、火起こしなどで自然への感謝を学ぶ。
- 写真展 福岡の自然と四王寺山にかかわるものと題して、一般の方々から募集することで、写真を通してその対象物への認識や愛着を深めてもらうとともに、これらの作品を展示公開することで、見学される方々にも同様な意識を広げていく。
- 森の恵みでつくるクリスマスリース 園内の針葉樹や常緑樹の葉を使ってリースを作り、森の恵みの大切さ、森林の循環利用を感じてもらおう。
- 広葉樹の植樹体験 遊歩道に花木を植えて「花の小径」を作ることで、森づくりの大切さ・喜びを感じてもらおうとともに、小径を歩く人にも緑を育む気持ちを広げていく。

#### 2. 活動の成果

- 四王寺山森林浴ウォーキング 歴史や自然を同時に学び、人の営みと自然を考える端緒になった。
- 親子木工教室 多くの親子がいっしょに笑顔で作業を楽しみ、自然の木材の香りや温もりに触れながら、森林の大切さも感じてくれた。
- 四王寺山ネイチャーラリーと火おこし体験 スギの枯れ葉やヒノキの小枝を集め、火おこし体験をし、カーボンニュートラルを学びました。
- 森の恵みでつくるクリスマスリース 針葉樹や常緑樹を使ってリースを作り、森林の二酸化炭素吸収を学びました。
- 広葉樹の植樹体験 樹名板にウッドバーニングをし、遊歩道に花木を植栽して緑に対する親しみと自ら緑づくりに参加する喜びを感じてもらえた。

#### 3. 参加者の声

- 四王寺山森林浴ウォーキング 解説員の方にわかりやすく説明していただき、大変勉強になりました。参加して本当に良かったです。有意義で気持ちの良い一日を過ごせました。
- 親子木工教室 親子で普段使わない金槌やドライバーを使って木工キットを組み立てて楽しかった。
- 四王寺山ネイチャーラリーと火おこし体験 親子で焚火台を使って火おこし体験などはしたことがなかったので枯れ葉や薪の煙の匂いを始めて感じました。片付けも勉強になりました。
- 写真展 四王寺山の野鳥や歴史、珍しい植物や水の生き物たちなどを見て、自然に親しみが出来ました。
- 森の恵みでつくるクリスマスリース 針葉樹や木の実などの自然のものだけでとっても素敵なリースが出来ました。森の恵みを感じました。
- 広葉樹の植樹体験 早く、花が大きくなって遊歩道が素敵になると嬉しいです。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	10月23日	11月3日	11月27日	11月14日 ～12月12日	12月11日	R4.2月12日	計	備考
事業量 又は 事業内容	四王寺山森林浴 ウォーキング	親子木工 教室	四王寺山ネイ チャーラリーと 火おこし体験	写真展	森の恵みでつくる クリスマスリース	広葉樹の 植樹体験		
参加者数	県内	79人	54人	24人	1000人	29人	26人	1212人
	県外	人	人	人	人	人	人	
	計	79人	54人	24人	1000人	29人	26人	1212人
実施場所	福岡県 糟屋郡宇美町							

## グリーンフェスティバル2022 (A-107)

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

緑に触れる機会を増やすため、子どもを対象にした樹木探偵団、ツリークライミングなど、また、椅子、小物入れ、竹工作などの製作による木工体験を通じて樹木や木材・竹の素晴らしさを体感してもらった。

生産者が直接販売する軽トラ植木市や寄せ植え・ハンギングバスケット作り及び香りのワークショップを実施し、緑化木としてだけでなく新たな緑の利用法についても普及啓発を行った。

その他にも親子丸太切り競争、チェーンソーアート、スケッチ会、モデル庭園展示、緑の相談コーナーなどを実施した。

## 2. 活動の成果

子どもを対象としたツリークライミングでは雨のため午前中は中止したが、再開後は参加希望者も多く大変好評であった。また、木工体験では用意したキットがほぼ無くなるなど雨の中でも盛況であった。ハンギングバスケット展示では華やかで多くの鑑賞者が見られた。また、寄せ植作りは参加希望者も多く、用意した寄せ植えのセットがほぼ完売した。

参加者に緑への関与を自覚してもらうため、花苗配布を募金方式としたが、緑の募金の募金額が無償配布時と比較して約3倍となり緑への関心の高さを知ることができた。

軽トラ植木市では、生産者と購入者が木の特徴や植栽・管理方法について、樹木医も交えて直接対話する機会となり、生産者、購入者ともに好評であった。

チェーンソーアートは参加者から賞賛の声が上がった。

多くの参加者に、森林・緑・水の大切さを伝え、体感してもらい、理解してもらえることが出来る好適な催しであるため、今後も、活動目的に沿って続けていきたい。

## 3. 参加者の声

- ・ツリークライミングは疲れたがおもしろかった。また参加したい。(小学生低学年参加者)
- ・丸太切り競争など子どもと一緒に遊べるイベントがあり良かった。(大人女性丸太切り体験)
- ・募金による花苗配布は緑への関心を持たせる意味でも重要と思います。(緑の募金者)
- ・軽トラ植木市は直接生産者と話ができて、苗木のことを聞いて良かった。(苗木購入者)
- ・香りのワークショップの化粧品作りは、娘と楽しめて良かった。(ワークショップ参加者)

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	令和4年4月29日(金)	備考
事業量	100%	
参加者数	1,800人	
実施場所	久留米市田主丸町益生田(福岡県緑化センター)	

## 第31回世界子ども愛樹祭コンクール (A-108)

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

愛樹祭事業は31年前より、樹木・森との共生を行うことで自然環境だけではなく、心豊かな人間性を育むことを目的に「世界子ども愛樹祭コンクール」を企画・実施してきた。

31回までに、世界24ヶ国・国内46都道府県より絵画53,829点、詩・作文19,404点、木はがき9,339点、これまでの受賞者記念植樹は400本程になるなど大きな成果をあげている。

昨年に続き、コロナウイルス感染拡大防止の為、授賞式は中止となったものの、受賞者を多数含む矢部清流学園の児童、生徒、先生の協力により、十分に安全面を配慮のうえ、1年生から8年生による植樹活動を行うことが出来た。

## 2. 活動の成果

今回も昨年同様、コロナウイルス感染拡大防止のため中止となったが、春休み、また休日に、入賞者のみならず作品の観覧に訪問者があった。

授賞式にむけて、地元の小中学生には式での演出予定で、唄、合唱の練習と連日励んでいたが、披露する機会が失われたことについては残念であった。

## 3. 実績報告とりまとめ表

実施時期	12月12日	1月20日	3月27日	3月22日	計
事業内容	一次選考会	最終選考会	授賞式(中止)	記念植樹	
参加者数	27名	7名	0人	56名	90名
実施場所	福岡県八女市	福岡県八女市	福岡県八女市	福岡県八女市	

## 第9回もりもり広がる森林づくり (A-109)

## ファンド事業の概要

## 1. 事業の概要

糸島市民・環境ボランティア団体の協力を得て、糸島市二丈福井真名子水源地跡地を広葉樹を主体とする森林に戻し、国土保全など公益的機能を発揮する森林として、また、一般市民が森林浴や自然観察会などに利用できる場とする。

敷地約800㎡約600本以上集客予定人数200名を目指す植樹会を実施する予定であったが、新型コロナ対策の外出規制、緊急事態宣言・蔓延防止重点処置等の発出により、一般参加募集を中止し、会員及び協力者により実施した。

会長挨拶、安全対策、植え方等の説明を行い、植樹開始。

イロハモミジ150本、ヤマザクラ・クスギ各100本、マテバシイ・スダジイ・ヤマモモ・センダン各50本、タラヨウ・クリ各25本、計600本を植栽。

マダケの小さな切り株が多く足元に注意し、約2時間の時間を持って事故もなく終了した。

## 2. 活動の成果

植栽地は、50年ほど前は水田で、その後ダムができたが最近堰堤を切って原野となっていた。

植樹した広葉樹が根を張ることで土砂を止め、また、生物多様性が向上することで自然環境学習の場や憩いの広場としての活用が期待できる。

また、近隣にはキャンプ場があり、自然を対象にしたイベント等への利用も期待できる。

## 3. 参加者の声

今回の植樹場所は、旧水源地の撤去工事が終わったところで、小さなマダケが侵入していて、切株に足を取られそうになり、かなり厳しい作業であった。次年度にはこのことを反省し、より安全な作業になるように準備したい。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	2月23・25日	2月26日	計	備考
事業量	イベント準備作業 (資機材搬入)	第9回もりもり広がる 森林づくり本番	600本の植樹	
参加者数	15人	15人 (内一般5名)	26人 (内一般5名)	
実施場所	福岡県糸島市二丈福井真名子木の香ランド キャンプ場管理棟周辺地			

福岡県水源の森基金

## 花立山の里山保全作業 (A-110)

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

花立山(標高130.5m)は小郡市内の貴重な里山であり、この山が持つ自然、歴史、景観などを地元住民をはじめとする市民に山のすばらしさを再確認してもらうため、下草刈り作業及び除伐、植栽作業及び里山、木工教室等を予定していた。しかし、一昨年からの新型コロナの感染拡大の防止のため、里山教室、木工教室は中止を強いられたが、下草刈り作業及び除伐、植栽作業は実施した。

## 2. 活動の成果

下草刈り作業、除伐作業及び植栽作業は、山麓を中心に行っていたが、今回は山頂付近の除伐が行われた地区で初めてヤマザクラの植栽作業を行うことができた。この作業において、地元干潟区の住民の方に参加していただいた。今後は山頂付近の保全作業にも力を入れ、下草刈り作業を含めた保全作業を進めていきたい。

## 3. 参加者の声

- ・始めて参加された方からは、ヤマザクラの植栽ができたことで、これからはサクラが大きくなり花が咲くまで登山の楽しみが増えたとのこと。
- ・森林ボランティアの方が暑い中、寒い中作業を行っていることは知っていたが、参加したことで大変さを理解できた。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	月日	計	備考
事業量 又は 事業内容	令和3年7月18日 令和3年7月23日 令和4年3月19日 令和4年5月3日	計4回	参加者12名 参加者6名 参加者13名(植栽含む) 参加者10名
参加者数	県内 県外 計	41人 0人 41人	
実施場所	福岡県小郡市干潟(通称:花立山)		

## 宝珠山百年の森づくり記念植樹（A-111）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

- ・植栽等を行うことによって森林を育み、東峰村の住民とそこを訪れる人々の交流・教育・体験活動を通じて豊かな森づくりを目指している。
- ・また、オイスカ留学生や都市住民に参加してもらうことにより、森林づくり活動を通して幅広い参加者の交流が行えた。

## 2. 活動の成果

- ・参加者の森林に対する関心が深まり、森林整備・保全の意識が向上した。
- ・また、自ら植栽を行うことで森林保全活動の大変さを知ることができた。
- ・今回の活動を通して、地域緑化の推進や環境保全に大きく貢献できたものとする。

## 3. 参加者の声

- ・植樹した苗のこれからの成長が楽しみ。
- ・森林に対して、より関心が深まった。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	11月23日	計	備考
事業量	苗木35本植栽		
参加者数	40人	40人	
実施場所	福岡県朝倉郡東峰村大字宝珠山4135番地		

## 里まちサイクルプロジェクト（C-52）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

未来の子ども達に豊かな自然環境を引き継ぐために、森林資源の整備を行う。また、青少年が森林を身近なものに感じるため、参加して楽しく学習できる体験型の環境教育を行う。

これらの活動を通じて次世代の育成を図るとともに、森林の必要性を理解してもらう。

「内容」

- ①里山の保全活動・・・竹林の整備により発生した竹材の有効利用（循環・再生）
- ②竹を活用した環境教育を通して、守り育てる学習・・・竹細工・竹でパンを焼く、筍掘体験。また、スギの間伐材を切ってみる等の自然体験学習。迷惑物のカズラを取って、クリスマスリース作り
- ③竹の再利用と活用・・・「ミニ門松作り」など

## 2. 活動の成果

○里山の保全活動を通して、自然環境学習の開催ができ、多くの方々に里山の現状を見てもらい、森林の役割と大切さを理解してもらった。自然環境教育を待ち望んでいる人々が多く、体験を通して子供達に森林の果たす役割の大きさと、守り育てていくことの大切さを理解してもらえた。また、竹の再利用では、「ミニ門松作り」等、日本文化の良さを青少年から高齢者まで体験してもらい、大変好評をいただいた。クスギの原木に椎茸菌を打つ体験では、小学生から高齢者まで参加していただき、街に住む方々に生まれて初めて体験したと、森林の良さを体感していただくことができた。

## 3. 参加者の声

- 都会で暮らしていると、森林や自然環境について考える機会が少ないのですが、参加して、身近に感じ、もっと自然環境に関心を持ちたいと思いました。
- 森林について考えたことがあまりなかったのですが、今回参加して、これからはもっと関心を持つべきだと感じました。
- 日頃体験できない内容で、よい経験になりました。機会があればまた、参加したいです。
- 自然の物ばかりでリースをつくる体験ができて最高でした。
- クスギの原木に椎茸菌を打つ体験を初めてできて、すごく楽しかったです。早く「椎茸」が出てくるといいな～と家族で話ができます。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	月日	月日	計	備考
事業量	2021年10月5日～			
緑化維持活動	2022年3月24日		17回	
自然環境教育・竹の再利用		2021/10/5～2022/3/26		
参加者数	38人	308人	346人	
実施場所	福岡県 福岡・糸島 市・町			



## よかウツドフェスタ (A-112)

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

森林・緑を県民みんなの財産として社会全体で守り育て、次の世代に引き継いでいくという意識の醸成を図るため、国土緑化運動・育樹運動標語等の表彰、木工工作コンクール及び高校生建築設計競技の表彰並びに作品の展示を行うとともに、ふれあい広場において併催イベントや木材関係団体等のPRコーナーを設けて緑化や木材普及の推進を図った。

〔事業の実施内容〕

- ①プレイベント: イベント開催に先立ち、9時30分から和太鼓葉隠による和太鼓演奏を開始。
- ②式典: 国土緑化運動・育樹運動標語及びポスターコンクールの知事賞表彰、県内児童・生徒木工工作コンクール、県下工業高校建築設計競技及びさが優良丸太展示品評会の表彰式を行うとともに、木工工作コンクールと建築設計競技入賞者の作品展示を行った。
- ③併催イベント: 木工工作、木の実工作、かんなくず工作などの体験イベント及びさがの樹プレゼント、県産木材PR・林業就業相談コーナー、住宅・耐震相談コーナー、棟上実演・もち配布、親子で学ぶゲーム、シシ肉パンの無料配布、チェンソーアートや大迫淳英トーク&ミニライブなど多彩な催しを行った。

## 2. 活動の成果

緑化や木材に関する表彰を実施することにより緑化の大切さを認識してもらうとともに、木や木の実を使った工作などにより木のぬくもり、すばらしさ、楽しさを実感してもらった。

## 3. 参加者の声

アンケートの結果では、「森林を大切にしたい」、「木の良さが分かった」、「SDGsが話題の中で、自然について考えられるととても良い機会であった」、「いろんなイベントがあって良かった」などたくさん感想を頂きました。

## 実績報告取りまとめ表

実施時期	11月6日(土)	備考
事業量	・標語、ポスターコンクール、木工工作コンクール等の表彰 ・木工工作体験など各種イベント実施	
参加者数	約1,600人	
実施場所	佐賀市天神どん3の森広場	

## 緑の探検学習会 (C-53)

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

県内の緑の少年団員と指導者を対象に、野外の体験学習を通じて自然や緑の大切さを実感してもらい、少年団活動発表会や団員の交流会を盛り込むなどして、緑化活動や環境美化に積極的に参加する心を育てることを目的として、探検学習会を開催した。

〔活動の実施内容〕

午前

## ①葉っぱ探偵団

会場の公園に植樹されている木の樹皮と葉っぱを見比べながら、各木についているQRコードを使って木の名前を当てた。

## ②森のクラフト体験

よかウツドフェスタ内のブースを活用し、木の枝などを使って、各自、自由に工作体験を行った。

午後

## ①5団による活動発表(うち4団は、ビデオ発表)

## ③活動発表大会の表彰式及び閉会式

## 2. 活動の成果

地区代表による活動発表を通じて、緑の少年団の活動の活性化が図られた、また、樹木の特徴や違いを学習するとともに、木を使った工作体験を行うことにより樹木が身近に感じる事が出来た。また、活動を通じ少年団相互の交流が図られた。

## 3. 参加者の声

コロナ対策を十分に取った上での開催であったため、一部制約があったが、子供たちは、大変元気よく、最後まで熱心に学習会に取り組んだ。体験等を通じて、多くのことを学べた。」「友達と協力して楽しむことができた。」などの前向きな感想が多かった。

また、大人からは、感染症対策への感謝や少年団活動への理解が深まったことなどの声があった。

## 実績法報告取りまとめ表

実施時期	11月6日	備考
事業量	・葉っぱ探偵団 ・森のクラフト体験 ・5団による少年団活動発表大会	
参加者数	70人(少年団員34人、指導者11人、スタッフ25人)	
実施場所	佐賀市どんどんの森及びアバンセ	

## 森林のつどい事業（A-113）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

- ・県民が森林とふれあい、森林を守り育てていくことの大切さを広く理解してもらうため、長崎県民の森で「ふるさとの森フェスタ」を新型コロナウイルス感染症防止対策として、体験コーナーは県民の森のテントサイトを活用して一定の距離を確保して実施し、竹細工工作、丸太を切って工作、こがし絵体験、ネイチャーゲーム等を体験した。また、県民の森の林内を散策する「森林ウォーキング」を小グループで実施し、木工キット（小物入れ）の組立てを体験した。
- ・小学校高学年～中学1年生を対象に募集を募り、木育キャンプ（森のつどい）を2箇所で開催し、森林学習で人工林と天然林について学び、現地では森林組合や高性能林業機械による伐倒作業を見学した。木工体験では焼板の絵付けや木製時計作りを体験した。

#### 2. 活動の成果

- ・「ふるさとの森フェスタ」では、家族での参加も多く森林と触れ合う機会が少ない中で森林を再認識する機会が出来た。
- ・木育キャンプ（森のつどい）では、次代を担う子供たちが森林のはたらきや、木材の伐倒現場や丸太から製材になる過程を見学出来て貴重な体験が出来た。児童や生徒の森林に対する関心を高めるためにも、今後も継続して実施していきたい。

#### 3. 参加者の声

- ・「ふるさとの森フェスタ」の参加者からは、家族で色々な体験が出来て楽しかったという声が聞かれた。
- ・森林ウォーキングと木工クラフト組立ての参加者からは、植物や木の詳しい説明があり樹木がいかに大切に改めて思った。また、久しぶりの金槌を使いパズルみたいで達成感があったという感想があった。
- ・木育キャンプ（森のつどい）では、木材を伐採する現場や丸太から製材になる過程を見学出来て良かった。木について学び、体験を通して、自然に親しみ、森林に対する理解を深めることができた。という意見があった。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	10月16～17日	11月3日	11月6～7日	計
事業量	木育キャンプ ～知る、触る、作る～	ふるさとの森フェスタ	木育キャンプ ～森林を学び、木から創り、木と遊ぶ～	
参加者数	27人	約250人	17人	約300人
実施場所	長崎市	長崎市	西海市	

## 緑の少年団活動活性化事業（C-54）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

緑や自然と接することにより、緑を守り・育てる心を養い、協調性と豊かな心を養うために「緑の少年団」活動の一層の活性化を図るために、6月の環境月間、秋期における地域の公共施設等への花苗植栽活動を実施した。また、緑の少年団交流集会在中止となったため、身近な森林などへの興味や関心を深めてもらうため植物図鑑を緑の少年団へ配布した。

#### 2. 活動の成果

- ・地域での花苗の植栽活動を集団で体験することにより、自然の大切さや地域の環境を守ることの大切さを学ぶことができた。
- ・植物図鑑については、花や樹木についての関心が高まり、今後の少年団活動や森林教育学習等への活用が図られる。

#### 3. 参加者の声

- ・花苗の植栽活動では花壇等に植栽する花の配置や植え方について勉強になった。
- ・緑の少年団からプランターの花を郵便局等に贈呈し、とても喜んで頂いて良かった。
- ・植物図鑑の配布では、今後の少年団活動に活用されることが期待される。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	9月～11月	2月下旬 ～5月下旬	6月1日 ～6月30日	計
事業量	秋期花苗植栽活動 3,568本	図書の配布 628冊	6月環境月間花苗植栽 7,573本	
参加者数	13団434人	22団	19団509人	943人
実施場所	県下一円	県下一円	県下一円	

## くまもと森づくり普及・啓発事業（A-114）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

事業実施主体：(公社) 熊本県緑化推進委員会

共催：(株) 熊本放送

目的：くまもとの豊かな緑を守り育てる「緑の財産づくり」を推進するため企業とともに緑化推進キャンペーンを展開している。募金期間に森林とのふれあいイベントを開催し、県民参加の森づくりの一層の推進を図る。

内容：公募による参加者（家族等）が熊本市立立田山の自然とふれあう「立田山グリーンウォーク」を開催し、熊本県インストラクター協会会員の指導のもと、秋になりつつある森林の様子を観察したり、森林の話聞きながら森を散策した。また、散策後竹トンボ協会の協力で竹クラフト教室を開催し、家族で楽しく木竹とふれあう時間を過ごした。（当日の状況は別添写真のとおり）

#### 2. 活動の成果

森林にふれあうことで森林の大切さに対する理解者が増え、県民参加による「緑の財産づくり」の推進が図れた。

#### 3. 参加者の声

自然観察会では森林インストラクターの方々から秋の時期に特徴的な木や草花の話が聞けて勉強になった。

また、竹トンボ協会の方々の指導により作った竹トンボが非常に良く飛んで楽しかった。

今年もコロナ禍での開催となったが、感染防止対策を徹底しつつ、家族が楽しめてとても良かった。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	9月25日	計	備考
事業量			
参加数	98人	98人	
実施場所	熊本市黒髪立田山いこいの森（多目的広場）		

## 緑の少年団活動育成事業（C-56）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

自然の中で緑を愛し守り育てる活動をはじめ、地域社会での奉仕活動やキャンプ等の野外活動を通して心豊かな人に育つことを目的とした緑の少年団の交流集會を支援する。

#### 2. 活動の成果

県内2ヶ所それぞれの地域の特色を生かしたプログラムによる森林及び水とのふれあいやクラフト体験により、地域力の向上が図られたとともに他の少年団員との相互交流が促進された。

また、蔓延防止宣言が発令されたため交流集會が1回となり、熊本県独自の緑の少年団Tシャツを作製し希望団に配付した。

#### 3. 参加者の声

川遊びや自然観察や物づくり体験など日頃は交流のない他の緑の少年団の団員と班編成による共同体験などを通して新たな発見や交わりができた。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	7月30日	計	備考
事業量			
参加数	37人	37人	
実施場所	上天草市熊本県立天草青年の家		

## シンボル森林の活用促進事業（C-57）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

事業実施主体：(公社) 熊本県緑化推進委員会

目的：県指定の「熊本ふるさとの森林」森林や市町村が設定したふれあいの森林等地域を代表する森林の利用促進を図るため、森林の内容や散策路等施設の情報を記した総合案内板の設置や補修を行う。

内容：案内板の表示内容の改訂・補修

熊本ふるさとの森林「大津山自然公園」の森林は、南関町中心街の近く、九州縦貫道の南関インターチェンジをはじめ各地からの交通の要衝にあり、神社や城跡もあり、四季折々に多くの県民が訪れる散策路や公園などを備えた憩いの森となっている。案内板が劣化していたため、案内板が新しくなることにより、より多くの方に散策が楽しめるよう案内内容を改訂した。

- ・森林総合案内板 1基
- ・表示板 W=2,900mm H=1,900mm

#### 2. 活動の成果

森林にふれあうことで、森林の大切さに対する理解者が増え、県民参加による「緑の財産づくり」の推進が図られる。

#### 3. 参加者の声、参加者の感想

南関町の公園の管理者からは、写真を使った森林散策のコース等の案内により、大津山自然公園がより分かりやすく利用しやすくなり利用者が増加するのではというような意見があった。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	10月～1月	計	備考
事業量	案内板1基補修	案内板1基	
参加者数			
実施場所	玉名郡南関町熊本ふるさとの森林「大津山自然公園」正面駐車場脇		



## シンボル森林の活用促進事業 (C-57-1)

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

事業実施主体：(公社) 熊本県緑化推進委員会

目的：県指定の「熊本ふるさとの森林」森林や市町村が設定したふれあいの森林等地域を代表する森林の利用促進を図るため、森林の内容や散策路等施設の情報を記した総合案内板の設置や補修を行う。

内容：案内板の表示内容の改訂・補修

熊本県山都町の緑仙峡は、清流・緑川水源一帯の流域で、紅葉が美しいスポットとして有名。冷涼で過ごしやすい夏は川遊びが楽しめ、避暑地としても人気。山々が美しく染まる10月～11月下旬は、岩壁が鮮やかに染まり見事な景色を見せてくれる。今般、案内板が劣化していたため、より多くの方に散策が楽しめるよう改修した。

- ・森林総合案内板 1基
- ・表示板 W=2,510mm H=1,580mm

#### 2. 活動の成果

森林にふれあうことで、森林の大切さに対する理解者が増え、県民参加による「緑の財産づくり」の推進が図られる。

#### 3. 参加者の声,参加者の感想

山都町の担当者によれば、これまで案内板の説明記事が読みにくい上に、地図も不確かであったが、改修により見やすいガイドマップとなり、来訪者の利便性向上や安全確保の観点からきわめて有用であるとの言葉があった。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	10月～1月	計	備考
事業量	案内板1基補修	案内板1基	
参加者数			
実施場所	熊本県上益城郡山都町緑川		

施工前



施工後



## ふれあい森林教室（A-115）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

森林の啓発及び森林の持つ多様な機能や家族の絆を深めることを目的に、キャンプ、自然観察会等を行う。

17日（土）森林教室（竹クラフト、竹水鉄砲・竹箸の製作）、野外での飯盒炊飯、レクリエーション（雨天のためキャンプファイヤーを中止とした。）

18日（日）森の自然観察会、森林ネイチャーゲーム（森の生物パズル）、メタルマッチでの火起こし体験

## 2. 活動の成果

新型コロナウイルス感染症対策のため、「新型コロナウイルス対応ガイドライン」に沿って、森林キャンプ、森の自然観察会等を行った。森林教室の竹クラフトでは、3年生のマダケを使用し、竹水鉄砲と竹箸を製作をした。慣れない刃物を扱うが親子で協力しながら作業を行った。製作した水鉄砲や竹箸はキャンプ中遊びや食事に利用した。飯盒炊飯では、家族間で試行錯誤しながら火を起こし、調理を行った。レクリエーションでは指導者のもと、グループ間の距離を確保しながら出来るレクリエーションを行い、参加者の中で楽しさを共有することが出来た。自然観察会・森林ネイチャーゲームでは、人と緑の関わりを交えながら、自然の中で生きる生物や、植物の特性の指導を行った。メタルマッチでの火起こし体験では、ライター等を使用せず、自らの手で火を起こした。全体を通して、森林や自然、緑に対する理解と関心が高まった。

## 3. 参加者の声

- ・竹クラフトでは、普段扱わない竹を扱うことで意識していなかった竹の利便性を知ることが出来、刃物の正しい使い方を学べて勉強になった。
- ・飯盒炊飯では、なかなか火が付かず苦労したが無事火を起こすことが出来て良かった。
- ・自然観察会では、普段意識しない樹木のことや、セミの羽化など自然の中でしか体験出来ないことを学ぶことが出来て良かった。
- ・自然の中で活動することで、自然や生物の面白さや大切さを学ぶことが出来た。これから自然や緑を大切にしていきたい。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	7月17日	7月18日	計	備考
事業量	森林教室 飯盒炊飯 レクリエーション	自然観察会 ネイチャーゲーム 火起こし体験		
参加者数	45人	45人	45人	
実施場所	大分県大分市大字高原平成森林公園キャンプ場			

## 大分県農林水産祭林業部門（木と暮らしのフェア）（A-116）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

木とのふれあいの場を広く県民に提供し、木材に対する理解を深め、さらに、県産財を中心とした需要を喚起し、県内の森林・林業・木材産業の活力を高めていくため、令和3年度農林水産祭林業部門を開催。

木とのふれあい、体験・学習・PR、木製品・林産物等の販売コーナーにおいて、木製品の製作体験、木製品・林産物の展示・販売等を実施。

## 2. 活動の成果

木とのふれあい、体験・学習・PRコーナーや、木製品・林産物等の販売コーナーを通じて森林・林業・木材に対する理解を深めてもらうことにより、木材の利用や森林の大切さについて普及啓発を図ることができた。

これからもイベント・出店内容、駐車場を含めたアクセス、雨天対策、休憩場所等への要望をできるだけ反映し、秋の大分県の大きなイベントとして定着している当フェアをさらに充実させていきたい。

## 3. 参加者の声

- 林業や農産物の大分県の特徴がよく分かった。
- 毎年楽しみにしています。
- 子どもの工作が多くあり楽しかったです。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	10月16日	10月17日	計	備考
事業量	木製品・林産物・緑化木等の販売、ジビエ「森のレストラン」、しいたけ需要拡大コーナー、木工教室の開催、木のおもちゃづくり、木造ユニットハウスの展示、内装材木質化軽自動車の展示、林業体験・学習コーナー、伐木VRシミュレーションによるチェンソー体験、体験型林業紹介コーナー（狩猟）			
参加者数	一人	一人	590,000人	
実施場所	大分県別府市（別府公園）			

## 大分県みどりの少年団のつどい（A-117）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

大分県下のみどりの少年団が一堂に会し、自然とのふれあいを通じ、森に遊び、森に学ぶことを目的に実施を行った。当初は1泊2日の森林宿泊研修を計画していたが、県内の新型コロナウイルス感染症の拡大を受け急遽、日帰り研修に変更した。今回は大分県樹木医会の指導により子どもの樹木診断体験「木のお医者さんになってみよう」を行い樹木を教材に森林の学習を行った。

#### 2. 活動の成果

「木のお医者さんになってみよう」では参加者を10班に分け、グループごとに樹木医が講師となり活動を行った。樹木のこと以外でも、樹高の回り方などを子供たちがみんなで考え、いろんな手法を試し、実践することで深い学びに繋がっていることが、グループごとのまとめの発表を聞いて解りました。森林が学びのフィールドになることを改めて実感しました。

#### 3. 参加者の声

- ・森林の持つ様々な機能を学ぶことが出来た。
- ・直角二等辺三角形と巻尺で樹高を図ることが出来た。
- ・葉っぱの色や大きさで樹木の健康が判断出来ることがわかった。
- ・森林内はとても涼しく、樹木や森が大切なことがわかった。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	7月29日	備考
事業量	・活動紹介 ・木のお医者さんになってみよう	
参加者数	みどりの少年団9団138名	
実施場所	大分市立のつはる少年自然の家、全国植樹祭会場周辺	

## 名木保全事業（B-5）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

目的：県内の名木について現地調査を行ったデータに基づき、診断結果が不良な樹木について、保育・保全を行いさらに文化的な活用を図るものとする。

内容①実施主体 公益財団法人森林ネットおおいた

②実施時期 令和4年1月～令和4年3月

③実施場所 大分県全域（今回は大分市、津久見市）

④事業内容 樹勢等の健康度などを基に治療を行った。

#### 2. 活動の成果

調査・治療木

①サザンカ（大分市大字廻栖野2167）

古木で巨木のサザンカで枯れや腐れが進み、樹勢が弱まっているため、腐朽部除去など保全治療と支柱設置を行った。

②フジ（津久見市大字上青江3537）

昭和6年より移植されたと記されている樹木であるが、年月が立つにつれ手入れが行き届かなくなり、数年は花が咲かない状態で樹勢が弱まっていた。樹木の剪定、土壌改良等を行い、保全作業を行った。

#### 3. 考察

①サザンカ

過去の傷等を処置していなかった為、腐朽が進み幹の空洞化を起こしており、樹木の生育に大きな影響を及ぼしている。今回、腐朽部や枯損木の除去、土壌改良、支柱設置を行った為樹勢が回復していくことが期待される。

②フジ

手入れ不足であった為、生育を妨げるツル絡みや傷が多くみられていた。十分な剪定を行い、ツルの誘引、土壌改良を行った為、樹勢の回復、開花など期待される。

## 森林ボランティア養成研修（C-58）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

大学の森林ボランティアサークルを対象とした森林整備の研修を行い高度な知識、技能を有する森林ボランティアリーダーを養成する。

山林所有者と協定を交わしたフィールドを使い現況調査から森林整備の事業計画を作成し、実際に施業しながら、林業従事者の専門知識を活用し研修を行う。

#### 2. 活動の成果

山村所有者と協定を交わしたフィールドを使い、本年度は、2年前に駒打ちした原木を使用し、ホダ場の整備を行い、また昨年引き続き水生植物の植栽した箇所や歩道等の研修場所の整備等を行った。また学生たちが先輩から継承した知識と今年度習得した事柄について、ホームページや広報誌等にて掲載し、幅広い人々に林業・森林の役割について啓発出来た。

#### 3. 考察

- ・年々整備していくことで、きれいになっていくのがわかり、森林に対する意識がより高くなった。
- ・先輩が駒打ちした原木からしいたけが生えてきたのをみて、今度は駒打ちをしてみたいと思い椎茸に興味を持った。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	10月～1月	計	備考
事業量	研修6回		
参加者数	10名	10人	
実施場所	大分市久土（NBUの森）		



## 緑と花のふれあい推進事業（A-118）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

県民に身近な緑とふれあう機会を提供し、緑の大切さを認識させるとともに、緑を愛する心を育むため、県民から公募した受講生を対象に、専門講師の指導の下、年間スケジュールに基づく「緑と花のふれあい教室」を開催し、土づくり・播種・挿し木・取り木・接ぎ木・病害虫防除等の技術・知識を習得させるとともに、受講生が実習で生産した緑化木等を広く県民に配布して、県民緑化運動推進の一助に資する。

#### 2. 活動の成果

受講者は、①緑化用苗木や花の養成技術の習得を通じて、緑への関心や理解をさらに深めることができた。②生産された緑化木を街頭やイベント等で配布することによって、緑に関する普及啓発活動や県民緑化運動の推進に寄与することができた。③「緑と花のふれあい教室」を継続的に開催することが「緑の募金」の推進につながっている。

#### 3. 参加者の声

受講者の多くが御夫婦での参加のため、出席率が高い。参加の動機は、樹木や草花への興味、緑化木養成技術の習得、ボランティア活動への興味等が主である。参加して良かったという方の意見は次のとおりである。①緑化木の種類を覚えるとともに苗木づくりの知識や技術が深まり、最新情報の交換ができる。②多くの方々と交流ができて楽しい。③家庭において緑化木管理をしている受講者からは、講義の中での質疑応答等、実践的な内容であり役立っている。④自分たちの育てた緑化木がいろいろな場所の緑化に役立っていることが嬉しい。⑤月々のボランティア活動が生き甲斐になっている等、多くの意見が寄せられた。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	令和3年4月～令和4年3月	計	備考
事業量	年間を通じて12回計画のうち7回実施 (令和3年5,8,9月,令和4年1,2月は、コロナウイルス感染拡大防止のため中止)	7回	
参加者数	受講生80名	延べ432名	
実施場所	宮崎県小林市野尻町(宮崎県緑化木養成圃場)		

## 森林浴癒しの集い事業（A-119）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

広く県民から参加者を募集し、森林セラピー基地に認定された日之影町の石垣の村トロッコ道コースにおいて、森林セラピーに関する学習や散策を行い、森林の持つ癒し効果と森林やみどりへの理解と認識を深めていただくことにより、県民参加による森林・みどりづくりを推進する「森林浴癒しの集い」を開催した。

#### 2. 活動の成果

宮崎県内にある森林セラピー基地を散策することにより、参加者が自然に親しみ、森林の持つ「癒しの効果」を五感で満喫することによって、自然の大切さや環境、森林づくりなどの理解を深めることができた。

この集いは、参加者からの評判も良く、また、日常生活では味わうことの少ない自然体験を通じて、森林の素晴らしさを広く県民に再認識していただくことのできる重要な活動であると考えられる。

#### 3. 参加者の声

- ・静かで空気も良く生き返ったような気持ちになりました。
- ・森林浴になかなか行ける機会なく、大変良い講座に参加できて感謝いたします。
- ・自然景観も素晴らしく、ガイドさんの案内、歩くスピードも適当で良かったです。
- ・ガイドさんの熱心なご説明でとても興味深い散策になった(知らないことだらけ)。
- ・草花、草の実と説明していただき良かったです。
- ・すべてが良かった。森林セラピー、食事もとても美味しかった。バスで行けるので、ゆっくり景色が見られた。
- ・高い山に囲まれて溪谷の水の流れも心地良かった。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	11月26日(金)	計	備考
事業量	森林セラピーの講義 遊歩道の散策 樹木や植物の観察		
参加者数	28名 (講師・スタッフ5名を含む)	28名	
実施場所	宮崎県西臼杵郡日之影町 (森林セラピー基地石垣の村トロッコ道コース)		

## かごしまの緑・元気な森林体験事業（A-120）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

- ・令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受け、秋期のイベント（九州森林の日植樹祭・かごしま木材まつり）は、規模を縮小しての開催となり、春期イベント（みどりの感謝祭）については、大雨の影響も重なり中止となった。
- ・県内の地区植樹祭や木材まつりについても、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、予定していた地区植樹祭は全て中止（植樹は事務局で実施）となったが、開催ができた地域の木材まつりにおいては、森林の重要性と森林を守り育てる大切さの普及に努めた。

## 2. 活動の成果

- ・昨年度に続き今年度も、新型コロナウイルス感染拡大の影響から、県や各市町村、森林管理署、林業関係団体、森林ボランティア団体との連携があまり出来ず、普及啓発イベントもほとんどが規模縮小や中止となった。次年度こそは、各方面との連携を強化し、積極的な普及啓発や情報発信に努めることとしたい。

## 3. 参加者の声

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、あらゆるイベントが中止となるなかで、「九州森林の日植樹祭」に参加協力することができて良かった。
- ・急斜面に植えるのは少し怖い気持ちもあったが、この地が立派に成林することを願い、頑張って3本植えた。参加者の力で、たくさんの苗木がどんどん一斉に植えられていく様子は圧巻だった。また、コロナが収束したあかつきには、このような活動にどんどん参加していきたいと思う。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	R 3.10月～R 4.2月	R4.4月（中止）	計	備考
事業量	・かごしま木材まつり木製品展（5300人） ・九州森林の日植樹祭（220人） ・支部植樹祭（5地区）（式典中止）	みどりの感謝祭 ※大雨のため、中止。		
参加者数	5,520人	0人	5,520人	
実施場所	鹿児島市、始良市他			

## かごしまの名木古木樹勢診断事業（B-6）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

- ・ 県や市町村、教育委員会を通じて事業要望を募ったところ、3市から、3ヶ所7本の樹勢診断要望があった。（内訳：学校2ヶ所、その他1ヶ所）
- ・ 11月16日付で日本樹木医会鹿児島支部に調査業務を委託し診断を行い、全ての調査が終了したあと、その診断結果については各申請者に通知した。
- ・ 今後の診断向上のため、同樹木医会と共催で、被害状況の把握及び保全処置の手法等について研修を4月に計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、やむなく中止とした。

## 2. 活動の成果

- ・ 保全作業については、現場担当の樹木医と地元関係者が調整を図りながら、円滑に進めることができた。

## 【いちき串木野市】（萬造寺齊生誕の地／アコウ：5本）

オオイタビカズラが繁茂し、成育障害となっている。また根際に空洞がみられたり、枯死枝が一部に見られる。

このため、オオイタビカズラを除去し、根際の空洞部は腐朽防止剤を塗布、また枯枝は除去する。

## 【薩摩川内市】（朝陽小学校跡／イチヨウ）

土壌が固結し、成長不良を起こしているとともに、樹冠の枝が多く、根際の腐朽のため幹折れの恐れがある。

このため、土壌改良による樹勢回復、腐朽部位の処理、剪定を実施。

## 【伊佐市】（羽月小学校／ムクノキ）

運動場の造成で、肥料の補給も、また転圧のため根系の伸長も皆無に近く、衰退の進行が見られる。

このため、土壌改良による根系の伸長、また肥料の供給により樹勢回復を図る。

- ・ 当初5本程度の申請があるものと想定していたが3ヶ所（7本）の要望があった。  
今後も更なるPRに努め、事業の掘り起こしに努めたい。

## 3. 参加者の声

- ・ 散歩コースにある地域の大切な木に、近年枯枝や空洞が見られるようになってきていて心配していたが、樹木医に診断していただいたと聞いて安心した。  
地域のシンボルとして、また元気に育ってほしい。
- ・ 学校で昔から大切に受け継がれてきたシンボルツリーが、どんどん衰弱していくので心配していたが、原因と処置法が分かりほっとした。  
今後も大切に管理していきたい。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	R3年11月～12月	R4年4月	計	備考
事業量	・ 樹勢診断3ヶ所7本 ・ 樹勢診断書作成7件	・ 樹勢診断にかかる現地研修会 (新型コロナのため中止)		
参加者数	1団体 (日本樹木医会鹿児島支部)	-	1団体	
実施場所	樹勢診断：いちき串木野市、薩摩川内市、伊佐市 / 研修会：中止			

## 活力のある緑の少年団活動促進事業（C-59）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

- ・緑を守り育てる活動を通じて、豊かな心を育成するため、県内で49団の緑の少年団が育成会や森林ボランティアの方々の指導のもと活動している。
- ・活動の活性化を図るため、例年緑の少年団活動発表大会を開催していたが、新型コロナ感染拡大防止のため、発表会は中止となった。
- ・各地域単位で開催されていた4地区の交流集會も、新型コロナ感染拡大の影響を受けて、1地区だけの開催となった。なお、4月に縮小開催予定であった全体の交流集會は、大雨による荒天のため、中止となった。

#### 2. 活動の成果

- ・例年開催している活動発表大会や緑化イベントを通じて、団相互の親睦が図られるとともに、情報が共有され、活動内容も多岐にわたってきていたが、新型コロナ感染拡大により諸活動が制限され、影響が出ている。
- ・近年は、児童数の減少により小・中学校の統廃合が進み、緑の少年団数も減少傾向であるが、緑化活動を通じた情操教育は、郷土や自然を慈しむ心を育てるとともに自然界における人間の役割を理解させる大切な環境教育である。
- ・新型コロナの感染状況が収束するまでは、何かと制限も多くあるが、関係団体と連携を図りながら、側面から支援を継続していきたい。

#### 3. 参加者の声

- ・夏休み期間中に開催される地域の交流集會では、様々な森林体験や森林学習があり、楽しみながら多くのことを学べた。他の少年団とも交流でき、新しい友達も出来て嬉しかった。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	R3.11月	R4.1月	R4.4月（中止）	計	備考
事業量	九州森林の日 植樹体験	地区交流集會 (1地区)	全県交流集會 ※雨のため中止		
参加者数	220人	42人	0人	262人	
実施場所	始良市 (県民の森)	和泊町			

## 森林ボランティア活動促進事業（C-60）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

- ・一般公募による森林インストラクター養成講座（かごしま森林の学校）を開催し、新規育成に努めたほか、森林ボランティア活動の定着を図るため、実践活動や研修会を実施し、相互交流とスキルアップを図った。
- ・また、県森林ボランティア連絡会加盟団体23団体の自主活動を促進するため、年間活動費を助成し、組織の活性化を支援するなど、県民総参加による森林づくりの気運を醸成した。

#### 2. 活動の成果

- ・森林インストラクター養成講座（かごしま森林の学校）は、地元鹿児島大学等から外部講師を招き、計7回の講座を実施、10人に修了証を交付した。
- ・森林ボランティア団体のリーダーを対象とした研修会（安全な作業機械の取扱研修・現地研修は今回中止）への参加も定着してきており、四半期毎に開催する森林ボランティア連絡会議と相まって（※今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、年3回実施）、情報共有および相互交流が促進され、資質の向上が図られた。
- ・また、団体運営の年間活動費の助成により、森林ボランティア団体の自主活動が促進され、公募事業などに積極的に取り組む団体も増加した。

#### 3. 参加者の声

- ・これまで自分の知識に無かったものを教わったり体験することで、大変勉強になった。疑問点が腑に落ちたものになると納得できるし、知識が自分のものになると、第三者にも自信を持って教えることができる。
- ・机上の講話だけでなく、現場での実践もあり、良い体験をさせていただいた。
- ・山づくりの基本の講話とその実践で、森林を造っていくことの苦勞を知り、こうした努力の積み重ねが、豊かな森林を守り育てていくのだと身をもって感じる事ができた。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	R3年7月～R4年5月	R3.10月20日	R3.11月20日	計	備考
事業量	森林インストラクター 養成講座 7回 修了者 10人	志布志海辺の森づくり 実践活動	森林ボランティアリーダー研修 (安全な作業機械の取扱)		
参加者数	81人	25人	27人	133人	
実施場所	県内各地	志布志市	始良市		

## 令和3年度 緑の育樹祭開催事業（A-121）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

事業実施日 令和4年2月9日（水）  
 主 催 公益社団法人沖縄県緑化推進委員会、恩納村  
 大会テーマ 「広げよう 豊かな緑と 美しい海を」

森林が地球温暖化防止に重要な役割を果たしている事について、理解を深め県民参加の森づくりを進めるため育樹祭を開催した。  
 なお、新型コロナウイルス感染症の再拡大をうけ、式典を中止し関係者による植樹・育樹作業を実施。

#### 2. 活動の成果

潤いと安らぎのある緑豊かな美ら島に育てるには多くの人手と時間が必要であることに理解を深め、保育の重要性を認識し実践した。

沖縄科学技術大学院大学（OIST）は、国内外から多くの研究者が集まり、世界レベルの研究拠点の形成を推進している場所である。本育樹祭により、構内緑化がますます整備され世界から注目される研究拠点となり、緑溢れる学びの場となることが期待できる。

#### 3. 参加者の声

今後、適切に保育作業をすることによりさらに緑豊かな学びの場としていきたい。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	令和4年2月9日	計	備考
事業量	緑の育樹祭の開催		
参加者数	22人	22人	
実施場所	沖縄県恩納村		

## 学校環境特別事業（A-122）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

学校を中心とした緑化活動は、次世代を担う児童生徒の緑化に対する意欲の高揚など、極めて重要な意義を持つ。復帰50周年を記念し学校緑化に対する気運の醸成と定着化を図ることを目的に本島地区で3校を選定し植樹事業を実施した。

北部地区：今帰仁村立兼次小学校  
 中部地区：うるま市立天願小学校  
 南部地区：那覇市立壺屋小学校

#### 2. 活動の成果

学校環境の緑化を通じて環境教育を推進するため、学校の特色を生かしたサクラや草花の植栽など学校緑化事業を実施した。また、児童生徒が自ら植樹作業を実践することにより植樹・保育の重要性を認識し緑化への関心を高めることができた。

#### 3. 参加者の声

植えた樹木を大事に育て学校の緑を大切に守り育て緑いっぱいの学校にしていきたい。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	令和4年5月	計	備考
事業量	学校環境特別事業3校		
参加者数			
実施場所	沖縄県今帰仁村、うるま市、那覇市		



令和 2 年度 ・  
事業期間延長分

## 森林公園観察会（A-10）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

札幌市近郊の一般市民を対象に参加者を募集し、札幌テレビ塔下から借上げバスで「野幌森林公園観察会」と題して野幌森林公園カラマツコース及び樹木園において一般市民26名、当会ガイド11名、計37名で観察会を開催した。なお、参加者に対しては観察ポイントの樹木の特徴、森林の沿革を事前に調査し、これに基づいた資料を配布して実行した。

#### 2. 活動の成果

今回の観察会を通して一般市民に対して森林林業の重要性、自然のたくましさ、美しさ、多様性について関心を持っていただけたのではないかと考えている。

#### 3. 参加者の声

- コロナ禍の中で自然にふれる機会がなかった中での観察会の開催は嬉しかった。
- 原の池付近の樹齢100年の樹高35mのドイツウヒの人工林に感銘を受けた。
- 野幌樹木園の100年以上経った多種多様の人工林は素晴らしく特に一本のトチノキが残した小中径木（天然更新）の林に感銘を受けた。
- 配布された資料は、分かりやすくとても良く出来ている。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	9月26日	10月2日	計
事業量	植物調査	自然観察会	
参加者数	11名	37名	48名
実施場所	・野幌森林公園・野幌樹木園（江別市）		

## 持続発展教育（ESD）に向けた木育の取組（A-13）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

コロナ禍においては従来の形式での事業実施が難しいことから、コロナ禍でも対応可能なプログラムを意識しながら開発・実施を行った。今回の活動では、①木製知育玩具を用いたオンラインによる木育プログラムの開発・実施、②屋外での新たなイベント創出と自然物を使ったクラフトを楽しむプログラムの開発・実施をした。①については、オンラインでの指導により木育玩具「森のピタゴラス」を用いて、この玩具についての理解を実践しながら学ぶこと、②については、参加者がクイズやゲームをしながら森の中を散策し、森の良さを知ってもらい、さらに心地よい環境下で主体的に木工等のクラフトを楽しんでもらった。

#### 2. 活動の成果

- ① 日高高校におけるオンラインによる木育授業  
これまで森に関わる授業を行ってきたが、生徒には反応が鈍く、ピンと来ていない状態だったが、今回は木製知育玩具を用いたオンラインによる木育の授業を行ったが、オンラインでも生徒の反応は良く、玩具の意味の理解や協同で作業しながら玩具を完成させたことは、今後このプログラムが活用できると感じました。
- ② 屋外での新たな木育イベントの創出  
これまでは屋外ではゲームなどをしながらの森林散策、クラフトは屋内というのがもっぱらでしたが、今回はコロナ禍ということからクラフトを屋外で楽しむことを前提に、まずは森林内でゲームなどを行い、その後にクラフトを楽しんでもらう方法で実施した。結果は森林散策を行った余韻を残したままクラフトへ移行し閉塞感なく実施出来たことから、森の中での環境下は有効的と感じ、2021年に2回、2022年に1回、このプログラムで実施している。

#### 3. 参加者の声

- ① オンラインによることから生徒が主体的に行動でき、この玩具の意味などがすんなりと理解でき、生徒の満足度が高いという認識を得ました。
- ② コロナ禍では屋内イベントでは制約が多くなるためクラフト体験も楽しい気持ちが伺いづらいますが、参加者は皆楽しく散策し、クラフトも開放的に出来る環境下では楽しさが増していたようで、最後は元気いっぱい林内を走り回る子供も現れ、森林の効果を感じました。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	5月31日	6月7日	6月27日	計
事業量	プログラム・開発	プログラム・開発	木育・イベント	
参加者数	2名	21名	6名	29名
実施場所	北海道日高高校	真駒内桜山		



## 身近な森林再発見（A-16）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

厚真環境保全林をはじめとする町内山林でのフィールド整備や自然散策会などを通じて、近隣の住民が気軽に森林に親しむことのできる入り口をつくり、ひいては自然環境や林業への興味関心を生む取り組みを行うことを目的として下記事業を行う。

- ① 厚真町環境保全林における散策会を行う。厚真町内森林への植物や昆虫に対する解説を交えながら森林を散策し、森林に対する理解を深めた。
- ② グリーンウッドワークについてのワークショップを4回主催し、厚真町の森林で伐倒した木からスプーンや木べら等の身近な生活に使えるものを製作した。
- ③ 厚真町内の小学生及び幼児に対して木育体験の一環として自然体験教育授業を行った。森林の中でのレクリエーションや、森林から材料を採取した工作等の授業を行う。

## 2. 活動の成果

弊会が主な活動を行う北海道厚真町では森林町面積の多くを占める立地にありながら、近年では平成30年北海道胆振東部地震で大規模な山林土砂災害が発生するなど、一般町民が森林を身近に感じる機会がより少なくなってしまうと考えられる。

そのような中で、上記のような活動を通じて楽しみながら森林環境や木材に触れる機会を設けることができた。特に子どもが参加する事業を多く行ったことで、将来的に少しでも木に親しむことができるような教育に貢献することができたのではないだろうか。

## 3. 参加者の声

- ① 「先生が葉っぱを見てなんの木かすぐにわかることにびっくりした。私も今日覚えた木の名前を忘れないようにして、今度はもっとたくさん覚えたい。」（10代参加者）
- ② 「乾いていない木は案外簡単に削れることに驚いた。開催時間の中では完璧には完成しなかったのですが、ヤスリをかける作業は家に持って帰って行うが、今から完成が楽しみ。長く使えるものが出来そうで満足している。」（30代参加者）
- ③ 「まつぼっくりやどんぐりをたくさん拾って楽しかった。自分で木に釘を初めて打って、難しかったけどおもしろかった。」（10代参加者）

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	2020年9月30日	2020年10月31日～11月1日	2021年9月29日	2021年11月11日～11月12日	2021年5月14日～15日	計
事業量	自然散策会	グリーンウッドワークワークショップ	厚真町立中央小学校自然体験授業	厚真町立上厚真小学校自然体験授業	グリーンウッドワークワークショップ	
参加者数	19名	16名	21名	26名	22名	104名
実施場所	厚真町山林	厚真町山林	厚真町山林	厚真町山林	厚真町山林/町会館	

## 里山保全の担い手づくり普及促進事業（A-17）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

北海道内において手入れのされていない放置林の整備人材の育成のため研修事業を企画。白老町内の広葉樹林において作業道と広葉樹間伐等の森林施業技術向上に資する研修会を実施。研修内容はチェーンソーワーク、選木、間伐、搬出、作業道敷設、ホダ木生産である。

## 2. 活動の成果

チェーンソーワーク研修ではエンジンの始動から伐倒までの一連の動作や安全管理について周知する事ができた。選木、間伐、搬出では、広葉樹林の目標林形をイメージする事ができた。作業道敷設では災害に強い大橋式作業道を取り入れ、小規模高密度路網の優位性を広く伝える事ができた。ホダ木生産研修では、従来の皆伐による生産のみならず、広葉樹林の間伐からホダ木を生産する手段を教える事もできた。

## 3. 参加者の声

- ・正しいチェーンソーの取り扱いが学べた。
- ・広葉樹間伐の奥深さを知ることができた。
- ・山を壊さない道づくりが学べた。
- ・林業仲間が出来た。仲間の整備活動にも参加したい。
- ・間伐の際の選木基準がわかり参考になった。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	6/18～19	7/2～7/3	7/23～24	8/27～28	11/12～13	計
事業量	チェーンソーワーク	選木、間伐、搬出	作業道研修①	作業道研修②	ホダ木生産研修	
参加者数	16名	15名	13名	13名	12名	69名
実施場所	白老町石山110-2	白老町石山112-15	白老町石山112-15	白老町石山112-15	白老町石山210	

## 緑の探検隊自然探勝会「市民参加による協働の森づくり事業」普及啓発事業（A-22）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

旭川市の一般市民を対象に、旭川市旭山公園内にある「旭山三浦庭園」、同じく旭川市の「上野ファーム」、当麻町の施設「くるみなの木遊館」において自然探勝会を実施した。

この自然探勝会の主たる内容は、旭川市内に存在する、ほどよく人の手加えられた森林内の散策路を歩きながら樹木や草本類の観察を実施するものである。

加えて当麻町内に6年前新設された施設「くるみなの木遊館」、「くるみなの庭」「くるみなの森」では、町の林業振興への取り組みを学ぶとともに、産出される木材を町民の生活向上に上手に活用している事例を見学。これにより森林に備わる機能とその素晴らしさについて普及啓発することを目的としている。

なお、観察会の開催に当たっては、観察ポイントの植生状況及び森林の沿革を事前に調査し、これに基づいて作成した資料を作成。参加者全員に配布して自然観察会を実施した。

#### 2. 活動の成果

今回の旭川市東部、当麻町をフィールドにした自然探勝会を通じて、一般市民に対する森林・林業の重要性についての普及啓発の一翼を担ったものと思う。

今後も、更に多くの市民に森林の豊かさと、森林維持に関わる人々の活動のようすを知ってもらうために、今回のような森林・林業の普及啓発活動を展開していきたいと考えている。

#### 3. 参加者の声

今回の参加者は、緑の探検隊の事業に以前も参加したことがある人が多かったが、会員の親族で初めて参加した人からは、「以前も行ったことがある場所だが、改めてその歴史的経緯や現状、生命力豊かな森の様子を学ぶことができ、有意義な時間を過ごせた」（アンケートより）との回答を得ている。ほかの参加者からも「新たな発見があった」「今後も森を訪ねる機会を増やしたい」との声が寄せられている。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	令和4年6月26日	計
事業量	自然探勝会	
参加者数	32名	32名
実施場所	旭川市東部、当麻町	

## 森林を活用した青少年育成対策事業（A-26）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

「げんきの森」を活用し町内の子どもたちへの森林体験活動の機会提供に取り組む。

##### (1) ツリーイング

ツリーイング体験を通じて木と直接触れあい、木と人の関わりなどの学習を行う。

##### (2) 林業体験学習（ヤキイモ作り・枝打ち・ネイチャーゲーム）

森を育む心と森林の機能や役割について学習するとともに、地球温暖化防止に森林・林業が果たす役割の理解を深めるため枝打ちを実施する。

#### 2. 活動の成果

##### (1) ツリーイング

普段体験しない高さから森林を観察し、森林を構成する樹種の違いなどを認識する機会を設けることができた。

##### (2) 林業体験学習

アカエゾマツ人工林における枝打ちの体験を通して人工林を育成する過程を学ぶことができた。また、ネイチャーゲームを通じ、樹木への興味や関心を高める場を提供することができた。(1)(2)を通して、子どもたちは森林での活動の楽しさや森林の大切さを感じることができ、森林・林業への理解も深まった。

#### 3. 参加者の声

##### (1) ツリーイング

最初は戸惑いを見せる児童も見られたが、徐々にコツをつかみクライミングを楽しむようになった。空中にいる感覚や普段見られない樹の上から見る景色に歓声が上がった。

##### (2) 林業体験学習

ヤキイモ作りでは、落ち葉を夢中になって被せ、できあがった焼き芋はおいしそうに食べていた。枝打ちは、子どもたちは集中して楽しく取り組んでいた。ネイチャーゲームでは、いろいろなところに目を向けるなど、木や森に興味を持って活動していた。子どもたちは心もおなかも満たされ笑顔で帰っていった。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	R3.10.23	R4.5.8	計
事業量	林業体験学習	ツリーイング体験	
参加者数	10名	7名	17名
実施場所	津別「げんきの森」（津別21世紀の森）等		

## 森林及び木製遊具体験事業（A-27）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

森林を散策することで、森林の役割・大切さを知ってもらい、参加者の木への関心を高めるとともに、木製遊具を外で遊ぶ体験をしてもらうことにより、木材の利用拡大を身近なところから推進していく。

- ・森林散策（森林のお話と森の端材集め）
- ・育樹活動
- ・木工体験事業
- ・木製バットバットゴルフ
- ・サクランボ狩り

#### 2. 活動の成果

日時 令和3年7月11日（日）美幌みどりの村・美幌町

参加人数 18名、森林散策、森林の説明、クイズ等を行い森の仕組みを理解することができた。また、専門家からの育樹体験を行い樹木の役割を理解することができた。地域材で製作した「木製バットバットゴルフ」により木材の利用拡大を理解することができた。小物入れ体験も行い木工体験もできた。最後にサクランボ狩りを行った。

#### 3. 参加者の声

とても楽しく森の仕組みがわかることができた。

バットバットゴルフが面白かった。さくらんぼが美味しかった

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	7月11日	計
事業量		
参加者数	18人（親子）	18人（親子）
実施場所	美幌町	

## 緑化団体ネットワーク推進事業（A-30）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

オホーツクの「みどり」を次代に引き継ぐため、オホーツク地域の各緑化団体等の取り組みの輪を広げ、みどりに親しみ、みどりをまもり、みどりをつくるための活動を促進することを目的とする。

- 内容：（1）団体等相互の交流と情報交換  
 （2）緑化活動の活性化  
 （3）緑化推進によるみどりづくり

#### 2. 活動の成果

団体間で情報交換することにより、相互の交流や理解が深まった。また、各事業を実施することにより、構成緑化団体はもとより「みどり検定」を通じて地域住民のみどりに対する関心が深まった。

今後もさらにみどりの輪を広げる活動を継続する。

#### 3. 参加者の声

みどり検定にはじめて挑戦、オホーツク管内には、こんなに自然の見どころがあるとわかっただけでなく、樹木や草花の名前や特徴を楽しく学ぶことができ、みどりに対する興味が深まった。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	R2.7.26 R2.8.2	R2.8.10	R3.4.23 R4.1.31	R3.5.25	計
事業量	オホーツクみどり検定 （事前勉強会）	オホーツクみどり検定	みどりネットワーク 理事会 （2回）	全体会議 （書面開催）	
参加者数	延べ16人	10人	延べ24人	14団体30行政機関	50名
実施場所	網走市	網走市	北見市		

## 北海道木育フェスタ推進事業（A-33）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

「北海道木育フェスタ」は、広く道民や企業・団体に、森づくりや木づかいへの参加・協力を呼びかけ、道民全体の力で未来につながる豊かな北海道を築きあげていく取組で、関係市町村と連携しながら、植樹祭や森づくりの集いなどを開催している。

令和2年11月には、「森林の研究・技術講座」として、減少している自生ハスカップの移植技術を学ぶ研修会を実施したほか、広報誌「みどりのGift」を発行し、普及啓発に努めたが、令和3年春期に開催予定の「開会式&募金出発式」や「北海道植樹祭」は、コロナ禍により中止となったことから、事業期間の延長をさせていただき、新たに設立された緑の少年団の活動支援などを行い、木育の普及啓発を実施した。

## 2. 活動の成果

## 1. 「森林の研究・技術講座」研修会

減少している自生ハスカップの移植技術や管理方法について、実践を交えて研修を行ったことにより、参加者の技能向上につながるのと同時に、自生種の保存意識の向上につながった。

## 2. 福岡県緑の少年団交流集会

R3に全国育樹祭を開催する北海道緑の少年団の代表である「ながめま緑の少年団」の取組を福岡県の緑の少年団に紹介し、交流が図られた。

## 3. 「上札内緑の少年団事業」

R3.5に結成された「上札内緑の少年団」の活動支援を行ったことにより、子ども達が樹木に興味を持つきっかけ作りと、自然環境保全の意識向上が図られた。

## 4. 広報誌「みどりのGift」の発行・配布

道内の緑化活動団体等を紹介した広報誌「みどりのGift」を作成して関係機関・団体等へ配布し、「緑の募金」や森林環境保全の普及・啓発を行った。

## 3. 参加者の声

- ・「森林の研究・技術講座」研修会の受講者は、ハスカップ移植の実践を行ったことにより、注意点等が良く理解できた。
- ・福岡県緑の少年団交流集会では、残念ながら北海道の子ども達は夏休みが終了しておりビデオ参加となったが、団長等の指導者が参加して、種から育てた苗木を植える特徴的な取組を説明し、福岡県の子ども達に関心を持っていただいた。
- ・「上札内緑の少年団事業」に参加した子ども達は、「初めての自然観察に取り組み、いろいろな植物や生き物が生活していることが判り、自然を大切にしようと思った。」「学校の周りの木を調べて樹名板を付けたことで、木に親しみを持つようになった。」「山村留学生として北海道に来て、自然にふれあう体験ができてよかった。」などの感想が聞かれた。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	R2.11.19～20	R3.5.8	R3.5.29	R3.8.19	R3.5.8～R4.5.20	計
事業量	木育フェスタ「森林の研究・技術講座」研修会	木育フェスタ2021開会式&緑の募金出発式	木育フェスタ2021北海道植樹祭	福岡県緑の少年団交流集会(オンライン開催)	木育フェスタ上札内緑の少年団事業	
参加者数	78名	中止	中止	97名	284名	459名
実施場所	苫小牧市	札幌市道庁赤れんが庁舎前庭	当別町道民の森	札幌市(オンライン開催)	帯広市中札内村鹿追町	

## 清流と魚を守る森林（もり）づくり造成事業（C-2）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

市有地「魚つき林」を再生し、森林整備を継続的に推進することを目的に、広葉樹等を植栽し当該植栽木の保有（根踏・下草刈）を実施する。

## 2. 活動の成果

上記概要にて実施予定であったが、コロナ禍もあり植栽することが出来なかった。植栽予定をしていた苗木は、仮植したままの状況にあるが、実施予定地はエゾシカの被害が多く、過去に植栽した苗木も被害にあっているため、今後害獣被害対策が必要であり、ハイトシェルターを購入し、コロナ禍が落ち着いたころ設置する予定とである。

## 3. 参加者の声

今後、コロナ禍が終息した後、ハイトシェルターを苗木に設置することにより、その苗木が鹿の被害対策に有効であることを望んでいる。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	R4.06	計
事業量	ハイトシェルターの購入(50セット)	
参加者数		
実施場所		

## 未来に向かって日高の森林づくり事業（C-12）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

- 地元の森林をフィールドとした体験林業（森林再生を図るための造林地の下草刈りや植樹・枝打ちなどの森林整備）を通じ、森林浴を満喫して、会員相互の親交を深める活動とする。
- 目的である活動が、今年度当初から新型コロナウイルスの感染拡大により、国からの非常事態宣言が発表され、事業はことごとく中止や延期せざるを得ない状態で一年を終えました。

#### 2. 活動の成果

森林・林業に関する理解理解に増進することができ、身近な自然に親しみ、森林づくりを楽しみながら、国土緑化事業や地域活性化に貢献したいと、前年までできておりました事業、更には令和3年度においても、新型コロナウイルス感染症拡大により事業への準備を進めるが出来ない状態となり、残念ながら成果は得られない状況となりました。

#### 3. 参加者の声

「親睦を第一に、決して無理をせず」をモットーに、身の丈に応じた活動を目指しておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大により感染防止のための事業中止や延期を伝えたと、何分にも高齢者ばかりなので残念であるが仕方ない、次年度に向けて頑張りたいとのことであった。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	7月14日 9月8日	10月13日	5月18日	6月15日	計
事業量	国有林	国有林1ha	国有林1.2ha	国有林1.2ha	
参加者数	9人	8人	6人	6人	29名
実施場所	中止	新ひだか町	新ひだか町	新ひだか町	

岩手県緑化推進委員会

## 木工・クラフト体験（A-38）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

- ・「宮古市産業まつり」に参加し、市産材を用いた木工・クラフト体験を行うことにより、木材の良さをPRする。加えて、それを育む森林の効用と、宮古市の森林の素晴らしさをPRしつつ、市産材の需要拡大を図ることにより、宮古市内の森林整備の促進を図る。

#### 2. 活動の成果

- ・令和3年秋に予定していた「宮古市産業まつり」での、木工・クラフト体験は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったため、令和4年度の「宮古市産業まつり」での、木工・クラフト体験に向けて必要資材を購入したもの。宮古市の中心地に近く、多くの市民が集まる会場で行うイベントにおいて、市産材及び宮古市の森林の役割をPRすることにより市産材の需要拡大が図られ、かつそれに伴い森林の整備が促進されるもの。

#### 3. 参加者の声

- ・昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により令和4年度「宮古市産業まつり」開催が秋季に延期となったため、なし。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	～2022/6/30	計	備考
事業量	木工・クラフト体験材料の購入		
参加者数			
実施場所	岩手県宮古市地内		

## 都市と農村の交流事業（第33回ふくしま緑の百景歩こう会）（C-27）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

緑あふれるコースを歩き、自然と緑の大切さを再認識し、環境保全に対する意識の高揚を目的に、参加者の健康増進と開催自治体の活性化を図るために毎年開催。今年は富岡町で実施した。

東日本大震災で大きな被害に見舞われた富岡町のふくしま緑の百景に選定されている「夜の森のさくら」を中心とした大会コースで、昨年に引き続き、今年も新型コロナウイルスの感染防止のため、参加者を福島県在住の方のみに限定しての開催とした。

コースは、福島県富岡町の緑豊かな海岸線や桜並木を歩く特設コース。豊かな自然と海岸線、桜並木を愛でながら自然と共にウォーキングコースを楽しんだ。

今回開催した富岡町では、ふくしま緑の百景に選定されている景勝地「夜の森公園」をはじめ、東日本大震災からの復興と開催地を歩くことで、緑の大切さを学び、海岸線に伸びる防災林などを見て、森林による防災の大切さも学んでいた。

緑豊かな景勝地、海岸線、遊歩道、森林浴が楽しめる町並みに加え、町内にいくつかある大切な緑を守り育てる公園など、常日頃から町民の皆様に親しまれており、県内各地からの参加者や町民の方々にも大会のポスター、チラシなどで緑化推進啓蒙活動を行った。

#### 2. 活動の成果

「ふくしま緑の百景」の選定地、「夜の森公園」を中心に、富岡町の街並みや震災からの復興、緑あふれる道並み、防災林、町内の緑豊かな「自然」、新たにじまったワイン葡萄栽培、緑の丘のふもとにある「富岡漁港」、歴史ある建造物、震災の記憶を残す施設「富岡アーカイブ・ミュージアム」の見学、併せて、参加者の健康づくりとふくしま緑の百景の景勝地を歩くことで自然と緑の大切さを学んでいた。

富岡町は、2011年3月11日に発生した東日本大震災で大きな被害を受け、今なお復興に向けて町民が一丸となって活動を続けている。町内に帰還困難地域が残る富岡町ですが、今回のふくしま緑の百景歩こう会を通じ、防災林だけでなく、桜並木や緑を愛で、町民の方々の町内に緑を増やす様々な活動に触れることができた。

#### 3. 参加者の声

- ①東日本大震災で被害を受けた海岸線の復旧状況がわかった。
- ②防災林や町内の緑など、緑の大切さを学んだ。
- ③緑豊かなコースで海岸線を一望できる丘や緑あふれるコースを家族でウォーキングできた。
- ④コース上の歴史的建造物や町内も歩くことができた。
- ⑤富岡ワインぶどう栽培クラブの展望台から見える海の景色がキレイだった。
- ⑥来年も是非、ふくしま緑の百景歩こう会に参加したい。
- ⑦福島県の海岸線と多目的スポーツ公園に広がる各種競技場を中心とした総合運動公園の自然と緑がよかった。

#### 実績報告とりまとめ表

実施時期	令和3年10月31日	備考
事業名	第33回ふくしま緑の百景歩こう会	
参加者数	約400人	
実施場所	福島県富岡町	

群馬県緑化推進委員会

## 群馬県植樹祭開催（A-54）

### 事業の概要

#### 1. 活動の概要

多くの県民参加のもと、緑化思想の普及・啓蒙を図るため、令和3年5月に群馬県、渋川市及び林係団体等の共催で、「第74回群馬県植樹祭」を渋川市で開催予定であったが、新型コロナウイルス感染防止のため延期となり、再度10月30日（土）に開催準備を進めていたが、感染拡大は止まらず、急遽Web動画開催に変更となった。

動画発信では、地元緑の少年団2名による緑のメッセージ及び群馬県知事、渋川市長による記念植樹が行われ、緑づくりと森林を守り・育み・活かすことの大切さを発信した。

式典で知事から表彰予定であった県緑化功労者と県緑化運動標語、ポスター原画採用者に対する表彰状は各受賞者に伝達した。

#### 2. 活動の成果

- ・伝達式は、県内マスコミ各社から取材を受け、地元新聞、テレビなどで紹介され、緑化活動の重要性を広報することが出来た。
- ・群馬県植樹祭は、緑豊かな住みよい郷土を作るために行っている郷土緑化運動の中心的行事であり、参加者による記念植樹を通じて、県民の森林に対する愛情と理解を培うことを目的に毎年開催されている。伝統行事ではあるが、開催地選定や規模の縮小など効率的な方法を検討していきたいと考えている。

#### 3. 参加者の声

- ・YouTube動画発信で12件の高く評価されたがついた。

#### 実績報告とりまとめ表

実施時期	10月30日	12月	備考
事業量	第74回群馬県植樹祭	緑化功労者等表彰状伝達	
参加者数	動画視聴回数 802人	20人	
実施場所	群馬県渋川市赤城町上野「赤城総合運動自然公園」	各学校、市役所ほか	

## 「木育」活動促進事業（A-55-1）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

戦後の緑化運動により築かれた豊かな森林を守り、育てるため、将来を担う子どもたちに森林の大切さや木材利用の有用性を普及啓発するため、群馬県が養成した木育インストラクターが所属するこども園や、すでに地域材を利用した木造園舎で「木育」活動に取り組んでいるこども園等に対して「木育」教材を提供し、「木育」活動を促進する。

## 2. 活動の成果

利根沼田森林組合の協力を得て、「木で作る」「木で遊ぶ」をテーマとした「木育」セットを提供し、「木育」活動をととして子どもたちに木材の良さを体感してもらうとともに、保護者にも木材利用を普及啓発した。

- ①沼田市ひだまり保育園（木育インストラクター）【園児数78人】
- ②桐生市らららこども園（木育インストラクター）【園児数55人】
- ③伊勢崎市すみれこども園（木育インストラクター）【園児数121人】
- ④川場村かわば森のこども園（木造園舎）【園児数101人】
- ⑤みなかみ町月夜野こども園（木造園舎）【221人】

## 3. 参加者の声

- ・子どもたちの喜ぶ顔が目につく。（保育士）
- ・大変ありがたい事業で「木育」を実践したい。（園長）
- ・木の良さが本当によくわかる。（保護者）

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	6月27日ほか	計	備考
事業量	木育セット 10セット		
参加人数	576人	576人	
実施場所	月夜野464番地ほか		

長野県緑の基金

## 緑・森林の感謝祭等開催事業及び児童啓発事業（A-78）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

緑豊かな住み良い郷土づくりを進めるため、森林の重要性等について県民の一層の理解と関心を深めるべく、県内各地区での植・育樹祭、講演会、緑化推進等を実施するとともに、地元林業関係への就業につながるよう高校生向けの体験学習を行った。

また、青少年の森林環境教育を促進するため、郷土の森林と川を題材にした絵本の制作に向け現地を取材調査したほか、みどりの少年団の指導者を対象にしたスキルアップ研修会を開催した。

## 2. 活動の成果

コロナ禍で当初企画した催しの中止を余儀なくされる中、事業規模の縮小や他事業への変更等により創意工夫して事業を実施し、さらなる健全な森林づくりの機運が高まるとともに、緑豊かな住み良い郷土づくりの推進が図れた。

姫川流域を舞台とした森林と川の絵本の制作に向け、絵本作家とともに現地の取材・調査を重ね、制作に必要な情報収集を行った。令和4年度中の発刊を目指す。幼児・児童の森林環境教育をさらに促進するため、県内全小学校・特別支援学校への寄贈を予定している。

## 3. 参加者の声

みどりの少年団指導者スキルアップ研修会は、コロナ感染症予防対策を講じた上で開催したが、参加者を少人数にしほり、屋外の高原でグループ討議を行うなど、コロナ禍での野外活動をどのように行うかの実践的研修にもなったとの声をいただいた。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	令和2年7月1日～令和4年2月28日	計
事業量	植・育樹祭等の開催 :4地区（4町村） 講演会等の開催 :3地区（3市） 環境緑化 :1地区（2市町） 環境教育 :2地区（7市町村、49箇所） 緑化木の頒布 :3地区（13市村） 絵本制作の取材調査 :1地区（5市町村） 少年団指導者研修会 :1地区（1市）	77箇所
参加者数		2,092人
実施場所	松本市、上田市など延35市町村	

## みどりの啓蒙推進事業（A-80）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

## ○「ぎふ木育WEEK2020」

8月の「ぎふの山に親しむ月間」における木の国・山の国県民運動の行事を「ぎふ木育WEEK」と位置づけ、森林を守り育てていくことや木を使うことの大切さについて県民一人ひとりが考え、楽しむ「ぎふ木育WEEK2020」を関係団体と共催した。

なお、今回は、新型コロナウイルス感染症対策のため、パネル展示、販売など、展示を中心にして開催するとともに、岐阜新聞にも広告を掲載した。

## ○「ぎふの木フェスタ2020」

子どもから大人まで多くの県民が木に親しむことを目的に、木の良さや木を使うことの大切さを普及啓発するため、関係団体と共催する「ぎふの木フェスタ2020」を計画したが、新型コロナウイルスの影響により中止した。

## 2. 活動の成果

豊かな自然を背景に、森と木からの学びである「ぎふ木育」を通じて、森や木に親しむ機会を幅広く紹介し、木のおもちゃなどを展示したことにより、木の良さを実感し、木を使うことの大切さや森林づくりの大切さに対する県民の理解が深まった。

また、令和2年7月に開館した「ぎふ木遊館」や「森林総合教育センター（モリノス）」の利用を核に、木育並びに森林環境教育の促進に繋げていきたい。

## 3. 参加者の声

- ・木のおもちゃは、非常に工夫されおり、赤ちゃんや子どもの興味をひくものだ。
- ・木の手触りやぬくもりが感じられるとともに、安全にも配慮されていると思った。
- ・ぎふ木遊館の利用を楽しみにしている。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	8月2日～10日		計	備考
事業量	ぎふ木育WEEK 2020の開催	ぎふの木フェスタ 2020の開催 (中止)		新型コロナウイルス 感染症対策に配慮した。
参加者数	440人	0人	440人	
実施場所	岐阜市JR岐阜駅アクティブG			

## 京都モデルフォレスト運動連携強化事業（A-91）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

モデルフォレスト運動における多くの「人とのつながり」「地域、企業、団体」をさらに強め、活かし、広げることによる運動のさらなる発展を目指して、運動のPRを行った。また、次世代を担う青少年や親子、一般府民、企業の森林づくり担当者ら森林づくりリーダー等を対象とした体験講座等を開催した。また、国際モデルフォレストネットワーク加盟団体としてのネットワークを活かし、取り組みについての情報発信を行った。

## 2. 活動の成果

新型コロナウイルス感染症の影響でフィールドでの活動が大幅に制約された中であったが、感染予防に配慮した事業実施について森林づくり活動に参画中の企業担当者と実践的な情報共有や意見交換することができ、担当者間の連携強化につながった。また未来を担う子どもたちや保護者を対象とした事業規模を縮小して又はオンラインツールを活用して実施し、森林の持続可能性の重要性を認識いただいた。

## 3. 参加者の声

- ・子どもたちが自然に興味を持ってきて、大変良かった。
- ・普段見慣れた森も見方を変えるといろいろな楽しさがあることを知った。
- ・いろいろな木の名前を教えてもらった。森の中を歩いて楽しかった。
- ・竹林整備の大変さを知った。竹細工も楽しかった。
- ・オンライン授業は初めてだったので緊張したけど、森が災害から守ってくれる役割をしていることがよくわかった。
- ・完成した時計は、木のいい香りが残っており、子どもは「まるで森の中にいるようやなあ。」と言っていました。
- ・森林は災害防止に役立っており、そのメカニズムを学べて勉強になった。

## 実績報告とりまとめ表

事業量	企業参加の 森林づくり支援		親子向け 里山講座	竹林整備 ボランティア 体験講座	次世代向け環境育事業			
	交流会	植樹			オンライン森の教室			少年団 活動支援
実施時期	R2.9.23	R2.11.28	R3.3.20	R3.3.27	R2.8.8	R3.5.22	R3.8.7	R3.12.17
参加者数 (人)	17	29	6	12	79	20	121	22団
実施場所	オンライン	和東町	精華町	精華町	オンライン			—



## 地域緑化イベント開催事業（A-95）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

- (1) 森林の公益的機能の重要性についての普及啓発を図るため、子どもたちを対象にした植樹等の体験イベントの開催を支援した。  
実施主体：非営利活動法人宝塚NISITANI 開催日：令和4年5月5日（祝）  
開催場所：宝塚市境野 県立宝塚西谷の森公園 参加人員：約500人  
内 容  
・子どもたちによるサクラ、イロハモミジ等の植栽  
・竹馬・木のコースターづくりなどの体験学習の実施 等
- (2) 積極的な木材利用によって森林整備を促進し、もって森林の多面的機能の高度発揮を図ることを目的に「第35回ひょうご木材フェア」の開催を支援した。  
実施主体：兵庫県木材利用推進協議会 開催日：令和2年10月10日（土）  
開催場所：神戸市中央区 元町商店街 参加人員：約7,000人
- (3) 内 容  
ア 木材利用によって森林整備が進み、多面的機能が高度に発揮されることに関する展示  
イ 木製遊具や木製玩具等の展示・販売と木工教室の開催 等

## 2. 活動の成果

- (1) 自分たちの手で植えた木がどのように成長していくのか、どのような自然環境になっていくのか、関心を持つとの感想があった。
- (2) 森林を伐採して木材利用することは森林整備の促進につながり、森林の多面的機能の発揮に必要なであるとの理解を深めるきっかけとなった。今後も木材フェアを継続して開催し、県民に木材利用と森林の多面的機能との関係を普及啓発していく必要がある。

## 3. 参加者の声

- (1) 子どもたちが自然にふれることができるよい機会になった。  
植樹した木が成長することが楽しみで、また見に来たい。
- (2) 間伐等森林整備の必要性がよくわかった。  
木材を使って再度植えて育てていくという森林資源の循環利用の仕組みがわかった。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	令和4年5月5日	令和2年10月10日	計	備考
事業量	西谷の森「こどもまつり」	第35回ひょうご木材フェア		
参加者数	約500人	約7,000人	約7,500人	
実施場所	宝塚市	神戸市		

## 「森の誕生日」2021事業（A-100）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

- 全国植樹祭の開催地である大田市で開催する「大田市林業祭」及び「講演会（木育講座）」において、広く県民に「森林保全の大切さ」や「森林の持つ多面的機能」の普及啓発を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催は中止となった。このため、「講演会（木育講座）」を1時間番組として制作し、県内CATV各社で放映することにより、広く県民に森林の大切さや機能について普及啓発することとした。映像コンテンツは以下のとおり
- (1) 森林インストラクターによる講演  
森林インストラクター岩谷美苗氏による「木の日常をのぞいてみよう」と題した講演
- (2) 大田市内緑の少年団の活動状況  
大田市内の「北三瓶オキナグサ愛護少年団」「志学小学校緑の少年団」「池田小学校緑の少年団」による活動状況の報告

## 2. 活動の成果

- 小学生でも理解しやすい内容の講演により、森林の大切さや機能について県民の理解が深まった。
- 「緑の少年団」の活動状況の報告により、県民への「緑の少年団」の認知度向上と取り組みへの理解が深まった。

## 3. 参加者（視聴者）

県内CATV各局の加入世帯数 14局 162,000世帯

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	12月～1月	計	備考
事業量			
参加者数	162,000世帯	162,000世帯	
実施場所	県内CATV14局		

## もりもりクラブ普及活動事業（A-103）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

森林をフィールドに次世代を担う子ども達に五感を使って『もり』を体感してもらい、森林・林業・木材利用に対する興味や関心を持ってもらうことを目的としている。

今年度はコロナ禍の影響で森林を考える岡山県民のつどいが開催されず、体験型事業も実施ができなかった。そのため、キーホルダーづくりといった木工クラフトによる活動またリーフレットを使用し間伐の役割について説明した。

#### 2. 活動の成果

ヒノキを利用したキーホルダーといった普段から身近に使用できるものを提供することで今まで以上に森や木などに対する興味・関心を高めることができた。

今後も同様に木工クラフトを行い、今年度はコロナ禍の影響で実施できなかったが間伐、丸太切り体験などの体験型事業も行っていく。

#### 3. 参加者の声

- ・二酸化炭素を吸収して地球温暖化防止の役割をしていることなど森林の大切さがわかった。(小6・男)
- ・木と木の間に空いていないと光が届かず大きくなれない。間伐がなぜ必要なのかわかった。(小6・男)
- ・間伐の重要性や自然の大切さが実際の体験を通して学ぶことができたと思う。(成人男性)

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	6月27日(日)	備考
事業量	1日	
参加者数	15名	
実施場所	岡山県津山市二宮	

くらしき都市緑化フェア実行委員会

## 第36回くらしき都市緑化フェア（A-104）

### ファンド事業の概要

#### 1. 活動の概要

地球温暖化による環境の破壊を止めるためには、今ある森林を保全し、美しい森づくりを推進する必要がある。そのためには、都市に住む人々にも、森林の機能や緑の重要性について、知ってもらう必要があり、森づくりの推進等のPR活動、各種木工教室、身近な木を使った小物づくり等を行い、広く人々に森林の保全や緑の重要性に対する認識を深めてもらう場を提供した。

#### 2. 活動の成果

新たな体験教室として、樹木医による樹木観察会を実施したところ、幅広い世代に参加していただき、樹木についての関心や知識を深めることができた。例年、実施している森づくりと緑の募金の紹介では、二酸化炭素の吸収や保水性などの森林の機能や木の魅力について、多くの人にPRすることができた。また、次世代を担う子どもに木への関心を高めるために、岡山県産のヒノキを使って、ちびっこ木工教室を開催したり、様々な体験教室で積極的に木材を使用することで、木材の良さを体感してもらった。さらに、庭木の剪定教室を開催し、民地の緑化推進を図るとともに、樹木に関する展示を行い、緑化の普及啓発をすることができた。

今後は、参加する人々によりいっそう身近な緑の重要性を説明し、県産木材をより身近に感じてもらえるような取り組みを行っていききたい。

#### 3. 参加者の声

- ・樹木医による観察会に参加させていただいた。葉脈を手掛かりに樹種を特定する話をお聞きし、今まで葉っぱを注意深く観察することが無かったので、非常に勉強になった。
- ・ちびっこ木工教室で子どもが間伐材、ドングリやマツボックリを使って素敵な家を作らせてもらった。コロナの影響でなかなかイベントが無い中、このような場を提供していただき、有り難かった。
- ・競り市に参加し、ハナミズキの苗木を落札した。手にするとずっしりと重く、しっかりした苗木なので、なんとか来年の春には花を咲かせたい。

### 実績報告とりまとめ表

実施時期	10月25日	備考
事業量	1日	
参加者数	2,978人	
実施場所	岡山県倉敷市寿町12-1 倉敷みらい公園	

## 緑化普及推進事業（C-48）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

「みどりの少年隊交流集会」は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う夏休み期間の短縮により中止したが、「みどりの少年隊指導者研修会」は、指導力の向上を目的に真庭市蒜山下和の津黒高原荘及び津黒いきものふれあいの里で森林インストラクター会による研修プログラム、県保健所による感染症対策、施設等現地調査、意見交換会を実施した。

「みどりの大会」は、広く県民に森林や水に対する認識を深めてもらうことを目的に、毎年開催場所を変更し、今年度は県北部の久米郡美咲町北のまきばの館で開催した。緑化ポスターコンクールの表彰や記念植樹、参加者による植樹活動、木の葉や枝を使った工作などの野外体験活動を行った。

書籍「新岡山の巨樹老樹名木」は4年に及ぶ調査・編集を経て1,000部作製し、県内市町村、図書館等に配布した。うち500部は出版社により販売されている。

また、緑化月間には山陽新聞社の協力を得て、緑化募金や緑化事業、各種緑化イベントのPRを紙面に大きく掲載した。更に今年度新たに岡山駅東西連絡通路に設置されているデジタルサイネージによる広告を行った。

## 2. 活動の成果

みどりの少年隊交流集会は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて中止したが、みどりの大会は、感染症防止対策に十分留意して県との共催により開催した。

県下各地からみどりの少年隊等多くの参加者があり、広く県民に緑化運動をPRできた。

書籍「新岡山の巨樹老樹名木」を1,000部出版し、県内市町村、図書館に配布し、広く県民に向けて樹木への親しみを育む契機となった。

少年隊の研修等については、これからも内容等を充実させて、多くの子供たちや指導者が参加できる企画に取り組みたい。

## 3. 参加者の声

みどりの大会での植樹活動に参加した子供たちからは、「山の斜面に木を植えるのは大変だった。」「木を植えるのは初めてで面白かった。」などの意見が多かった。

書籍「新岡山の巨樹老樹名木」は約40年ぶりの改定でもあり、県内の樹木を紹介する希少な本で購入者からは喜ばれている。

## 実績報告とりまとめ表

行 事 名	みどりの少年隊 交流集会	みどりの少年隊 指導者研修会	みどりの大会	「岡山の巨樹老樹名木」 出版・配布
実施時期	中止	R2.9.4	R2.10.4	R2.7～R2.12
事業量		1日	1日	1000部
参加者数		27人	約160人	
実施場所		真庭市蒜山下和	久米郡美咲町	県内各地

広島県みどり推進機構

## 「みどりの集い」開催事業（A-105）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

自然に親しむとともに、その恩恵に感謝し、豊かな心を育むという主旨を踏まえ、身近な緑とのふれあいや郷土の自然を学ぶことを通じて、みどりを「つくり」「守り」「育てる」意識の醸成を図るため、みどりの効用を体験するイベントを開催した。

体験ブースにおいては、①寄植教室、②粘土で遊ぼう、③親子木工教室、④たね団子を作ろう、⑤ノルディック・ウォーク、⑥空からオオモミジを見よう、⑦森の安全作業を学ぼう等を開催し多くの家族連れで賑わった。

また、販売ブースにおいては、①朝取り野菜と地元加工品、②草花販売等を開催し、好評を博した。

展示コーナーにおいては、広島県、広島市、広島県みどり推進機構、「森林づくり活動・森林の働き」に係るパネル展示及び当該展示に係る質問並びに各種相談会が催された。

感染防止対策として、入口での検温、消毒、連絡先の届出、マスクの着用をお願いし、各ブースに消毒液、飛沫防止シールドを設置

## 2. 活動の成果

森林ボランティア団体・林業関係団体・広島県緑化センター等が、一体となって「みどりの集い」を実施した結果、多くの一般県民の参加があり、森林・緑に対する県民の関心と理解を深めることができた。

秋開催となったが、好天に恵まれ、紅葉も重なり、約3000人の県民の方々に参加していただいた。本年度第25回の開催となり、多くの県民が家族連れで楽しむイベントとなっている。

## 3. 参加者の声

親子木工教室等の体験ブースについては、大人・子供を問わず一生懸命取り組まれていた。作品が家庭に持ち帰り、使えることがメリットであると喜ばれた。

寄植教室については、直ぐに定員オーバーになるなど、根強い人気を感じられた。

体験ブースでは、テント内で多くの家族連れが作品づくりに熱心に取組み、今後も継続を求める声が多かった。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	11月3日	計	備 考
事業量	10:00開会式 各種行事を実施 15:00閉会式		
参加者数	3000人	3000人	
実施場所	広島県広島市東区福田町 ひろしま遊学の森「広島県緑化センター」		

## 森の魅力普及啓発事業（A-113）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

一般県民を対象に、高知県の森の魅力や森林の持つ機能等を広く伝え、森林を守り育てる必要性を啓発するためのイベントや学習会を実施する。

- (1) 森林の持つ多面的機能や山・川・海のつながりを理解し、森林保全への関心を高めることを目的に、森林学習と植樹活動を行った。
- (2) 緑化推進のためのイベントを実施し、木工体験等を通じて森林保全への関心を高めた。

## 2. 活動の成果

- (1) 植樹の前に「山・川・海」のつながりを学習する紙芝居を実施したことで、森林保全への理解が深まった。災害時の避難場所となる場所を景観整備することができ、日頃から住民の憩いの場として樹木の育成に関わってもらうことが期待できる。
- (2) 緑化イベント全体では樹木が地球温暖化防止を抑える働きがあること等を伝えることができた。木工体験では間伐材を使ったカトラリーやアクセサリづくりや竹を使った竹トンボづくりを通じて、樹木の利活用やそれが森林保全につながることを伝えることができた。

## 3. 参加者の声

- ・良い体験ができました。植樹したハナモモの成長が楽しみです。
- ・未来が楽しみになるワクワクした植樹イベントを親子で体験できて思い出になりました。
- ・「山・川・海」のお話が勉強になりました。
- ・木を削ってスプーンを作るのは楽しかった。これからは食器等も木のものを使いたい。
- ・木のかげらを磨くごとにツルツルになって、木の変化を感じる事ができた。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	2月27日	10月9日・10日	4月16日・17日	計
事業量	海を望む城山にハナモモを植えよう	都市緑化祭「木工体験」	みどりの週間行事「木工体験」	
参加者数	61人	97人	147人	305人
実施場所	中土佐町	高知市	高知市	

福岡県水源の森基金

## 福岡県緑化センター 緑の環境教育（A-117-1）

## ファンド事業の概要

## 1. 活動の概要

- (1) 参加者：久留米市立水縄小学校：57名
  - ア 児童：（午前）5年生26名、（午後）6年生27名 計53名
  - イ 教員：（午前）校長・担任2名、（午後）教頭・特別支援教諭2名 計4名
- (2) 実施内容（園内のカイツカイブキの剪定枝等を有効活用）
  - ア 児童を6班に分けて約10名ずつ班別に1サイクル約2.5時間で6回転
    - （午前）①②③班 9:30集合スタート、12:00解散、バス乗車
    - （午後）④⑤⑥班13:00集合スタート、15:30解散、バス乗車

## 2. 活動の成果

- 児童・教諭ともに大変好評であった。
- 当センターの緑地管理を活かした緑の学習・SDGs実践活動を通して児童たちに緑・樹木を大事にする心が育まれ、SDGs「陸の豊かさ等」の普及啓発が推進できた。

## 3. 参加者の声

- 体験後の児童たちの主な感想
  - ・楽しかった。
  - ・自然は人のためになっている。
  - ・緑は循環している。
  - ・植物の香りは様々
  - ・緑は大事なんだと感じた。
- 校長先生の感想
  - ・子どもたちにとって、貴重な楽しい、記憶に残る素晴らしい体験となった。
  - ・校長会で報告したい。

## 実績報告とりまとめ表

実施時期	令和4年5月17日		備考
事業量 又は 事業内容	緑の環境教育 葉：香りの抽出 中枝：チップ化してマルチ材として利用 太枝・幹：コースターとして利用		児童を6班に分けて約10名ずつ班別に1サイクル約2.5時間で6回転
参加者数	県内	57人	
	県外	0人	
	計	57人	
実施場所	久留米市田主丸町福岡県緑化センター		

令和3年度 緑と水の森林ファンド都道府県事業一覧

(単位：千円)

都道府県	区分	番号	事業名	助成額	実行額	備考
北海道	普	A1	青少年育成事業	160	160	
	普	A2	森林・みどり環境教育推進事業	0	0	事業中止
	普	A3	「美遊の森」体験学習事業	100	100	
	普	A4	きのご観察会	100	100	
	普	A5	お魚増やす植樹運動促進事業	300	300	
	普	A6	森林公園観察会	150	150	
	普	A7	「遊々の森」での森林体験事業	0	0	事業中止
	普	A8	森林ボランティア活動推進事業	400	400	
	普	A9	旭山希少種調査・保護、生物多様性保全事業	160	160	
	普	A10	☆「羊蹄里山の森」における森づくり・森林空間利用事業	140	140	
	普	A11	☆定山渓遊々の森を活用したプログラム	300	300	
	普	A12	野幌自然休養林再生事業を中心とした普及啓発事業	80	80	
	普	A13	次世代に引き継ぐ森林づくり事業	200	200	
	普	A14	北海道指導林家社会貢献緑化推進事業	100	100	
	普	A15	町有林・げんきの森育樹事業	130	130	
	普	A16	身近な森林再発見	200	200	
	普	A17	木育講座	300	300	
	普	A18	ひやま木育フェスタ in 厚沢部	50	50	
	普	A19	木になるフェスティバル	170	170	
	普	A20	普及啓発事業	0	0	
	普	A21	森と人をつなぐ事業	140	140	
	普	A22	「望の森」森林浴の集い	100	100	
	普	A23	枝幸町民植樹祭	0	0	
	普	A24	生物多様性の保全を目指したオホーツクの森づくり事業	110	110	
	普	A25	緑の少年団なかしべつ冒険クラブ事業	50	50	
	普	A26	☆森林環境教育推進事業	440	440	
	普	A27	木育ひろば in チ・カ・ホ	500	500	
	普	A28	北海道木育フェスタ推進事業	500	500	
	普	A29	道民森づくりのつとめ2021	830	830	
	普	A30	☆森林・林業・木材産業の魅力発信事業	150	300	
	調	B1	☆木材の有効利用のための燻煙乾燥炉の開発	200	200	
	調	B2	☆環境に配慮した作業道開設研修事業	200	200	
	基	C1	馬追自然の森整備事業	50	50	
	基	C2	里見緑地内植樹・環境整備事業	60	60	
	基	C3	台風被災森林の植栽及び育林活動	80	80	
	基	C4	☆恵庭かわまちづくり植栽事業	300	300	
	基	C5	コンサ百年の森づくり事業	0	0	
	基	C6	☆「ふるさと復興の森づくり@厚真町」事業	100	100	
	基	C7	地球環境のための森林保全事業	80	80	
	基	C8	☆北進の森づくり事業	0	0	
	基	C9	☆馬と森づくり事業	300	300	
	基	C10	新ひだか町営林友の会森林づくり事業	60	60	
基	C11	「おさかなの森づくり運動」事業	120	120		
基	C12	五稜郭保安林清掃事業	60	60		
基	C13	サケの上る森づくり植樹祭	0	0		
基	C14	赤岩青巖峡環境整備事業	120	120		
基	C15	ユネスコの森づくり	50	50		
基	C16	風倒被害を軽減し野幌の自然豊かな森づくり	80	80		
基	C17	「帯広の森」づくり事業	100	100		
基	C18	☆帯広の森・カーボンニュートラル促進事業	150	150		
基	C19	☆森は海の恋人植樹事業	250	250		
基	C20	☆十勝・桜の山プロジェクト	200	200		
基	C21	☆学校緑化委事業	280	280		
青森	普	A29	青森県森林づくり推進体験活動事業	1,000	1,000	
	普	A30	木と人のふれあい事業	960	960	
岩手	普	A31	令和4年度遠野市緑化祭	200	200	
	普	A32	城内山健康の森事業	250	250	
	普	A33	一関地方育樹祭	250	250	
	普	A34	ふるさとの巨樹・名木観察会	200	200	
	普	A35	第52回岩手県緑の少年団大会	1,750	1,750	
宮城	基	C21	宮城県みどりの少年団大会開催事業	2,040	2,040	
	普	A36	緑と水のキャンペーン事業	1,250	1,250	
秋田	普	A37	市民グループ森林づくり活動事業	700	700	
	基	C22	緑の少年団育成事業	450	450	
	基	C23	森林活動指導者支援事業	250	250	
山形	普	A38	(山形県緑の少年団交流研修支援事業) 山形県緑の少年団育成支援事業	980	980	
	普	A39	(山形県林業まつり開催事業) 森づくりと緑化し威信普及啓発事業	720	720	
	普	A40	庄内森とみどりのフェスティバル開催事業	260	260	

(単位：千円)

福島	普	A41	緑化普及啓発事業	900	900	
	普	A42	森林・林業とのふれあい事業	700	700	
	普	A43	ファミリー緑の教室開催事業	200	200	
	普	A44	ふくしま緑の醸成事業	400	400	
	普	A45	次世代を担う子供たちによる森林づくり会議開催事業	0	0	
茨城	基	C24	都市と農村の交流事業	900	900	
	普	A46	青少年に対する林業普及啓発資材の配布事業	150	150	
	普	A47	緑の体験教室開催事業	350	350	
	普	A48	グリーンフェスティバル開催事業	600	600	
	基	C25	森林ボランティア育成事業	300	300	
栃木	基	C26	山村地域づくり活動助成事業	550	550	
	基	C27	緑化樹木等苗木無償配布事業	410	410	
	普	A49	森林・緑・水に対する国民の認識を深めるための普及啓発事業	1,840	1,840	
群馬	基	C28	青少年の教育の場としての森林の活用促進事業	200	200	
	普	A50	群馬県植樹祭開催事業	850	850	
埼玉	普	A51	森と木のまつり事業	0	0	
	普	A51	「木育」活動促進事業	500	0	
	普	A52	巨樹・古木巡りツアー事業	700	700	
	普	A53	緑の少年団活動活性化事業	480	480	
千葉	普	A54	さいたま森林フォトコンテスト事業	1,550	1,550	
	普	A55	緑の少年団育成事業	170	170	
	普	A56	緑化普及啓発事業	690	690	
東京	普	A57	木づかい推進・普及啓発事業	1,145	1,145	
	普	A58	森林林業技術講習会	130	130	
神奈川	基	C29	千葉県みどりの少年団交流会事業	485	485	
新潟	調	B3	ふるさとの杜活力調査事業	2,250	2,249	
富山			該当無し	0	0	
	普	A59	普及啓発卒寿の森づくり事業	673	673	
	普	A60	にいがた緑の百年物語普及啓発事業（秋期）	1,396	1,359	
	普	A61	にいがた緑の百年物語普及啓発事業（春期）	1,668	1,668	
石川	普	A62	緑化団体活動周知・地理情報活用事業	423	423	
	普	A63	森林・木材等普及啓発事業	1,380	1,380	
	基	C30	花とみどりの少年団活動支援事業	300	300	
福井	基	C31	森づくりグループ活動支援事業	50	50	
	普	A64	緑化思想の普及啓発事業	120	120	
	基	C32	県内産緑化苗木無償配布事業	190	190	
山梨	基	C33	森づくりボランティア・キャンペーン事業	1,450	1,450	
	普	A65	もりとふれあい推進事業	1,370	1,370	
長野	基	C34	ふくいの森林づくり推進事業	500	500	
	普	A66	教職員森林・林業研修事業	140	140	
	普	A67	緑の少年隊活動発表会大会開催	160	160	
	普	A68	緑化ポスターコンクール等開催	280	280	
	普	A69	子ども樹木博士認定事業	280	280	
	普	A70	親子緑の集い開催	350	350	
	普	A71	☆親子森林・林業体験教室開催事業	210	210	
岐阜	普	A72	☆森林環境教育プログラム発刊事業	910	910	
	普	A73	緑・森林の感謝祭等開催事業及び児童啓発事業	4,160	4,160	
静岡	普	A74	緑化推進キャンペーンと資材供給事業	1,650	1,650	
	普	A75	みどりの啓蒙推進事業	0	0	事業中止
	基	C3	恵みの森づくり事業	1,530	1,435	
愛知	普	A76	森づくり県民大作戦支援事業	840	840	
	基	C36	緑の少年団交流集会開催事業	2,500	2,500	
	普	A77	みどりに親しむ集い事業	300	300	
	普	A78	みどりフェスティバル'21秋・'22春事業	950	950	
三重	普	A79	苗木の育成と配布事業（愛知県植樹祭）	900	900	
	調	B4	ふるさと樹木診断事業	1,070	1,070	
	基	C37	森林ボランティア養成事業	610	610	
	普	A80	緑の少年隊活動推進	423	423	
	普	A81	森林教室開催	265	265	
滋賀	普	A82	森林ボランティア活動促進	592	592	
	普	A83	県民参加の植樹祭開催事業	579	579	
	普	A83.1	海・山連携植樹活動実施	551	551	
京都	調	C38	緑の少年団育成事業	2,250	2,250	
大阪	普	A84	京都モデルフォレスト運動連携強化事業	2,000		期間延長
	普	A85	☆自然環境保全団体ネットワーク事業	300	300	
兵庫	普	A86	府民参加の森林づくり	2,550	2,550	
	普	A87	地域緑化イベント開催事業	400	400	
奈良	基	C39	森林整備・緑化活動支援事業	2,540	2,540	
	普	A88	森の文化活動事業	1,510	1,510	
和歌山	基	C40	ボランティア活動推進事業	200	200	
	普	89	普及啓発事業	1,245	1,245	
	基	C41	活動基盤の整備	1,085	1,075	

(単位：千円)

鳥取	普	A90	樹名板設置事業	236	236	
	普	A91	木工工作キット配布事業	1,456	1,456	
	基	C42	青少年・民間活動グループの育成支援事業	0	0	事業中止
鳥根	基	C43	森林空間活用推進事業	148	148	
	普	A92	「森の誕生日」2022 事業	400	400	
岡山	基	C44	緑の少年団育成強化事業	1,400	1,400	
	普	A93	森林を考える岡山県民のつどい	0	0	事業中止
	普	A94	県産木材フェア開催事業	500	500	
広島	普	A95	くらしき都市緑化フェア	550	550	
	基	C45	緑化普及推進事業	1,440	1,440	
	普	A96	「みどりの集い」開催事業	1,630	1,630	
山口	普	A97	☆「ひろもくデザインアワード」開催事業	500	500	
	基	C46	緑の少年団交流集会開催事業	890	890	
	普	A98	森林体験学習支援事業	640	640	
徳島	基	C47	都市と山村ふれあい交流促進事業	360	360	
	基	C48	記念の森造成事業	1,000	1,000	
	基	C49	企業の森づくり普及啓発イベント事業	1,960	1,960	
香川	普	A99	緑化普及活動事業	1,410	1,410	
愛媛	普	A100	木工作品製作キット配布事業	1,880	1,880	
	普	A101	愛媛の森林友の会の育成及び研修活動	200	200	
高知	普	A102	土佐の名所の樹木活性化事業	600	600	
	普	A103	森のようちえん推進事業	490	490	
	普	A104	森の魅力普及啓発事業	740	740	
	普	A105	高知県森林インストラクター養成講座	400	400	
	基	C50	地域の森林整備事業	60	60	
福岡	基	C51	活動基盤整備推進事業	40	40	
	普	A106	森林ふれあい交流	420	420	
	普	A107	グリーンフェスティバル 2022	570	570	
	普	A108	第3 1 回世界子ども愛樹祭コンクール	300	300	
	普	A109	第9回もりもり広がる森林づくり	300	300	
	普	A110	☆花立山の里山保全作業	350	350	
	普	A111	☆宝珠山百年の森づくり記念植樹 i	350	332	
佐賀	基	C52	里まちサイクルプロジェクト	400	400	
	普	A112	よかウッドフェスタ開催事業	1,311	1,311	
長崎	基	C53	緑の探検学習会開催事業	479	479	
	普	A113	森林のつどい事業	1,360	1,360	
	基	C54	緑の少年団活動活性化事業	1,410	1,410	
熊本	基	C55	森のめぐみいきいき活用促進事業	0	0	
	普	A114	くまもと森づくり普及啓発事業	1,000	1,000	
	基	C56	緑の少年団活動育成事業	1,090	1,090	
	基	C57	シンボル森林の活用促進事業	289	289	
	基	C57-1	シンボル森林の活用促進事業(2)	311	311	
大分	普	A114-1	立田山グリーンウォーク	0	0	
	普	A115	ふれあい森林教室	650	650	
	普	A116	木と暮らしのフェア	80	80	
	普	A117	☆大分県みどりの少年団のつどい	250	250	
	調	B5	名木保全事業	910	910	
宮崎	基	C58	森林ボランティアリーダー養成研修	150	150	
	普	A118	緑と花のふれあい推進事業	2,370	2,370	
	普	A119	森林浴癒しの集い事業	280	280	
鹿児島	普	A120	かごしまの緑・元気な森林体験事業	1,630	1,630	
	調	B6	かごしまの名木古木樹勢診断事業	250	250	
	基	C59	活力ある緑の少年団活動促進事業	700	700	
	基	C60	森林ボランティア活動促進事業	1,050	1,050	
沖縄	普	A121	令和3年度緑の育樹祭開催事業	870	870	
	普	A122	学校環境緑化特別事業	600	600	
			合 計			

令和2年度 緑と水の森林ファンド都道府県事業一覧

(単位：千円)

都道府県	区分	番号	事業名	助成額	実行額	備考
北海道	普	A10	森林公園観察会	75	75	
	普	A13	☆持続発展教育（ESD）に向けた木育の取組	145	145	
	普	A16	身近な森林再発見事業	200	200	
	普	A17	☆里山保全の担い手づくり普及促進事業	200	200	
	普	A22	市民参加による協働の森づくり事業	120	120	
	普	A26	森林を活用した青少年育成対策事業	100	100	
	普	A27	森林及び木製遊具体験事業	130	130	
	普	A30	緑化団体ネットワーク推進事業	50	50	
	普	A33	北海道木育フェスタ推進事業	593	593	
	基	C2	清流と魚を守る森林（もり）づくり造成事業	64	64	
	基	C12	未来に向かって日高の森林づくり事業	50	50	
岩手	普	A38	☆木工・クラフト体験	300	300	
福島	基	C27	都市と農村の交流事業	1,400	1,311	
群馬	普	A54	群馬県植樹祭開催事業	850	850	
	普	A55-1	「木育」活動促進事業	500	500	
長野	普	A78	緑・森林の感謝祭等開催事業及び児童啓発事業	4,160	4,160	
岐阜	普	A80	みどりの啓蒙推進事業	61	61	
京都	普	A91	京都モデルフォレスト運動連携強化事業	2,000	2,000	
兵庫	普	A95	地域緑化イベント開催事業	400	400	
島根	普	A100	「森の誕生日」2021事業	600	600	
岡山	普	A103	もりもりクラブ普及活動事業	30	30	
	普	A104	くらしき都市緑化フェア	550	550	
	基	C48	緑化普及推進事業	1,410	1,410	
広島	普	A105	「みどりの集い」開催事業	1,750	1,750	
高知	普	A113	森の魅力普及啓発事業	613	613	
福岡	普	A117-1	福岡県緑化センター緑の環境教育	570	570	



国 緑 3 第 2 号  
令和3年 2月1日

都道府県緑化推進委員会 様

公益社団法人 国土緑化推進機構  
理事長 濱田 純一

令和3年度「緑と水の森林ファンド」都道府県事業の助成申請について

令和3年度「緑と水の森林ファンド」都道府県事業の要望につきましては、別添「令和3年度緑と水の森林ファンド都道府県事業実施要領」（以下、「要領」という。）を踏まえ、[様式1]により令和3年4月9日（金）までに提出してください。

なお、最近の厳しい経済情勢から森林ファンド運用収入が減少傾向で推移しております。事業の助成申請に当たっては、必要性・効率性等に十分留意されますようお願いいたします。

また、具体的事業内容につきましては、地域の実態・特性を十分考慮するとともに重点課題（別添「要領」のⅡ）の趣旨を踏まえて申請するよう併せてお願いいたします。

（提出に当たっては、メール（データ、PDF）、印略にても受け付けます。）

担当：基金業務 井上  
03（3262）8457  
E-mail: inoue@green.or.jp

## 令和3年度「緑と水の森林ファンド」都道府県事業実施要領

### I 基本方針

社会環境の変化に伴い、国民の森林・みどりに対する関心はますます高まっており、具体的な「国民参加の森林づくり運動」を一層推進することが課題となっています。

平成24年12月「国際森林デー」の制定、平成25年11月「国連持続可能な開発のための教育10年（ESD）」世界会議等の意義、平成27年9月の国連サミットで採択された17の国際目標（SDGs：持続可能な開発目標）、人生100年時代におけるライフステージに応じた健康・教育・観光等への森林利用の促進を念頭に、森林の重要性に対する理解の推進を図るとともに、森のようちえんなど新たな森林の利用や森林環境教育の推進を具体的に図っていくことが重要となっています。さらに、東日本大震災では海岸林が多大な被害を受け、森林復興への支援が引き続き求められています。

このような中、公益社団法人国土緑化推進機構では、「緑と水の森林ファンド」の基本課題である森林資源の整備及びこれらを通じた水資源のかん養や森林の利用等に関する総合的な調査研究、普及啓発、基盤整備等の推進を図るため、民間団体の主体的・多様な参加による「国民参加の森林づくり」運動を展開することとし、以下により「緑と水の森林ファンド」都道府県事業を実施します。

### II 重点課題の設定

令和3年度においては、以下の重点課題を設け、これらのテーマに沿った事業を重点的に実施することとします。

- ① 「森林環境教育（森のようちえんを含む）」、「震災復興支援」、「地域材の利用」、「地球温暖化防止と森林」、「森林と水」、「森林の利用」等の課題にポイントを置いた総合的・効率的な普及・啓発
- ② 地域材の利用推進、森林空間の教育的利用等山村資源の有効活用等による山村地域の活性化
- ③ リーダーの養成等の森林ボランティア活動支援
- ④ 学校林活動や緑の少年団活動の推進など森林環境教育（森のようちえんを含む）等による次世代の育成
- ⑤ 森林の公益的機能、木質バイオマス、森林環境教育等に関する調査研究

### Ⅲ 具体的な事業の展開

普及啓発、調査研究、活動基盤の整備、国際交流の四分野において、以下の事業を重点的に実施する。

#### 1 普及啓発事業

- (1) 森林・緑・水に対する国民の認識を深めるための普及啓発活動
- (2) 青少年を対象とする森林 ESD の推進（森のようちえんを含む）など森林環境教育の促進
- (3) 森林づくり活動や森林の総合的利用を通じた山村地域の活性化・地域づくり運動の推進
- (4) 地域材の利用・木材需要の拡大、古紙利用等の推進

#### 2 調査研究

- (1) 森林の保全・公益的機能の増進等に関する調査研究
- (2) 青少年を対象とする森林 ESD の推進（森のようちえんを含む）など森林環境教育に関する調査研究
- (3) 学校林や学校周辺林の教育的活用のための調査研究
- (4) 山村資源の有効活用・地場産業の振興等山村地域活性化に関する調査研究

#### 3 活動基盤の整備

- (1) 森林 ESD の推進（森のようちえんを含む）や緑の少年団活動など森林ボランティアリーダーの養成・ネットワーク構築等の活動支援
- (2) 森林づくり活動を通じた農山村と都市住民等との交流促進
- (3) 青少年の教育の場としての森林の活用促進
- (4) 地域のシンボリック森林の利用促進

#### 4 国際交流

- (1) 国内で開催される森林・環境に関する国際会議への支援
- (2) 森林・林業に関する海外との情報交換

### Ⅳ 事業の適切な実施

令和3年度も厳しい予算事情にあることから、事業の必要性、緊急性、効率性、独自性や地域の特性等を十分考慮し、適切な実施に努めるものとする。

緑と水の森林ファンド都道府県事業 報告集 Vol. 11

令和 5 年 6 月発行

発行 公益社団法人 国土緑化推進機構

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-4 砂防会館別館

TEL.03-6362-8457 FAX.03-3264-3974

電子メールアドレス : [info@green.or.jp](mailto:info@green.or.jp)

URL : <https://www.green.or.jp>





緑と水の森林ファンド



道民森づくりの集い 2021  
北海道森と緑の会（北海道札幌市）